

戰史・艦内防御参考書

海上自衛隊第二種科

海自幹部学校



3 0 0 0 1 8 2 3

Q-05
254
1

整理番号 術横研教参第3号
小番号 18
発行部数 150
発行年月日 31. 12. 1



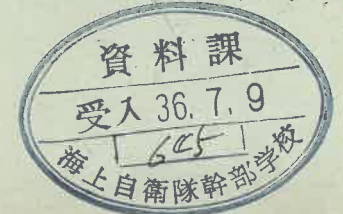
戦艦内防史参考書

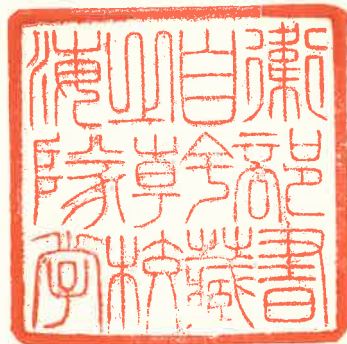
(大東亞戦争中の水上艦艇戦闘被害の集計)

(昭和31年12月1日)

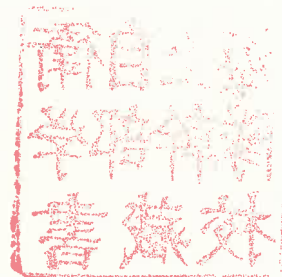


海上自衛隊術科学学校横須賀分校





2
5983



戦艦内防史御参考書

(大東亞戦争中の水上艦艇戦闘被害の集計)

(昭和31年12月1日)



海上自衛隊術科学学校横須賀分校

序

本資料の企画する所は第2次大戦に於ける詳細な応急戦史編さんの礎石を築くことにあつたが範囲が尨大なるため首題の事項に限定して採録したものである。

編さんに当って術科幹校図書室現有の参考文献は日本を問わず殆ど渉猟してある外特に遠敵乃至破毀に瀕する旧2隻の資料を収集し既刊の文献と照合整理して今迄懸念研修の基礎を築いたことは極めて貴重な業績であると思ふ。

此の種の見地から資料をまとめたものは現在未だ昏蒙の状況であり海上自衛隊に於ける術科研究分析上の基礎として必要につき本資料を戦史及び艦内防衛参考書として印刷配布するのを適当と認める。

応急科主任教官

二等海佐 大 迫 吉 二

総目次

序 言	4
被害の概要	5
1. 全般	5
2. 大型艦艇	6
3. 駆逐艦	8
4. その他の艦艇	8
第1編 日本艦艇沈没(喪失)の状況	11
第2編 連合国艦艇沈没(喪失)の状況	63
第3編 日本艦艇損傷(沈没喪失以外)の状況	109
第4編 連合国艦艇損傷(沈没喪失以外)の状況	181

艦種 T --- 水上艦艇魚雷 T(A) --- 航空魚雷
 T(B) --- 魚雷艇魚雷 T(S) --- 潜水艦魚雷
 B --- 爆弾 B⁸⁰⁰ --- 日本側 800Kg 爆弾
 B¹⁰⁰⁰ --- 連合国側 1000ポンド爆弾 S --- 砲弾
 R --- ロケット弾 M --- 水雷
 記 --- 状況記事のあるもの

参考文献

1. 日本側

- (1) 大東亞戦争中の日本艦艇被害記録 (旧艦本高野事務官メモ)
 - (2) 艦艇被害電報綴 13巻 (旧海軍人事局所蔵のもの)
 - (3) 太平洋戦争日本海軍戦史 才2復員局残務処理部編
 - (4) 証言記録太平洋戦争史 (艦隊作戦篇) 幹 枝
 - (5) 大本營発表海軍篇 艦永 謙 吾
 - (6) 造船技術の全貌 福井 静夫 他
 - (7) 神風特別攻撃隊 猪口 汀平 他
 - (8) 帝国海軍の最後 塚 為一
 - (9) ミンドウエー 淵田 美津雄
- その他図書館所蔵戦記類

2. 米側

- (1) *United States Naval Operations in World War II*
(Morrison)
- (2) *United States Destroyer Operations in World War II*
(Theodore Roscoe)
- (3) *United States Submarine Operations in World War II*
(Theodore Roscoe)
- (4) *Battle Report* (Kariig 他)
- (5) *The Campaign of the Pacific War*
(United States Strategic Bombing Survey)
- (6) *U. S. Navy at War* (King)
- (7) *Fighting Ships* (Jane)

大東亞戦争に於ける水上艦艇戦闘被害の集計

序 言

凡そ応急を學ぼうとする者は復らく戦史戦訓を研究すべきであるとは諸先輩の常に教示せられる所である。

オ1次大戦は甚多の被害を生み、その結果艦内防御は長足の進歩を遂げたのであるが、オ2次大戦に於ては全くそれを顔色をからしめる空前絶後の大戦斗被害を生ずるに至つた。その全ぼう

を極めるには戦史室の陣容を以てしても数年を要する作業である。

しかし何としても防御研究の足掛りとして不完全でも早くその大要を整理し資料的に研究者が利用出来る資料を依らねばならぬ。よつて今回は範圍を大東亞戦争の水上艦艇戦闘被害に限定し、5ヶ月の学生期間内に出来る限りの資料を収集した。

資料収集範圍は衛校幹校図書室及び引揚撥置局業務2課(旧2復)を主とし、個人的質問も若干採用した。

何分にも期間は短く而も此の問題のみに従事することが出来なかつたので未だ不満足の感を免れぬが今後の研究の基礎として敢て発表する次第である。これが更に調査の結果次々に修正されより完全な応急戦史として完成され海上自衛隊全般に広く活用されることを切望する。今回未着手であつた大西洋に於ける戦斗被害、特務艦艇、商船、潜水艦についても今後研究分析を必要とする。

被害の概要

1. 全 概

(1) 被害艦艇数が莫大である。即ち集計した艦艇は沈没(喪失)については日本側 447 隻、連合国側 103 隻 沈没喪失に至らなかつた損傷については日本側 521 隻 連合国側 477 隻 合計 998 隻に達した。尚この数字は調査が進むにつれ必ず増加するので、これが最終決定数ではない。

此の数字をみると日本側の大数のように見受けられるが、連合国側については小艦艇の資料が不充分であり、又行動に支障を来さなかつた小損傷は文献に表われていないので、沈没に至らぬ損傷艦の数字は寧ろ連合国側が大きいものと認められる。

しかし沈没(喪失)艦は明らかに彼等に少く防御上研究すべき多大の向題点を包蔵しているのである。

(2) 双方共航空攻撃による被害が過半を占め、特に損傷に於て著しい。

(3) 特攻艇が如何に連合国側を戦慄せしめたかは今更何ら驚くべきものがあり、此の戦果を明確にすることは殉国の英靈に対する最大の供養であらう。

(4) 潜水艦による被害が、両軍に余りにも懸隔が甚しいのは原因は種々あるとは言へ真に長歎を禁じ得ない。

(5) 沈没率(沈没/被害)は潜水艦雷撃が最大で水上戦斗がオ2位続いて航空攻撃であるが、これは潜水艦雷撃の数分の1に過ぎない。水上戦斗の沈没率が航空攻撃のそれより大なるのは、攻撃持続時間が大で一方が重滅される迄戦う場合が多いためと思われる。

(6) 20年春頃よりB-29の投下による特雷被害が日本側に顕著になつてはいるが、感応特雷による沈没率は各種攻撃中最小であり、特雷の効果の判定には慎重を要するものと思われる。

(7) 時期的に見て日本側の被害は、17,8年のソロモン戦に於ける

駆逐艦を主としたものと、最後の1年の海上義行中に多く、連合国側はレイテ上陸以後に於ける損傷が全体の7割を占めて居り、比島沖海戦が如何に強引な作戦であったかが覗かれると共に、戦勢既に決定的に我に不利となつて、尚もかゝる戦果を挙げた苦闘の有様は今更断腸の感が深いものがある。

2. 大型艦艇

- (1) 戦艦、空母の被害は連合国側に多く、日本側の攻撃の重点が此の両艦種に集中されたことを示している。
- (2) 戦艦は双方共絶大な防御力を發揮し、特に武蔵、大和に於て最たるものがあつた。其の他も概ね日本側では少くも爆弾10発16"砲弾9以上によつて沈没し、連合国側も同様の被害で沈没しているが、例外的に金剛が僅か魚雷2本、カリフォルニアが比較的小被害で沈んで居るのは色々問題点を残している。
- (3) 米海軍に於ける巡洋艦以上の航空攻撃による沈没には悉く魚雷が致命傷となつて居る。日本の如く爆弾のみによる沈没がないことは、防御力の優秀さを物語るものと云えよう。
- (4) 大口空砲を有する比叻、霧島が、駆逐艦の5"砲の連射に対し大なる反響を加へ得ずして戦斗力を喪失したことは顕著な現象であり、戦術上の研究問題である。
- (5) ハワイ、マレー沖海戦以後連合国側の戦艦に1隻の沈没もないことは日本側の攻撃が不徹底であつたことにもよるが、防御力の優れていたことも見逃せない。
- (6) 空母は種々防御上の弱点を有する艦種であり、僅かの命中弾により日本側はミッドウエーに於て致命的損害を受け、連合国側もしキニントン、ワスプ、リスコムベ、プリンストンの4隻が誘爆によつて沈没している。緒戦期の苦杯にも拘らず、以後の日本側の防御に対する努力は思わしくなく、被害喪失の状況には反省すべき点が多い。中でも顕著な例は大鳳、信濃という最も強大であるべき2隻である。却つて弱いと思われた特設空母の喪失が魚雷3本、軍艦、飛龍が2本を受け乍ら沈没を免

れて居る。爆弾では翔程が4発に耐えたのが最大で、これだけしか耐弾力がないとは少々心細い。

以上に反し連合国側は直に戦訓を採り入れて防御施設の大改造を行い、太平洋に現れた正規空母の殆ど全部22隻に延35回の被害を受け乍ら4隻しか沈没せず、サラトガの如く特攻5発800kg爆弾1発に耐えたことは驚異的である。その他イントレピッド、タイコンデロガ、バンカーヒル、英ツオーミダブル、フランクリン等何れも日本側では裏切と発表されたものであるが、何れも19年末以降のことであり、その頃より戦訓の活用により空母の防御力が格段の進歩を見せて居ることは見逃せない。

- (7) 重巡については日本側の10,000トン級は優秀な防御力を示した。沈没率は米側に比較しても優れたものである。沈没直に喫した魚雷平均4本は戦艦、空母に比しても何等遜色はない。古鷹が6"砲弾、羽黒が5"砲弾で沈没した以外は概ねい戦斗により沈没し、大被害を受け乍ら沈没しなかつた例としても最上、熊野、高城、青葉、築摩を挙げることが出来る。
 - (8) 連合国側の重巡もノーザムプトン、インディアナポリスの各魚雷2発を除いては大被害による止むを得ぬ沈没である。水上戦斗による沈没が7隻を算し我が砲雷戦の威力を遺憾なく示している。
 - (9) 夕張以降の新軽巡が寧ろ重巡としての防御力を示しているのに反し、5,500トン級の弱さが目立つ。(新軽巡は延21隻の被害に沈没5)受け得る魚雷は2本迄のようである。至近弾による被害が顕著になり始めるのも此の艦種であり、航空攻撃による延30隻の損傷中実に14隻は至近弾のみ、4隻は命中弾との複合被害である。
- 5,500トン級が特に潜水艦に対して脆弱であつたことは研究を要する。
- (10) 連合国側の軽巡は重巡と同様沈没原因の最大は水上戦斗であ

る。中でも93式魚雷による4隻が轟沈していることは、その威力を雄弁に物語るものである。

3. 駆逐艦

(1) 日本側は駆逐艦の用法を誤り、或は止むを得ず強引な行動をさせたことにより甚大な損害を蒙った。連合軍側も此の艦隊が最大の被害を受け、幾多の教訓を残した。

(2) 日本側の駆逐艦は艦型により防御力に著しい差異が認められる。2等駆逐艦は別として沈没率の最大は特型であり次で甲型、旧式1等駆逐艦となっており、罔らずも兵装に無理をした傾奇となっている。乙型になるとずっと少くこれは艦型が大なる新艦と同等と見られるのでなすけりとして、戦時急造で雑木林と悪口された丁型駆逐艦が連合軍駆逐艦の26.7%を下回る25.7%という優秀な沈没率を示したことは特筆すべきことであり、小艦隊の構造に大いに参考とすべき点である。丁型が特型の1/2以下の沈没率に止まったことは、機関室の配列が大いに影響していることは明らかである。

(3) 日本側が魚雷2本の命中に生じた例として、天津丸、潮(2号) 秋月があり、1本の場合は多くの例がある。連合軍側も特攻艇に対し頑強な抵抗力を示し、1本の命中では殆ど沈没に至らず、ラフィの如く9本の命中にも沈まなかった驚くべき実例さえある。ニューコムも又3本の命中による被害を克服している。

(4) 駆逐艦沈没の原因は日本側は航空攻撃が圧倒的であるが、連合軍側は水上戦々と航空攻撃が互同教を示している。

(5) 至近弾被害が極めて多く、損傷表には至近と記されたものの外、小破とのみ記されたものの大部分は至近弾によるものと想像され、航空攻撃による損傷の過半を占めるといえることができる。演習審判に於ても考慮すべき事項である。至近弾のみで沈没したもののさへある。

4. その他の艦隊

(1) 日本側の海防艦は流石に水上戦による沈没は1隻もないが、潜水艦による沈没が最も多いとは幾何艦として不甲斐ない話である。

(2) 最も工数を節約した戦時急造艦の丁型海防艦が特に魚雷に対し優秀な防御力(21隻被害中生残り9隻)を發揮し、大型艦隊を顔色をからしめているのは驚嘆に値すると共に皮肉な現象でもある。又丙型の25号が2本の命中に生残っていることは亦急関係者を奮起せしめるに充分である。

(3) 日本側はその地敷設艦、潜水母艦、駆潜艇を除き何れも沈没率は50%以上を示し、殆ど消耗品同様の衰失で、応急上見るべき成果はない。米側もAV、DMS、DE、DMLを除くと損傷の資料が少ないため、沈没率は高くなっている。

(4) 震洋による被害はLCS3隻、PC1隻が沈没し、DD2隻、LCS1隻の損傷が記録されているのみであるが、特務艦隊の被害が沖縄戦で沈没し、損傷5と米側で発表している。

期待された回天は艦隊の被害は米側に記録がなく、ウルシーで油槽船1隻沈没。アドミラルティで弾薬船1隻がそれらしいと発表されているのみである。后者は4000トンの爆薬の誘爆によりDE1隻、特務艦3隻を含む34隻の艦船が沈没又は損傷し、本船は隊形もなく吹飛んで、海面に1街区の長さに亘り1150' 深さ30'の大穴を生じたと記されている。又DEアンダーヒルの沈没は特務又は回天と云われている。

附 記

戦闘被害の外に衝突、坐礁、荒天等、事故による被害がこのような大規模な戦争には驚く程多く発生する。

日本側では駆逐艦白露の衝突による沈没の外、約100件に達し、米側もRDパーキンスを衝突で、同ウォーデンを坐礁で、同モナガン、スペインスハルを颯風で喪失している外、沖縄戦だけでもOperationalの事故により喪失2、損傷28、台風による損傷39と、

(10)

戦斗によるものの半数近い被害を記録している。これ等は免稱忘れられ勝であるが、戦時には無視することができない大きな数字となることを銘記すべきである。

117

第 一 編

日本艦艇沈没

(喪失)の状況

日本艦艇沈没(喪失)数一覽表

艦種	攻撃種別	航空攻撃	水上戦闘	潜水艦襲撃	被雷	原因不明	合計
戦艦	艦	5	4	1			10
航空母艦	艦	9		10	1		20
重巡洋艦	艦	10	2	4			16
輕巡洋艦	艦	7	3	10			20
旧式1等駆逐艦	艦	13	2	12			27
特型駆逐艦	艦	9	3	8	1		21
甲丙型駆逐艦	艦	25	16	16	4	2	63
乙型	艦	2	3	1			6
丁型	艦	5	2	1	1		9
2等	艦	2		4			6
甲型海防艦	艦	2		7			9
乙型	艦	3		9	1		13
丙型	艦	16		11			27
丁型	艦	11		12		2	25
哨戒艇	艇	4	1	7		1	13
水上機母艦	艦	2		1			3
潛水母艦	艦			1			1
旧式反潜艇	艇	5		1			6
敷設艦	艦	1		6			7
1等輸送艦	艦	10	2	3			15
2等	艦	24	4	6			34
水雷艇	艇	5		5			10
掃海艇	艇	13	2	10	3	1	29
敷設艇	艇	6	1	7			14
駆逐潛艇	艇	23	5	7		2	37
砲台艦	艦	4		1	1		6
合計	計	216	50	161	12	8	447

日本艦艇沈没(喪失)表 ---- 航空攻撃の部

艦種	年月日	地味又は海戦名	艦艇名	命中兵器	記事
戦	44.10.24	ンスヤン海	武蔵	T(A)X16 Bx17 B近x14	記
"	45.4.7	30-47N/28-8E	大和	T(A)X11 B(1)X8 B(2)X7以上	"
"	45.7.24	吳附近	伊勢	Bx19	"
"	"	"	日向	Bx10 B近x20-30	"
"	45.7.28	"	榛名	Bx8	"
空母	42.5.7	珊瑚海	祥鳳	T(A)X7 Bx11	"
"	42.6.6	ミッドウェイ	赤城	Bx3	"
"	"	"	蒼竜	Bx3	"
"	"	"	飛竜	Bx4	"
"	42.8.24	オ2次ソロモン	電撃	T(A)X1x3 Bx10(全LR1,000)	"
"	44.10.25	比島沖	瑞彦	T(A)X7 Bx8	"
"	"	"	瑞厚	T(A)X1 Bx2 B近x7	"
"	"	"	十文	Bx3 B近x多	"
"	"	"	十代田	B	"
重巡	42.6.6	ミッドウェイ	三隈	Bx8以上	"
"	42.11.14	オ3次ソロモン	衣笠	Bx2 B近x多	"
"	44.10.25	レイテ東方	島海	B.S	"
"	"	ミンダナオ海	最上	B.T.Sx多	記
"	"	スルー海	鈴谷	T(A). B. B近	"
"	"	レイテ東方	筑摩	B	"
"	44.11.5	マニラ湾	那智	T(A)X9 B ¹⁰⁰ X13 B ²⁰⁰ X6 Bx16	"
"	44.11.25	15-45N/17-45E	熊野	Bx8 TX1 T(S)X2	"
"	45.7.28	江田内	利根	Bx6 B近x14	"
"	"	吳	青葉	Bx9 B近x多	"
軽巡	42.10.25	カタルカナル沖	田良	Bx3以上 B近x多	"
"	44.2.17	トラック	那珂	T(A)X1 Bx3	"
"	44.10.26	ミンドロ南方	龍代	T(A) B	"

艦種	年月日	地味又は海戦名	艦艇名	命中兵器	記事
軽巡	44.10.26	パネイ北東	皋城	B	
"	44.11.13	マニラ湾	木曾	Bx3 BトX1	記
"	45.4.7	30-47N/28-8E	矢矧	T(A)X10以上 Bx12以上	"
"	45.7.28	江田内	大淀	Bx8 B近x多	"
旧駆	41.12.11	ウエーキ	如月	掃射	爆雷誘爆
"	42.5.5	ツラギ	菊月	T(A)X1	35mm機銃直向命中 樹生船に傾斜死
"	42.8.25	カタルカナル北	陸奥	Y	
"	42.9.10	ルマニール島東	泳生	B	舵故障 飛沈下 航行不能
"	43.7.6	IIIガガラ南東	長月	Y	
"	43.7.28	ソルブ	三日月	Y	記
"	43.10.24	シギダット湾	望月	T	
"	44.2.17	トラック	太刀風	Bx2	在港中 機庫入り に命中
"	44.2.18	トラックパラウ	追風	T(A)	
"	"	トラック	文月	T(A)X1 B近x4	機庫入り 浪害海水 3条2年 漸次浸水 死傷30
"	44.9.21	マニラ湾	皋城	Bx4以上 B近x6 以上	記
"	44.12.12	11-38N/123-27E	夕月	Y	
"	45.1.15	高雄	旗	Bx2	記
時駆	41.12.17	ミリ沖	栗	Y?	消息不明
"	42.8.28	ソロモン北	朝霧	Y	
"	42.10.12	サホ島沖	吹雪	Y	
"	"	"	叢雲	B	大火 曳船不能 T-25 機命中舵故障 輸送中 の機庫誘爆 生16
"	42.10.17	キスカ沖	蔵	B	
"	43.3.3	クナン沖	白雪	Y	
"	43.7.17	ニューランド	初雪	Y	
"	44.10.26	パネイ北東	浦波	Y	
"	44.11.13	マニラ湾	曙	Bx1 B近x0数	記
甲駆	42.10.12	サホ島沖	夏雲	B近x8	各部大浸水 死18
"	42.11.14	ソロモン	早潮		

艦種	年月日	被災又は海戦名	艦艇名	命中兵器	記事
甲駆	43.3.3	ラエ沖	朝潮	B	反跳爆薬による
"	"	"	荒潮	B	"
"	"	"	陣津風	B	"
"	43.5.8	コソバカウ南	新朝	Bx2	記
"	43.7.20	7-23S 166-46E	夕暮	Y	
"	43.7.28	ソルス北	有明	Y	
"	43.11.11	ラバウル港外	涼波	T(A)	記
"	44.2.17	トラツク礁外	舞風	Bx1	機被空襲水 航行不能
"	44.6.8	マクワリ北東	春雨	T(A)x1 Bx ²	船艦被害 補給船上被爆 船中銃至近率
"	44.10.24	10-36N 121-45E	若葉	Bx1 B至近x1	航行不能
"	44.10.25	11-17E 東方	野分	Y	消息不明
"	44.10.27	12-5N 121-21E	早霜	Y	
"	"	10+1 附近	藤波	Y	
"	44.11.11	オルモック沖	長波	Y	
"	"	"	浜波	Bx4 B至近x10枚	記
"	44.11.13	マニラ湾	秋霜	Bx3 B至近x10枚	記
"	"	"	沖波	Bx2 B至近x多	記
"	44.11.14	"	初春	B B至近	記
"	45.4.6	九州南西	朝霜	Y	消息不明
"	45.4.7	30-47N 128-8E	浜風	Bx1 T(A)x1	航行不能 船体切断
"	"	30-51N 127-57E	霞	Bx2 B至近x数枚	左舷全被空襲 航行不能 自沈 死17 傷47
"	"	30-41N 128-2E	磯風	B至近	機被空襲水 航行不能 自沈
乙駆	44.10.25	比島沖	秋月	B	喪沈 魚雷誘爆か
"	44.11.11	オルモック沖	若月	Y	
丙駆	"	"	島風	B至近x多 掃射	火災 浸水 蒸気噴出
丁駆	45.1.5	マニラ湾	樫	B 掃射	喪沈
"	45.1.7	マニラ沖	檜	B B至近x8 掃射	記
"	45.1.8	ガランビ沖	梅	Y	

艦種	年月日	被災又は海戦名	艦艇名	命中兵器	記事
丁駆	45.7.14	函館	橘	Bx1 B至近	記
"	45.7.28	平郡島	梨	B R	"
乙駆	44.3.30	パラオ沖	若竹	Y	火災 右大爆薬喪沈 損不明
"	45.1.15	馬公	榎	Y	
甲海	45.8.9	女川	天草	Y	
"	45.8.15	元山沖	千珠	Y	
乙海	45.1.12	サンジャック	千原	Bx2 B至近	火災 損坐
"	45.7.30	舞窟	沖鶴	B至近	記
"	45.8.9	八戸	楢木	B	左舷命中 夕時間自沈 死28 重傷30 軽傷42
丙海	44.9.21	ルソン西岸	5	Y	
"	44.11.10	マニラ湾南	11	Bx2	記
"	45.1.9	基隆西方	3	Y	
"	45.1.12	サンジャック	17	T(A)	喪沈
"	"	"	19	Y	
"	"	"	23	Y	消息不明
"	"	"	35	Y	
"	"	"	43	B	
"	"	"	51	Y	
"	45.3.16	21-44N 114-3E	69	Bx1 B至近x3	記
"	45.3.28	31-45N 131-45E	33	Y	
"	45.4.6	23-53N 119-40E	1	Y	
"	45.7.14	望崩	65	Bx1 B至近x1	記
"	45.7.15	函館	219	Y	
"	45.7.28	横須賀	45	Bx1 Rx4	記
"	45.8.7	34-56N 128-48E	39	B	
丁海	44.12.15	ルソン海峡	54	B至近 掃射	記
"	44.12.29	16-43N 120-18E	20	Bx1	"
"	45.1.2	サンフェルナンド	138	Y	

艦種	年月日	地点又は海域名	艦艇名	命中兵器	記 事
丁海	45.3.13	厦門南方	66	B×4	機銃後部より両断 喪失 生存21
"	45.3.24	30-0 N 126-30E	68	Y	
"	45.4.2	奄美大島	186	B×3	火災 戦死50 重傷1
"	45.4.6	23-33N 117-40E	134	Y	
"	45.7.14	室 蘭	74	B	記
"	45.7.28	由 良	30	B×2	"
"	"	高 羽	4	B×2 B砲×22	死1 傷27
"	45.8.10	40-44N 129-38E	82	T(A) ソロ	喪失
疎巡	44.2.17	トラソク	香 取	Y	
"	45.1.12	14-5N 109-25E	香 椎	Y	
旧巡	45.7.26	吳 附 近	磐 手	B砲×5	記
"	45.7.28	"	出 雲	B砲×3	"
掃海	44.11.25	15-26N 119-20E	ハ 十 島	Y	
敷	44.9.24	インド口南	八 重 山	B砲	浸水航行不能火災 死2 重傷16
水母	43.7.22	スイン東	日 蓮	B×6	大火災 13分で沈
"	44.9.24	11-54N 119-59E	秋 津 洲	B×2	記
水雷	44.6.12	サバシ北	鴻	B	喪失
"	44.9.24	インド口南端	岸	Y	
"	44.10.17	香港附近	燈	B×1 B砲	記
"	45.3.1	那 覇	真 産	Y	
"	45.3.24	奄美大島北端	友 産	Y	
1輸	44.7.27	パラオ	1	Y	
"	44.8.4	父 島	4	B×1	擱坐
"	44.8.9	"	2	B×1	死
"	44.9.14	タバオ	5	Y	
"	44.11.25	パラナカン	6	Y	
"	"	"	10	Y	
"	44.12.7	レイテ	11	Y	

艦種	年月日	地点又は海域名	艦艇名	命中兵器	記 事
1輸	45.1.15	高雄港外	14	B	喪失
"	45.4.2	奄美大島附近	17	Y	
"	45.8.9	津和地	21	B×教塔	擱坐
哨	42.9.1	ス カ	35	Y	
"	44.3.30	パラオ	31	B×3 B砲×6	
"	44.11.6	コビドール604'	107	B×1 掃射	記
"	45.3.28	ホ マラ	108	B×5	
掃	41.12.10	ルソン北	10	掃射	爆雷 誘爆 大破擱坐
"	41.12.26	ワチン	6	B	
"	43.9.11	マカオ港外	16	B×1	上部甲板命中切断 機銃室 右壁 圧壊
"	44.2.17	ラバウル	26	B	上部切断 沈没放棄
"	44.7.4	29-35N 114-4E	25	B	
"	44.11.11	オルモツフ	30	Y	
"	"	?	22	Y	
"	44.11.26	海南島	18	Y	記
"	45.1.4	台 湾	41	Y	擱坐
"	45.1.12	バダラン附近	101	Y	
"	45.3.28	5-6S 119-18E	11	Y	
"	45.7.15	大南崎沖	24	B砲4掃射	記
"	45.8.10	山田湾	1	Y	
2輸	44.6.4	4-0N 129-45E	128	Y	消息不明
"	44.7.4	父島325°108'	103	B	
"	"	硫黄島南	130	Y	
"	44.8.4	硫黄島	133	B砲掃射	擱坐 放棄
"	44.9.24	マニラ	127	B	航空ガソリン引火 死21 重傷26
"	44.10.10	那 覇	158	Y	
"	44.10.21	ラオアズ	135	Y	搭載戦車全部焼失
"	"	"	136	Y	

艦種	年月日	地点又は海戦名	艦 艇 名	命中兵器	記 事
コ 輪	44.10.26	ギマラス海峡北	102	Y	喪失 生存1
"	44.10.28	オルモツフ	101	Y	
"	44.11.12	レランギン湾	139	Y	
"	44.11.24	カタイングシ湾	111	B	炎上
"	"	"	160	Y	記
"	"	マスバテ 島	141	B	
"	44.11.25	サタクルス南方	142	Y	
"	44.10.15	マシロア沖	113	Y	
"	44.11.25	サタクルス南	161	Y	
"	44.12.15	カイマ 岬	106	Y	
"	44.12.27	硫 黄 島	132	Y	記
"	45.1.2	サンエルナド	138	Y	
"	45.1.12	西貢附近	131	Y	
"	45.1.13	西貢 港	140	B	炎上 死40 傷30
"	45.1.12	サンジャック	149	Y	捕獲 炎上 死8 傷12
"	45.5.21	佐世保 奄美大島 南	173	Y	消息不明
駆 潜	44.2.16	カビエン	39	Y	捕獲 死7 傷11
"	44.2.17	トラック附近	24	Y	
"	44.2.18	トラック西方	29	Y	消息不明
"	44.2.19	ステアン海峡	40	Y	
"	"	"	22	Bx2 B近30	記
"	44.3.30	パ ラ オ	6	掃射	
"	44.7.4	父島314°80'	16	B	
"	44.7.20	二 見	50	Bx1	記
"	44.9.13	セ ス 北	55	Y	
"	44.9.24	ミンドロ南	32	Bx1	中央部命中切断 2分 重傷17
"	44.11.19	スピック湾口	36	B近	記
"	44.11.25	12-ON 124-0E	46	B	

艦種	年月日	地点又は海戦名	艦 艇 名	命中兵器	記 事
駆 潜	44.11.30	ソゴット湾	45	Y	
"	44.12.30	サイゴン沖	18	Y	
"	45.1.9	海口附近	61	B	喪失
"	45.1.12	カムラン	43	Y	捕獲
"	"	パアラ湾	31	B近x2 掃射	爆雷引火炎上 捕獲 死8 傷32
"	45.2.中	カムラン沖	35	Y	
"	45.3.21	?	33	Y	
"	45.4.11	ホト70°140'50'	7	Y	生存2
"	45.5.22	奄美大島北西	37	Y	消息不明
"	"	"	58	Y	"
"	45.7.14	釜 石	48	B近 掃射	誘爆 死24 重傷30
敷 艇	43.9.28	キエタ沖	澎湖	B近	記
"	44.4.1	ラバウル	那 沙 美	Bx1 B近x数発	"
"	44.7.4	小豆 島	猿 島	B	
"	44.7.25	パオウレ一南	刺 天	Y	KD見自 消息不明
"	44.10.10	沖 縄 海	島	Y	死6 重傷24
"	45.3.2	宮 古	燕	Y	
砲	45.1.10	?	伏 見	Y	
"	45.1.22	香 港	謙 城	Y	
"	45.3.21	?	興 津	Y	
"	45.3.31	?	保 津	Y	

日本艦艇沈没(喪失)表 ---- 水上戦の部

艦種	年月日	地点又は海域名	艦艇名	命中兵器	記 事
戦艦	42.11.13	オホ次ソロモン	比叻	B700x4 B500x1-3 T(A)x2 5x86(Fx14)	記
"	42.11.14	"	舞島	8x87 55"x多	"
"	44.10.25	スリガオ海峡	扶桑	Tx2 S(14"5")x多	"
"	"	"	山城	Tx4 S(14"5")x多	"
重巡	42.10.11	サボ島沖	古鷹	56"x5x上 5"x多	"
"	45.5.16	マラソ刀海峡	羽黒	55"x多 T	"
駆逐	43.7.12	ゴロンバンカテ	神通	Sx多	
"	43.11.2	ブーゲンビル沖	川内	Sx多	
"	44.10.26	23°N 120°5'E	阿武隈	T(B)x1 Bx数発	記
駆逐	44.12.11	ウエーキ	疾風	陸55"x3斉射	爆雷誘爆
"	44.12.1	レイテ西岸	卯月	T(B)x3	
特駆	42.11.1	オホ次ソロモン	曉	S	
"	42.11.1	"	綾波	S	
"	43.11.25	アカ北端	夕霧	S	集中砲火を浴び火災
甲派	42.11.14	オホ次ソロモン	夕立	S	
"	42.11.30	ルンカ沖	高波	Sx多	集中砲火を浴び5分沈
"	43.3.5	ゴロンバンカラ東	峯雲	S	
"	"	"	村雨	S	
"	43.8.6	ベラ湾	嵐	T(B)	炎上
"	"	"	江風	"	炎上
"	"	"	萩風	"	炎上 樹生
"	43.10.6	ベラ湾北	夕雲	Tx1 Sx多	記
"	43.11.2	ブーゲンビル沖	初風	S	
"	43.11.25	スカ西方	巻波	S	集中砲火を受け20分沈
"	"	"	大波	T	臨時に喪失
"	44.10.25	スリガオ海峡	朝雲	T Sx多	記
"	"	"	清霜	T(Bor DD)	10分沈

艦種	年月日	地点又は海域名	艦艇名	命中兵器	記 事
甲派	44.11.25	スリガオ海峡	山雲	T(Bor DD)	艦に命中数分で沈
"	44.12.26	サンホセ	清霜	B T(B)x1	記
"	45.4.6	23-55N 110-40E	天津風	Sx3	"
乙派	42.12.11	ガタルカナル	照月	T(B)x2	
"	43.7.5	フラ湾	新月	S	艦故障の消息不明
"	44.10.25	比島沖	初月	S(8'6'5")x多	記
丁派	44.8.4	小笠原沖	松	Sx多 B	消息不明敵C. DD交戦
"	44.12.8	オルモック	桑	S5"x多	DDと交戦
1輪	44.12.25	父島203°22'	?	S	
"	44.12.28	硫黄島	?	Sx10数	記
哨	44.11.29	オルモック湾	105	T(B)	
掃	42.1.12	クラカン	13	陸S	
"	"	"	14	"	
2輪	44.12.12	オルモック	159	Y 陸S	火薬庫被爆中に命中退去
"	44.12.24	硫黄島	157	Y S	大波樹生
"	45.1.5	母島北方	107	S	
"	45.1.15	硫黄島	154	S	Cx3 DDx4と交戦
駆潜	44.6.12	サパン北20'	57	S T	
"	44.11.18	オルモック	53	T(B)	
"	45.3.4	44-44N 110-35E	8	S	湾上との交戦
"	45.3.26	ポトリアア(118°38')	34	S	水上艦艇との交戦
"	"	"	63	S	"
敷艦	44.2.21	トマクアラバウル南	夏島	S5'	

日本艦艇沈没(喪失)表 --- 潜水艦雷撃の部

艦種	年月日	地 点	艦 艇 名	命中雷数	記 事
戦	42.11.21	星隆北西	金 剛	2	記
空母	42.6.5	ミッドウェイ	加 賀	3 他にB×4	"
"	43.12.3	32-3N 143-40E	沖 鷹	6	"
"	44.6.19	マリヤナ西方	翔 雀	3~4	"
"	44.6.20	"	大 鳳	1	"
"	"	"	大 鳳	2	"
"	44.8.18	18-10N 120-22E	大 鳳	2	"
"	44.7.17	19.8N 116.52E	愛 鷹	2	"
"	44.11.17	32-59N 123-59E	神 鷹	4	"
"	44.11.29	蘭 嶼 沖	信 濃	4	"
"	44.12.19	28-19N 123-40E	愛 鷹	2	"
駆逐	42.8.9	2-20S 152-10E	加 古	4	"
"	44.10.23	9-30N 117-13E	綾 波	4	"
"	"	9-27N 117-23E	摩 耶	4	"
"	45.6.8	バンカ海峡	足 柄	4	"
駆逐	42.12.18	マダン北方	天 龍	2	"
"	44.1.11	ペナン沖	球 磨	2	"
"	44.2.17	トラツツ北 160'	阿 賀	2	"
"	44.3.13	ハ文島沖	竜 田	1	"
"	44.4.26	5-33N 151-47E	夕 張	1~2	"
"	44.7.19	13-12N 114-52E	大 井	2	"
"	44.8.17	32-12N 129-55E	長 良	2	"
"	44.8.19	12-4N 129-26E	名 取	2 (内1不発)	"
"	44.10.28	比 島 沖	多 摩	2 他にT(A)×1	"
"	45.4.7	蘭 印	五 十 鈴	3	"
掃雷艦	44.9.19	33-40N 103-20E	五 百 島	1	右舷に命中8分右沈
水母	42.5.2	御前崎沖	瑞 穂	?	

艦種	年月日	地 点	艦 艇 名	命中雷数	記 事
潜水	44.10.10	奄美大島	伊 織	?	
敷	42.5.12	マカ西方	沖 島	3	死21 傷24
"	44.6.29	2-23N 127-54E	津 軽	1	記
"	44.8.31	21-24N 121-4E	白 鷹	?	
"	44.9.26	2-10N 115-40E	蒼 鷹	2	記
"	44.10.17	5-27S 113-48E	巖 島	?	
"	45.5.16	マレ東方	初 鷹	?	
旧/駆	43.1.10	勝浦沖	沖 風	2	
"	43.1.13	カビエ西方	羽 風	1	
"	43.12.19	26-30N 128-15E	沼 風	1	記
"	44.2.10	台湾東方	峯 風	?	喪失
"	44.5.22	28-19N 138-54E	朝 風	?	飛行不能后
"	44.6.6	4-2N 118-18E	水 気 月	?	生存者なし
"	44.6.9	父島北東	松 風	1	随時半沈次に喪失生在8
"	44.7.6	3-25N 125-30E	帆 風	3	軍艦に命中喪失
"	44.8.23	15-55N 119-50E	朝 風	2	記
"	44.8.25	18-4N 120-50E	夕 風	1	1.255島間艦命中切断 9分右沈 死26 傷18
"	44.11.3	16-50N 117-29E	秋 風	2以上	誘爆両断
"	45.2.20	12-27N 109-40E	寿 風	1	記
掃雷	41.12.24	7チン東方	波 霧	?	爆雷誘爆
"	42.4.9	ヒレバス南東	波 霧	?	
"	44.1.4	5-30N 141-34E	連 雲	3	記
"	44.3.16	厚 岸 沖	白 雲	2	
"	44.4.14	10-2N 143-48E	雷 雲	?	
"	44.5.14	5-3N 119-36E	雷 雲	1	左舷命中大傾斜 切断 死船長以下170
"	44.7.7	47-36N 148-10E	蒸 雲	?	
"	44.9.12	13-35N 114-30E	敷 雲	?	生存128
掃雷	42.2.8	5-36N 119-6E	夏 潮	1	記

船種	年月日	地点	艦艇名	命中回数	結果
甲艇	42.6.24	トマク南水道	山 瓦	?	消息不明
"	42.7.5	アツツ沖	子ノ日	1	誌
"	"	キスカ湾口	霧	1	誘爆両断 死104
"	43.2.20	アドラ北	大 潮	1	誌
"	44.1.25	9-0N 157-27E	涼 瓦	3	喪沈 生存22
"	44.2.1	トマク南水道	海 瓦	1	死51
"	44.4.11	ザンボアンカ	秋 雲	4	船艦2 船艦2命中 5分后沈 生存11
"	44.8.7	4-19N 119-27E	早 波	?	?
"	"	4-55N 119-40E	谷 瓦	?	生存 142
"	44.6.8	アオ湾口	月 雲	2	誌
"	44.7.7	14-10N 117-50E	玉 波	?	1大柱を認めた后消息不明
"	44.8.26	ハラオ附近	五 月 雨	?	誌
"	44.11.21	26-7N 121-6E	浦 瓦	1	?
"	44.12.4	12-54N 116-27E	岸 波	3	誌
"	45.1.24	6-0N 103-45E	雨 雨	?	?
乙艇	44.11.24	2-28N 107-20E	籍 月	?	誘爆
丁艇	44.12.15	16-40N 117-42E	桃	?	喪沈
2艇	43.11.18	5-0N 122-0E	早 苗	?	?
"	44.5.10	15-47N 119-58E	刈 萱	?	誘爆喪沈重傷96中34は 内本艇
"	44.12.20	14-26N 119-58E	英 蒼	?	?
"	44.12.30	21-4N 121-20E	吳 竹	2	?
甲海	43.9.2	8-42N 151-27E	六 壘	?	?
"	43.11.23	28-43N 122-7E	若 宮	1	喪沈
"	44.5.24	177N 107-13E	壹 岐	?	?
"	44.5.31	48-28N 151-30E	石 垣	1	艦橋より前方切断 25分海上 生存1
"	44.8.22	マニラ港外	佐 渡	2以上	生存47
"	"	"	松 輪	2以上	?
"	44.9.12	18-2N 114-35E	平 戸	?	生存80 艦長戦死

船種	年月日	地点	艦艇名	命中回数	結果
乙海	44.6.2	火之島附近	淡 路	?	?
"	44.8.7	14-45N 120-0E	草 垣	4	5分で沈
"	44.8.22	マニラ港外	日 振	2以上	生存23
"	45.1.28	33-55N 122-8E	久 米	1	誌
"	45.2.23	12-44N 109-29E	星 久	?	?
"	45.2.25	19-20N 110-35E	昭 南	?	?
"	45.3.2	33-58N 122-49E	昇 鹿	?	?
"	45.3.27	31-45N 131-45E	御 藏	?	?
"	45.4.14	濟州島西岸	龍 美	1	艦橋下命中 中央列折れ 20分后沈 生存87
丙海	44.2.7	11-55N 109-20E	53	?	喪沈
"	44.6.6	35-44N 134-38E	15	?	?
"	44.10.6	19-48N 118-22E	21	?	?
"	44.11.14	17-45N 117-55E	7	?	?
"	45.2.14	32-43N 125-37E	9	?	?
"	45.4.14	濟州島西岸	31	?	后部命中火災 50分后沈
"	45.4.16	39-35N 142-6E	73	?	生存4
"	45.5.3	33-36N 122-49E	25	?	?
"	45.6.9	34-22N 128-11E	41	?	?
"	45.8.14	35-44N 134-38E	13	?	?
"	"	35-41N 134-38E	47	?	?
丁海	44.6.28	琉 黄 島	24	?	?
"	44.9.27	29-4N 118-22E	10	1~2	?
"	44.11.25	14-33N 119-51E	38	?	誌
"	44.12.3	18-20N 111-52E	64	?	?
"	44.12.24	16-44N 119-38E	28	?	?
"	45.1.10	26-52N 126-42E	42	?	爆雷誘爆 喪沈 生存0
"	45.2.2	4-11N 110-35E	144	1	?
"	45.2.17	御藏島沖	56	?	?

艦種	年月日	地 点	艦 名	命中雷数	記 事
丁海	45.7.29	14-44N 109-16E	34	?	
"	45.7.1	長山串附近	72	1	右部艦命中 5分で沈
"	45.7.18	46-6N 142-76E	112	1	沈
"	45.8.13	42-16N 142-12E	6	?	
水雷	43.9.27	ユナリテン ^{30度}	鶴	?	
"	44.11.8	ルソン西	鷲	1	記
"	44.11.17	16-45N 110-15E	鶴	?	
"	44.12.22	細崎 ^{275°10'}	千 島	?	
"	45.7.16	スバヤカカ	雁	?	生存 34
1 輸	44.12.13	ルソン北西	12	?	
"	45.1.17	麻南岳西	15	2	裏沈 生存 13
"	45.3.18	大 塚 島	18	?	消息不明
2 輸	44.8.14	4-45 126-59E	129	4	
"	44.10.11	37-7N 137-38E	105	?	
"	44.11.23	パラワン北端	151	?	
"	44.12.15	マシロツク沖	104	?	5班x5 ?他にBx4 艦に傾斜右
"	45.2.17	上海附近	114	?	消息不明
"	45.4.28	福江 島	146	?	裏沈
哨	42.1.23	バリクマラン	37	?	
"	43.1.12	チンウオン島南	1	1	
"	43.4.23	23-48N 122-42E	39	?	
"	44.7.3	トラツク	34	?	
"	44.11.10	石麻崎西	46	?	
"	44.11.25	ルソン海峡	38	?	
"	45.7.25	スバヤカカ	2	1	2分右沈 生存 55
掃	44.4.15	アンダマン	7	1	記
"	44.8.27	セレベス北	28	?	
"	44.11.4	ボルネオ西	5	2	

艦種	年月日	地 点	艦 名	命中雷数	記 事
掃	44.11.19	ラオアグ島南	38	?	消息不明
"	45.3.5	諏訪 瀬 島	15	2	火災 浸水 航行不能 右舷 沈没
"	45.4.6	サニク海峽南	12	2	
"	45.4.9	39-07N 141-57E	3	?	
"	45.5.5	32-06N 122-49E	20	?	
"	45.5.21	6-185 118-04E	34	?	
"	45.7.10	鹿 崎	27	?	
駆潜	43.7.15	ヘロツク ^{110°45'}	25	?	
"	"	"	27	?	
"	43.4.3	三 陸 沖	13	?	
"	44.3.25	父 島 北	54	?	消息不明
"	44.12.24	2-42N 111-05E	30	?	
"	45.4.28	32-25N 128-46E	17	?	
"	45.6.26	7-305 133-15E	2	?	
敷艦	43.7.27	32-34N 127-42E	平 島	?	
"	43.11.16	初島の132°11'	浮 島	又はM	消息不明
"	44.4.27	伊平屋島	鷗	?	爆管誘爆
"	44.10.1	小笠原北西100'	細 代	1	裏沈
"	44.10.21	?	前 島	?	
"	45.1.14	シンゴ島中60'	由 利 島	?	裏沈 生存なし
"	45.2.16	婦 岩	成 生	?	2名の乗組員を認めたが 沈没 戦死
砲	44.5.22	東沙島附近	橋 立	?	

(30)

日本艦艇沈没(喪失)表 ---- 戦艦の部

艦種	年月日	地点	艦艇名	触雷数	記	幸
空母	45.7.26	別府沖	海鷹	1 外にB	記	
特駆	44.4.23	2-125 116-25E	天霧	1	138分沈没 死者 傷10	
甲駆	43.2.1	サボ島南方	巻雲	1		
"	43.5.8	コロンバン南	陽炎	3	記	
"	"	"	黒潮	3	"	
"	45.7.30	宮津湾	初霜	2	"	
丁駆	45.7.11	大阪	桜	1	"	
乙海	45.4.4	勃崎	目斗	1	"	
掃	42.2.2	アンボン	9	1		
"	42.12.31	スラバヤ	2	1		
"	45.5.7	下関海峡	29	1	元	
砲	45.3.19	江陰上流	須磨	1		

(31)

日本艦艇沈没(喪失)表 ---- 原因不明の部

艦種	年月日	地点	艦艇名	記	幸
甲駆	18.7.20	サトウ島南	清波		
"	19.10.27	12-5N 121-21E	不知火		
丁海	20.3.29	14-44N 149-16E	18		
"	"	"	130		
哨	?	?	103		
掃	20.7.20	済州島附近	29	消息不明	
駆艦	?	?	11		
"	20.2.4	カミギン島	28	消息不明	

第 1 編 記 事

目 次

第1章 航空攻撃によるもの 35

- 1. 戦艦 武蔵、大和、日向、伊勢、榛名、
- 2. 航空母艦 祥鳳、赤城、蒼龍、飛龍、龍驤、千歳、千代田、瑞鳳、瑞鳳
- 3. 重巡 三隈、衣笠、最上、鈴谷、筑摩、那智、熊野、利根、青葉
- 4. 軽巡 由良、那珂、能代、水音、矢矧、大淀
- 5. 駆逐艦 三日月、涼波、秋霜、隠、沖波、翠月、浜波、初春、松、椿、梨
- 6. 海防艦 11、54、20、69、65、74、45、30、沖徳
- 7. その他の艦艇 秋津洲、鳩、時ノ07、掃ノ8、駆潜スズ、同6、同50、勝湖、那沙美、輸ス、輸ノ32、磐手、出雲、輸ノ60

第2章 水上戦斗によるもの 49

- 1. 戦艦 比叡、霧島、扶桑、山城、
- 2. 重巡 古鷹、羽黒
- 3. 軽巡 阿武隈
- 4. 駆逐艦 夕雲、朝雲、清霜、初月、天津風
- 5. その他の艦艇 輸ノ

第3章 潜水艦によるもの 52

- 1. 戦艦 金剛
- 2. 航空母艦 加賀、沖鷹、翔鶴、大鳳、飛鷹、大鷹、雲鷹、神鷹、信濃、雲龍
- 3. 重巡 加工、愛宕、摩耶、足柄
- 4. 軽巡 球磨、阿賀野、夕張、長良、名取、大井、多摩

五十鈴、龍田、

5、駆逐艦 夏潮、子ノ日、大潮、連、風雲、朝風、五月雨、岸波、野風

6、海防艦 38、久米、11乙

7、敷設艦 津軽、蒼鷹

8、その他の艦艇 掃メ、醫

第4章 機雷によるもの 60

1、航空母艦 海鷹

2、駆逐艦 陽炎、黒潮、桜

3、その他の艦艇 掃メ

日本艦隊沈没(喪失)の状況

第1章 航空攻撃によるもの

1. 戦艦

(1) 武蔵 (44 10.24 シブヤン海)

10ス5艦上機 17機にて至近爆弾4 (船体FR 25、船FR 20、FR 145艇) 船水線下漏水、1番砲塔天蓋、60Kg爆弾命中、被害なし。

10ス7艦攻3機、奥雷1本船FR 130命中、傾斜右 $\sim 5.5^\circ$ 、オクオノ1缶室船隔壁弛緩軽微な漏水、注排水により右ノク後元主砲塔旋回不能。

10ス7TBF6機、奥雷3本 (船FR 80、110、145) 命中傾斜左 $\sim 5^\circ$ 、オス水圧ポンプ室に浸水、避閃成功。

SBスC6機により500ポンド爆弾命中左FR 15前部兵員室破壊。

左FR 138、4番高角砲左前方に爆弾命中、中甲板で炸裂、オス機銃室火炎浸入、艦内軸道断。

至近爆弾5 (船FR 70、船FR 50 \sim 60K4個) 傾斜左 $\sim 1^\circ$ 前トリム/m (戦前前は後トリム/m)。

12ノ7戦爆13機、奥雷1、船FR 60命中、至近爆弾3 (船FR 180K2弾、艇K1弾)

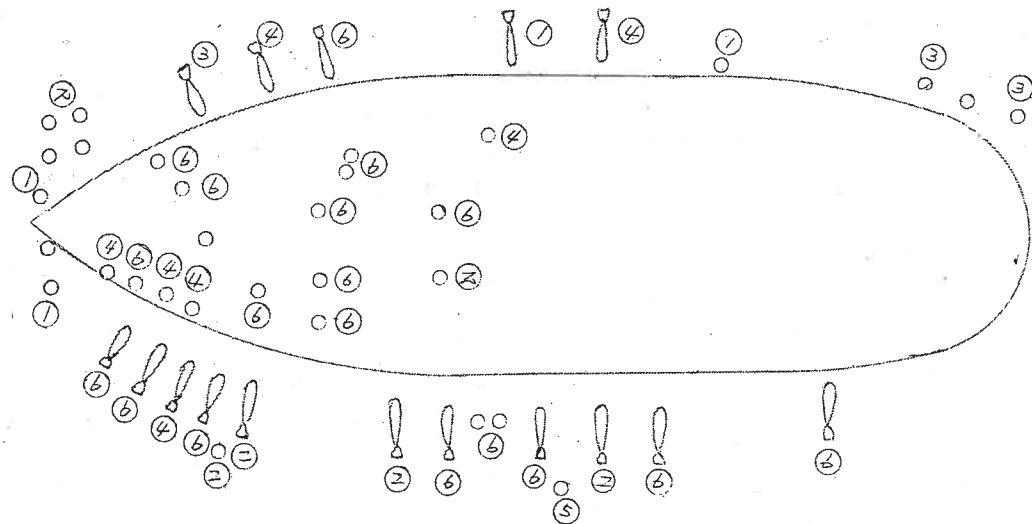
12ス3より艦上機20未襲 12ス3奥雷4 (船FR 70、船FR 110、船FR 138) 前部は中甲板迄浸水し前トリム4m。

爆弾4 (船FR 45、1番昇降口附近船FR 65、船FR 70、船FR 1350) 厨業事務室) 命中、注排水により傾斜右 $\sim 1^\circ$

1445艦上機75機により大破、明瞭なもの、爆弾10発、(防空指揮所船、船FR 105、船FR 115、船FR 120、船FR 115、艦長昇降口附近ス弾、FR 127中央、船FR

ス、ス番砲塔天蓋、FR 68及船FR 75各500ポンドノ航空奥雷ノ本(船FR 40、船FR 60、船FR 75、船FR 80、船FR 105、船FR 125、船FR 140ノ3本、船FR 145、船FR 165より3番砲塔弾庫) 至近爆弾6(船FR 130~140K4発、船FR 130~140K2発)

以上により左~10°傾斜したが、取舵変針中注排水により4°復原、前トリムは8mとなり船沈下ノ番砲塔船最上甲板の一部は浸洗状態となる。以後傾斜は漸増し注排水の効果も限度となり、1915、12度、1930、30度となるに及び急に顛覆し連続ス目の爆発を起し1935沈没



○爆弾 ㊦奥雷 ①...⑥被害空襲回次

(2) 大和(45,47 九州南方)

ノスノより数字に亘り艦上機386機末襲ノ本の命中奥雷中9本は艦にあつたため、ノスノに大傾斜転覆、火薬庫誘爆轟沈、命中爆弾の場所在受等不詳。

(3) 日向(45,24 呉)

上甲板以下はノ番砲塔より前部を除き漏水、前部火災発生沈没し、艦長以下約200名が戦死したが、尚高角砲6門ス5銃機銃6基は使用可能状態を残った。ス日更に多数の直撃及び

至近弾を受け8月ノ日放棄と決定された。

(4) 伊勢(45,24 呉)

7月ス日爆弾5命中(3番砲塔天蓋、船機、射出甲板船前中部士官廊(不発)、艦橋) 至近爆弾3により船沈下、大被害を受け、艦長以下約50の戦死と約100名の受傷者を出した。上部重量物を撤去し3日間に亘る排水が効を奏し、ドックへ曳航可能となつた所、更にス日爆弾ノ4を受けノ番砲塔附近より大火災発生、船ノス度ノ傾斜で着底し、サルベージ作業は打切られた。中甲板以下漏水で浸水量は5,000トン以上、バルジ部の命中弾ス発による破口はス0mに及んだ。戦艦艦橋は大破し主砲高角砲は全部使用不能となつた。尚ノ3番砲塔上に命中した爆弾は6の装甲を貫徹し得なかつた。

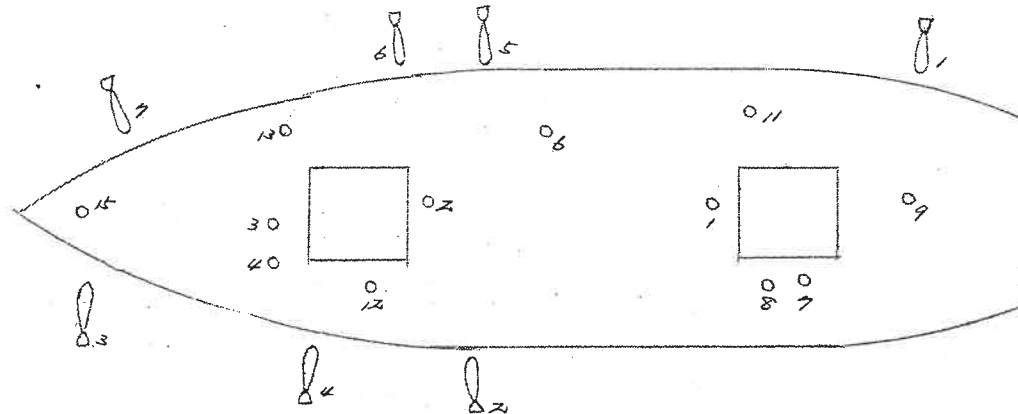
(5) 榛名(45,28 呉)

ス番砲塔前稍艦500ポンド爆弾命中、下甲板装甲が爆発、船バルジ外板3発命中破孔浸水、その他至近弾によりバルジ水防の大部及び非装甲部の浮力を失つた。更に至近弾により後部は更に浸水し、銃機玉室等は満水となり、船機及びノク室に注水したが船ス度の傾斜で沈没した。ス番砲塔のみは使用可能の状態が残った。

ス、航空母艦

(1) 祥鳳(45,57 珊瑚海)

ノノノ至近爆弾ノ発により飛行甲板上の5機海上へ転落。

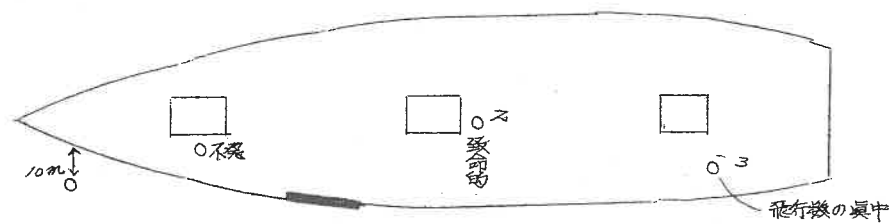


1130迄に73機の攻撃を受け1000ポンド爆弾ス発により大火災を惹き航行不能となる。更に爆弾ノ、真雷ク、自爆機ノにより大破し、1130迄員退去を命ぜられ5分以内に沈没。生存者100。

(2) 赤城(4ス、6、6 ミッドウエー)

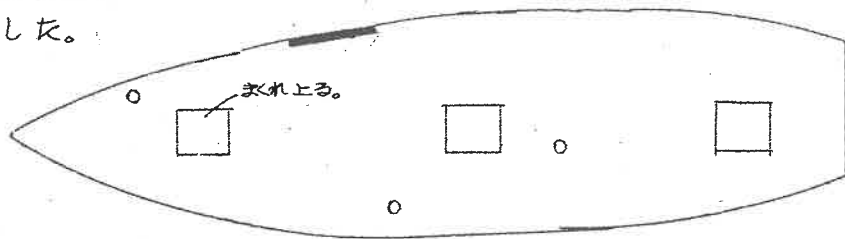
0736 徹爆3機未襲飛行甲板上の飛行機及び全格納庫大火災となった。特にオス弾は格納庫中で炸裂し航空地雷を誘発した。当火災の熱により高角砲機銃弾が次々自然発火し作業は困難を極めた。

0747 長官は旗艦を交受し、1715 御嶽影を駆逐艦に移された。1615 頃迄赤急班は懸命の消火作業を行ったが、機銃長より見込なしとの報告により員退去、翌日0800 駆逐艦により処分された。



(3) 蒼竜(4ス、6、6 ミッドウエー)

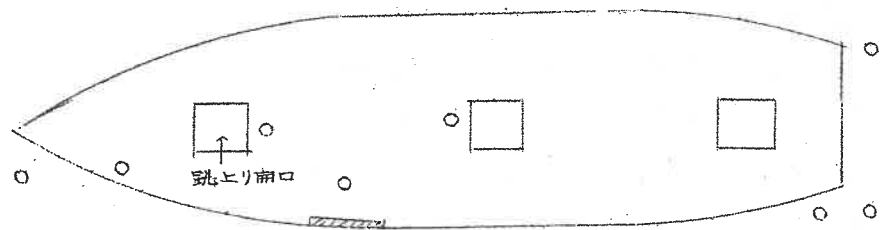
0735~0738 徹爆ノス機により被爆0730以後真雷、揮発油、高角砲、機銃弾の誘爆相次ぎ、全艦大火災となる。火災の熱のため機銃科員の戦死が多く、0740 航行不能となった。20分を至ずに員退去を命ぜられた。副長は赤急班を艦上に呼出し一旦火災は鎮火したが、ガソリンの爆発で艦体がスッパに裂け、後半部が先ず沈み、前半部は更に爆発し1620 沈没した。



(4) 飛竜(4ス、6、6 ミッドウエー)

1403 全カ即時待機ス4Kオ航行中、徹爆ノ3機未襲、最大戦速一杯を令したが発見遅く被爆、8缶室?浸水使用不能、発電機が直に停止(理由不詳)艦橋下に火災が迫り操艦不能となり、直接操艦とされた。

電源停止のため艦后機のターボ消防ポンプのみとなり、ホーズ本程度の外放水不能となり、バケツリレーで消火に努めた。火勢を抑えるため艦を停止したか効果少く、1823迄は18Kmを發揮したが、機銃室の上部装甲は真赤となり通風取入口より火の子の浸入は益大となった。室内は煙と蒸気で内火艇用蓄電池による赤急照明では何も見えず、割え機閉室通路大火災のため脱出は不可能で、機銃科員は次々と斃れた。艦長と機銃科との連絡は右部操舵室と機閉室間の電話を残すのみで殆ど切れず、遂に機銃科は起望との誤判断により処分を決意され員退去を命ぜられた。此の命令は機銃科に伝達されなかったため、艦后機では舵取機の電池で照明をとり、縦横室内で酸素ポンプの放出により窒息者14~15名をまじつつも、缶室と空気伝送管で連絡をとりつつあった。艦前機より連絡員により全燃状態の無いことが判明した。艦前機にもビルドの中に生存者があり、意欲所附近缶室通路の多量の米の上に重油管よりの漏油により衰えぬ火勢に対し、ス直交代で消火を続けた。0810 巻雲の真雷により処分しようとしたがその命中にも尚も沈没せず、翌朝漸く鎮火したので生存者90名は上甲板に上り、人カゴラッチを卸しにかかった所飯に沈没し、覆没されて39名のみ米駆逐艦に救助された。機銃科の被害はク缶員戦死の外浸水もなく、機銃は使用可能な状態であった。尚給水系に海水が入り、(巻雲の真雷か) 最後迄汽騰した8号缶は消火の止むまぎに至った。



(5) 竜 鳳 (42.8.24 ノス次ソロモン海戦)

急降下爆弾により炎上、至近弾により飛行甲板上の飛行機は海中へ転落、次で1000ポンド爆弾3発、飛行甲板に命中大火災となった。次で航空真雷砲撃、不確実ス本が命中し遂に沈没した。

(6) 千 敷 (44.10.25 比島沖海戦)

0828左高角砲左噴進砲に直撃弾を受け西側に多数の至近弾が落下した。

0830艦爆10機により艇直撃及び至近弾多数

0834前10機により至近弾多数

0835前10機により艇前部至近弾3発艇へ傾斜7度

0840傾斜15度

0850傾斜20度となり速力は14Kオに落ちた。

0930被襲航用意、総員艇を令せられた。

0937艦影を没した。

(7) 千代田 (44.10.25 比島沖海戦)

1000被襲航行不能となる。

1625より爆発相次ぎ火の塊となって1640転覆、1647沈没したのが米側より認められた。

(8) 瑞 龍 (44.10.25 比島沖海戦)

0820以後艦上機7次直により爆弾多数命中、乗員は大部分艇に命中し1029一旦停止し、海難交受が行われた。

1053行進開始、出し得る速力は20Kオとなり艇に傾斜して航行中、手向東に攻撃を受け、1407艇に大傾斜し発着甲板は水面に浸り間もなく沈没した。

(9) 瑞 鳳 (44.10.25 比島沖海戦)

0835船通路爆弾命中、爆弾庫浸水

0837直接操舵

0844下部格納庫大火災

0849前部操舵に切換

0856上下格納庫鎮火、20Kオ以上を發揮していたが、

1317右部真雷命中

1328~1330至近爆弾7を受け大激動と共に各部浸水

1334人力操舵となる。

1350、ス缶室浸水使用不能

1405出し得る速力6Kオとなる。

1526沈没

3. 皇 巡

(1) 三 隈 (42.6.6 ミッドウエー)

0645以後、艇後機、船前機、3番砲塔上、艇前機に被弾 艦長以下艦橋の人員多く死傷し0850総員退去を令せられた。

1145更に1発命中、艦上の残留者は多く死亡した。次の1弾で真雷が誘爆し大破したが、尚浮力を失わず復強を抵抗力を示したが同夜遂に沈没した。

(2) 衣 笠 (42.11.14 ノス次ソロモン海戦)

0636より0925迄にノス機の未襲により艦橋前部ノス 操舵台に直撃弾を受け、艇10度に傾斜したが船に注水し7 度に復元した。至近弾により前部揮発油庫に火災を生じたが3 分で鎮火した。

次で艦爆3機の至近弾により機前舵は使用不能となり浸水遮 防法なく沈没した。

(3) 最 上 (44.10.25 ミンダナオ海)

0900被爆1発により前後敵水上艦艇及び飛行機の真雷爆 弾による被害が累積し火災も起り放棄と決定暁の雷直により処 分された。

(42)

(4) 鈴 谷 (44 10, 25 レイテ東方)

0715 航行部至近弾により推進軸異常ス4K以上震動大となる。

1100 30機の雷爆至近弾により艇前部発射官真雷誘爆航行不能となる。

1320 沈没。

(5) 筑 摩 (44 10, 25 レイテ東方)

0854 艦波爆

0920 1軸18K以上発揮不能、操舵不能となる。

以後航行不能となつた後行方不明。

(6) 那 智 (44 11, 5 マニラ湾)

雷爆裏のため主砲使用不能、電源全部停止。艦体3つに折れ
後部大爆発を起し沈没。

戦死及行方不明准士官以上55、下士官兵約800。

(7) 熊 野 (44 11, 25 15-45N, 119-45E)

11月19日空襲により1番砲塔及び後部吹飛ばされ、先月
25、26日及び11月6日の被害も修復されていなかったため
構造大破した。11月25日の空襲により真雷により3つに
折れ転覆沈没。

(8) 利 根 (45, 228 江田内)

7月24日爆弾4命中至近爆弾7を受け浸水増加炎所に曳航
の上擱坐した。

7月28日更に8発命中至近弾7発を受け大破し、8月4日
放棄と決定された。

(9) 青 葉 (45, 228 吳)

7月24日1発命中、至近弾1発艇ス番煙突後部に落下
このため全機銃室4、5、6、7缶室に浸水沈没した。

7月28日更に8発の命中弾多数の至近弾により艦体両断し
放棄された。

その他島海があるが被害の状況は不詳である。

(43)

※ 軽 巡

(1) 由 良 (45, 10, 25 ガダルカナル沖)

1缶室に被爆火災浸水を生じ、更に前甲板に被爆至近弾多数
により被害拡大し、(B-17及び小型機の攻撃)ノ番煙突後部
と艦体切断。后部は前もまぐ沈没、前部は大火災の傍尚浮上し
ていたが、駆逐艦の真雷で処分された。

(2) 那 珂 (44, 2, 17 トラック)

1015 前橋後方附近魚雷命中、爆弾ス前橋附近命中大火
災、3、4番砲より前方切断、右進航行を続けた。

1345 ノス煙突附近1発被爆大火災、艦体は前方に沈下し
始め1426 沈没、戦死准士官以上17、下士官兵188、戦
傷、准士官以上5、下士官兵14。

(3) 能 代 (44 10, 26 ミソドロ南方)

0834 艦上機30機来襲、真雷命中航行不能。

1040 60機来襲、延170機の攻撃を受け沈没。

(4) 木 曾 (44 11, 13 マニラ湾)

大型爆弾船に命中ス、5×4スムの破口を生じた。

3缶室上部小型爆弾命中、ス缶室船、右甲板船に大型爆弾各
1発命中、機銃室全部浸水、缶室船の破口は3.5×1スムに及
ぶ右部砲塔船のそれは3.5×6.0mであつた。尚至近弾により
艇に長さ6mの縦亀裂を生じ、諾荷1缶室より后部は全部満水
して沈没した。

戦死67名、戦傷55。

(5) 矢 矧 (45, 47 九州南方)

真雷1本が艦橋機室に命中、船に傾斜し航行不能、通信装置
は全部不通となり以後多数の真雷爆弾が命中し、徐々に浸水沈
下した。前後橋短艇は片影も止めぬ迄に破壊され乗員の大半は
死傷した。甚大な被害にも拘わらず、ノ番火薬庫は黄煙を認め
誘爆す前に注水、ノ本本の真雷も投棄したので轟沈を免れ、何
もなく船に30度傾斜右舷より急速に沈没した。

(44)

(6) 大 定 (45. 8. 28 江田内)

7月24日爆弾4命中、至近爆弾4を受け前部火薬庫誘爆大破し、60名が戦死し船へ傾斜したところ、7月28日更に4発命中、多数の至近弾を受け、右45°に転覆同日午後放棄された。

その他状況不詳のものに鬼怒がある。

5. 駆逐艦

(1) 三日月 (43. 8. 28 ツルガ)

空襲により大破、前方に傾斜し擱坐、船は水中に没した。火災のため艦内は完全に焼失した。1番砲の外使用可能兵器はなくなった。

(2) 涼 波 (43. 11. 11 ラバウル港外)

真雷命中と同時に艦に傾斜、上甲板1番砲突附近より火災となり1番連管に延焼、16分後装填中の真雷が誘爆し船体が切断し約100名が死亡した。生存者は106名で准士官以上は3名に過ぎなかった。

(3) 阜 月 (44. 9. 21 マニラ湾)

前甲板/発中甲板/発の命中弾により運転不能となり、船復水器にも被害を生じた。至近弾6発以上により戦力は漸減し、次で直庫4発以上を受け5分後沈没した。

(4) 浜 波 (44. 11. 11 オルモック沖)

前甲板に3発/番連管1発の命中爆弾があり、1番砲塔より前部は切断航行不能となり、浸水が漸次増大し沈没した。

(5) 秋 霜 (44. 11. 13 マニラ湾)

全艦炎上重油に引火し遂に弾薬の誘爆で前部切断沈没した。戦死准士官以上4、下士官兵53、重傷准士官以上/下士官兵

46

(6) 陽 (44. 11. 13 マニラ湾)

ス缶室火災航行不能傾斜船。次で弾薬庫が誘爆し沈没、戦死准士官以上3、下士官兵45、重傷准士官以上3、下士官

(45)

兵40

(7) 沖 波 (44. 11. 13 マニラ湾)

機銃室及びス缶室にBXS命中、ス缶室蒸気噴出、3缶室は火災を生じた。3缶及び前機室間船外板には巾3.8m長さ2.5mの大破口を生じ、更に至近爆弾により船に破孔蒸気船外板は波状を呈し、弯曲部附近は弛鉄多数が見られた。

艇艙及び前甲板にも至近弾による破孔多数を生じ、全艦劃に浸水が拡大し船ノス度の傾斜で着底した。

(8) 初 春 (44. 11. 14 マニラ湾)

被爆により全艦炎上、前部の至近弾により外板艇に無数の破口を生じ、ノ区及び倉庫その他相当の浸水を生じた。探信機室ノ区及びノス缶室内に重油が噴出したが、数分以内に満水した。3缶室船木線附近は大破孔を生じ、室内一部は蒸気噴出し、重油が缶外側に流出して汽釀不能となった。

中部上甲板倉庫は火災となったが消火し、前後機室相当の浸水があつたが遑防排水に努め、漸次船より沈下したのを輪10号の援助で横曳擱坐を試みた。10ノク上甲板FR65迄浸水10.20、3缶室貯内にかス爆発が起り、全力消火に努め一時下火となったが、1049艙外流出重油に引火すると共に又々火勢は烈しく、上甲板に拡大した。1338再度至近弾を受け火災は全艦の3/4を包み遂に擱坐放棄された。

(9) 拾 (45. 1. 7 マニラ沖)

被爆により1缶室に火災を生じ、多数の至近爆弾によりス缶の蒸気過熱管が破壊し、速力は14Kオに落ちた。

後部弾薬庫は浸水し船ノス度の傾斜となり、ノ区は損壊し電機関係にも相当の被害を生じた。戦死2ノ、重傷4ヲを出し、一旦マニラに入港したが、1月7日出港後消息不明となった。

(10) 橋 (45. 2. 4 函館)

ス缶室船に至近爆弾が落下し航行不能となった。次で中部に60~150Kgの爆弾が命中し瞬時に船に炎傾斜して轟沈し

(46)

戦死 156、重傷 31 を出した。

(1) 梨 (45, ス 28 平那島)

中部に爆弾 3 発が命中し後部は大火災とまった。至近弾も 10 数発あり航行通信不能となり次第に浸水船に傾斜し 6 時間半后 15 度となった。次で至近爆弾 16 発を受け船に大傾斜し 3 分后沈没した。戦死 19、重傷 35、

その他の駆逐艦の状況は不詳である。

6. 海防艦

(1) 11 号 (44, 11, 10 マニラレイテ間)

機械室直上及び機銃台にス発直撃を受け、炎上漂流し、次で誘爆擧げし、87 名が戦死した。

(2) 54 号 (44, 15, 15 ルソン海峡)

至近爆弾及び機銃掃射により爆雷火災を生じ炎上擧げし夜半に至る迄浮葉誘爆が相次いだ。翌朝下火となったが船 15 度傾斜し浸水甚しく放棄された。艦長以下 33 名が戦死し、36 名重傷、同じく 36 名が軽傷を負った。

(3) 20 号 (44, 15, 29 16-43N, 120-18E)

艦橋中部に被爆大破し漸次浸水し、7 時間后沈没、艦長以下乗員の 2/3 は戦死した。

(4) 69 号 (45, 3, 16 31-44N, 114-3E)

9 日直撃 1 発が右舷前方ス丸より機械室の艦底を貫通し、機械室と 4 区の隔壁及び機械室船の外板電信室兼炊所を破壊して、機械室と 4 区は浸水、主機械は使用不能となった。更に至近弾 3 発によって外板に破口風曲を相当に生じ、船に傾斜が増大した。辰宮丸により香港へ曳航中、16 日高浪のため機械室が切断し急速に沈没した。生存者 97 名

(5) 65 号 (45, ス 14 望南)

ビルゲキールに爆弾が命中貫通し士官室入口よりオ 4 兵員室入口迄の艦底は爆圧のため 40 X 80 X 400 cm の凹凸を生じ、船に横倒しとなった。

(47)

(6) 74 号 (45, ス 14 望南)

被爆により揚爆雷機附近で切断し、前方船は艦底に溝を生じた。

(7) 45 号 (45, ス 28 横須賀)

ロケット弾の命中により大破し商角砲 / 機銃 9 の外使用不能となり、間もなく沈没した。戦死 25、戦傷 40。

(8) 30 号 (45, ス 28 由良)

ス発の命中爆弾により艦橋附近は大破し火災が發生し内外より消火に努めたが 18 時間后沈没した。生存者 97 名

(9) 沖 電 (45, ス 30 舞鶴)

至近爆弾により機械室オ 4 兵員室爆雷庫に浸水し頭髪沈没した。

その他の海防艦は詳細不明である。

7. その他の艦艇

(1) 秋津洲 (44, 9, 24 11-54N, 119-59E)

中央部より艦へス発直撃を受けて浸水し船へ横倒しとなり沈没した。

(2) 鳩 (44, 10, 17 西港附近)

至近爆弾により航行通信不能となり、更に直撃 1 発が機械室に命中し、重量物を投棄し浸水速防に全力を尽したが、曳航の途中 15 時間を経て沈没した。

(3) 107 号哨戒艇 (44, 11, 6 コレヒドールの 160° 4')

機銃掃射により爆雷 1 個が誘爆し後部は火災となり機関は一時使用不能となったが、間もなく 8K を航行が可能となった。6 日艦橋に爆弾 1 発が命中、全艦火災となり、13 時間后沈没した。

(4) 18 号掃海艇 (44, 11, 26 遊南島)

被爆により缶室は浸水し、航行不能となったので曳航中、浸水が増大し沈没した。

(48)

(5) ス4号掃海艇(45, 7, 15 大向崎沖)

機銃掃射により蒸気管に被弾航行不能となり、更に30kg爆弾が中部后部へ4発命中、スク分後沈没した。生存者は15名に過ぎず、その内4名は重傷であった。

(6) スス号駆潜艇(44, 2, 19 ステフェン海峡)

前30の至近爆弾5発の直撃弾により爆雷が誘爆し、后半部は爆砕され、船のみ擱坐したが、火災によって形骸を残しただけであった。

(7) 2号駆潜艇(44, 3, 30 パラオ)

機銃掃射により船体は蜂の巣状となり、浸水が甚しく、電信室、操縦室、補機室、后部倉庫は火災で全焼し、機銃も故障し、爆雷を投棄の上擱坐した。

(8) 50号駆潜艇(44, 7, 20 =見)

直撃爆弾1発により爆雷庫は粉砕され、補機室より后部は浸水航行不能となり擱坐した。

(9) 澎湖(43, 7, 28 キエタ沖)

至近爆弾により各区割に浸水を生じ、ノス分ごろ度傾斜、ス3分後沈没し、戦死11、戦傷ス3を出した。

(10) 那沙美(44, 4, 1 ラバウル)

缶室に直撃1発を受け、更に至近弾数発により、缶室船外板はキール附近まで亀裂浸水し、翌々日又々至近弾数発により艇内全般に浸水擱坐した。

(11) ス号輸送艇(44, 8, 9 父島)

艦橋后部へ爆弾命中のため船舵を大破、推進器を屈曲航行不能となって擱坐した。

(12) 160号輸送艇(44, 11, 24 カタインガ湾)

掃射により爆雷が発火し鎮火せず擱坐した。ス3番タンクは浸水し高角砲1、機銃スが損害を受けた。戦死5、戦傷11。

(13) 13号輸送艇(44, 12, 27 威爾島)

主蒸気管に被爆破壊し、高角砲は操作不能となり、戦闘艦海

(49)

は不能となって放棄された。以後艦艇の救済及び被害?による大爆発により、后半部は火災切断で沈没した。

(14) 鷲号(45, 7, 26 呉)

ス4日至近弾により水線下に中ノ丸の破孔を主とし、左ノる度傾斜より漸次増大、ス4時向右傾覆、ス6日若狭のため浸水の拡大を防ぎ切れず着底した。戦傷3、

(15) 出雲(45, 7, 28 呉)

至近弾により缶室機銃室に浸水し、順次全区割に及びノ時前右舷ノノ°に傾覆着底した。戦死5、戦傷8、

第5章 水上戦によるもの

ノ 戦 艦

(1) 比 敷(42, 11, 13 ノ3次ソロモン海戦)

ノス日ス345以後巡洋艦駆逐艦の集中攻撃を受け、先ず駆逐艦オバノンの5砲弾で探照灯を破壊され、数ヶ所火災を生じた。次に重巡サンフランシスコのス奇射が水線部に命中した。駆逐艦ラフィの5砲弾も艦橋に多数命中した。

0ノ56半煙の近距離よりオバノンの猛射と奥雷攻撃を受け大爆発を起し全艦火災となり、爆発の破片はオバノンへも落下した。サンフランシスコの砲撃も船艦に命中した。

0ス00以後重巡ポートランドの集中射撃により8ノ14発が命中した。

本艦は僅かに5~6奇射したのみで電略指揮所等が破壊されて主砲は射撃不能となり、更に舵故障のため翌朝迄保針不能で戦場を離脱出来ず、10ス5、飛行機9機の未殺、更に12ス5の空襲により、少くとも乗留ス本、1000ポンド爆弾4発、1~6発の500ポンド爆弾が命中し、1305以後漂流状態となり、同夜遂に沈没したものと認められた。

(2) 鷲 島(42, 11, 14 ノ3次ソロモン海戦)

0ノス3戦艦ワシントンより16" 3奇射の命中により、鷲

(50)

煙蒸気噴出、火災となった。以後引籠き命中弾を受け、砲ノ門の外射表不能となり、浸水甚しく操艦不能に陥り、結局キングストーンを開き転覆自沈した。

(3) 扶桑(44/10/25 スリガオ海峡)

未明より英雷艇駆逐艦等の軽快艦艇の集中攻撃を受け、次ぐ戦艦ミズリー、カルフォルニア、テネシー、ペンシルヴァニアにより丁字戦法による集中砲火を受け、駆逐艦の英雷ス本の命中も加わり04/10沈没したものと認められた。

(4) 山城(44/10/25 スリガオ海峡)

0330駆逐艦の英雷ノ本が命中したが、戦艦航海に支障なく次ぎ扶桑と同じ敵の集中砲火を受けた。更に駆逐艦により、スズの深浸に溺死された英雷が命令し火薬庫が誘爆して沈没した。

ス、重巡洋艦

(1) 古鷹(42/10/11 サボ島沖海戦)

スノ48水上艦艇と砲戦開始、最初の電探射束を無照射で受けた。

スノ49 3番砲塔被弾

スノ51 2番連筒被弾、火災

スノ52 船前機被弾

スノ55 船后機被弾

スノ05 船前機被弾、浸水、主砲射束不能

翌0028沈没

(2) 初黒(45/5/16 マラツカ海峡)

英駆逐隊と交戦したが、輸送任務中の上甲板にうず高く米や粟を搭載していたため砲の半分しか指向出来ず、徒らに軽快艦艇の砲雷束に好餌を呈して沈没した。戦死は准士官以上のみでも50名に達した。

3、軽巡

神通、川内のス艦については詳細は不明である。

(51)

(1) 阿武隈(44/10/26 7-7N, 121-54E)

ス5日0330英雷艇の英雷ノ本が艦橋水線FKに命中し一時停止し以後速力はノKオとなった。

ス6日早朝よりノスクオ航行が可能となったが、1006Bス4、30機の攻撃によつて被爆数発、ノス4ス被害累積により沈没した。

4、駆逐艦

(1) 夕雲(43/10/6 ベララベラ北方)

3気室附近に被弾落伍、スノ10誘爆又は英雷命中により船体切断、艦橋は前方に倒壊し、船に傾斜してスノス0沈没した。

(2) 朝雲(44/10/25 スリガオ海峡)

艦艇に被雷速力ノスクオで遅退中、04/10電探射束で被弾炎上、夜明頃放棄された。

(3) 初月(44/10/25 比島沖海戦)

巡洋艦ウィナタ、サンタフェ、モビールと遭遇、1853より2045迄交戦し多数の命中弾を受けて停止し、15分後爆発、速かに艦より沈没した。

(4) 清霜(44/12/26 サンホセ)

水上戦闘により火災を生じ又爆弾の命中により停止したところ英雷艇の英雷が命中し爆発沈没した。生存者スノ0名

(5) 天津風(45/4/6 ス3-55N, 110-40E)

補機室、電信室、后部士官室に各ノ発の直撃を受け、一時航行不能となったが、履門港外に擱坐した。

補機、電信機は全壊、主砲は使用不能となり5.6区は大炎災を生じ、次ぐ補機室が浸水し、后機も5区浸水し機械は使用不能となった。船体も大破したため重要兵器は揚陸し飛行機で爆薬処分された。

その他の詳細は不明であるが、嵐、隼、江丸、照月の父長が英雷艇により沈められているのは注目に値する。

(52)

5. その他の艦艇

(1) ク号輸送艦(44, 1ス, 28 硫黄島)

飛行機及び敵巡洋艦3、駆逐艦4と交戦、10数発の命中弾により塔載のガソリン蒸気が誘爆し、大破損生じた。戦死30、重傷50

尚105が乗雷艇により駆着艇、掃海艇、輸送艇等が砲戦により沈没しているが、詳細は不明である。

第三章 潜水艦によるもの

1. 戦艦

(1) 金剛(44, 1ス, 21 基堅北西)

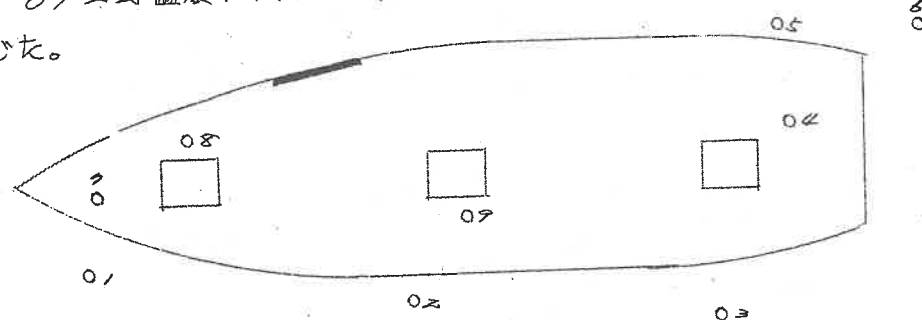
0ス55シーライオンの乗雷ス本が命中、1本は艦前部錯雑庫附近の一区劃が満水したと止ったが、艦機に命中した1発は機械室を満水し、リベットの弛みより漸次缶室へ浸水を拡大させた。艦は尚1時間余ノ6Kで航走を続けながら、やがて落位停止した。

傾斜復元のため船機へ注水したか及ばず、艦へ転覆、着岸浮いていたが、前部に大爆発(ボイラが3式弾の弾頭信管かといわれている)を起し、艦より突込んで、5時40分頃沈没した。既に5時半乗員上甲板が令せられたが、上記の大爆発と荒天のため、救助されたものは副砲長以下ス50名に過ぎなかった。

2. 航空母艦

(1) 加賀(4ス, 6, 6 ミッドウエー)

07スス艦爆7機の攻撃により、下四の通り被爆大火災を生じた。



(53)

⑦⑧⑨は発着甲板を貫通し軽質油タンク又は爆弾庫内部で炸裂、大きな誘爆が起った。⑨によって艦橋は全員戦死した。

1400) - ナラスの乗雷3本が命中し、16ス5前部軽質油タンクに引火、大爆発を起し沈没した。

艦内塗料の燃焼の猛烈であったことが特に目立った。数分后多数の者は退去したが、火傷を負った者が極めて多かった。

(2) 沖鷹(43, 1ス, 3 3ス-3N, 143-40E)

001ス、ス本の乗雷が命中し、更に0557、ス本の命中により航行不能となり、曳航を試みたが荒天のため成功せず、艦に傾斜、右部が若干沈下したまま漂流中、094ス更にス発の命中により0948沈没した。

(3) 翔雀(44, 6, 19 マリアナ西方)

3本命中軽質油タンクを破壊され大火災を生じ5時間40分后沈没した。

(4) 大鳳(44, 6, 20 マリアナ西方)

0810乗雷1本が艦前部軽質油タンク附近に命中し、前部昇降機を破壊したが、速力はノ6Kしか減少せず、ス6Kを保持していた。応急長が未熟で全通孔機を起動して揮発油ガスの放散を命じたため、全艦にガソリン蒸気が拡散し舷外へのガソリン放散により危険は倍加され、それにボイラ用のタラカン原油の蒸気も混入した。昇降機の破口を拵塞したため、ガスは逃げ場を失い、143ス電動機の火花により全艦大爆発を起し、装甲甲板は小山脈のようになり、格納庫外板は吹飛び、艦底に空爆発孔が崩れ、機内料は全滅した。

16ス8沈没し乗員ス150中約500名が救助されたが、何れも爆発によりシヨックを受けていた。

(5) 飛鷹(44, 6, 20 マリアナ西方)

乗雷1本が艦に命中し運転不能となり舵故障を生じた。更に1本が艦に命中大火災が全艦に及び、大爆発3回小爆発数回を起し、横倒しとなって艦より沈没した。但し米籍はその場に

(54)

なく、他の原因ではないかと思われる。

(6) 大 鷲 (448/8, 18-10N 120-スズE)

1本が船尾部軽質油タンクに命中浸水し、附近は忽ち大火災となり、液化CO₂及び高角砲弾の一部が誘爆を開始した。

15分後更に1本が軽質油タンクに命中し、8分後沈没した。

(7) 雲 鷹 (448/19 19-8N, 116-5スズE)

ス本が船尾部に命中し7時間30分後沈没した。生存者は、5.6/名であつた。

(8) 神 鷹 (44/11/17 32-59N 123-38E)

4本が命中し、船尾部は直に沈下、大火災を起し船に傾斜し、甲板上の飛行機は海中に転落した。遂に艦を上に出し、艦をス3尋の海底に突刺して沈没した。

(9) 信 濃 (44/11/29 潮岬沖)

船舷に3本機銃室首部に1本の奥雷が命中し、軸室を破壊力はノ5Kオに落ちた。

向もきく海水が減少し、雑用水タンクより送っても足りぬようになつた。原因は外機補助蒸気管の漏気のためと思われた。

浸水は次々拡大し、傾斜は増大したため区劃に注水が試みられたが効果なく、2000トンの保有重油中100~200トンを投棄したが及ばず、7時間後転覆し、底を上にして艦より沈没した。

本艦は工率途中で隔壁の水密が不完全な上、未装備の管や電線を通すための穴がその傍となつて居り、ポンプは殆ど未装備であつたため、消防主管も排水装置も十分の竹ましまかつた。更に工員や技術者が一杯乗船しており、乗員も艦内諸装置になれず、訓練も殆ど行われていなかつたので、艦内に命令が通達せず、恐慌状態となつて規律は全く失われ、兵員は勝手に次々と海へ飛び込む有様であつた。

(10) 雲 龍 (44/12/19 28-19N 123-40E)

船艦橋下に1本の命令があり、7分後船前部に1本命中、4

(55)

分後火薬庫が誘爆し、7分後全没した。生存者はノ4ス名に過ぎなかつた。

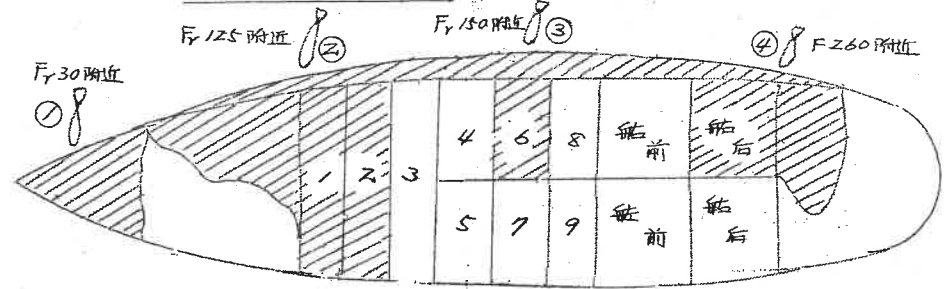
3. 重巡洋艦

(1) 加 古 (42, 89 ス-30S, 152-10E)

0710 4本の命令を受け大傾斜し、0715 転覆し救急を命じた後で沈没した。

(2) 愛 宕 (44/10/23 9-30N 117-13E)

0633 奥雷4本が命中し、船に傾斜(最初8度間もなく18度更にス3度艦首上への時は54度)したため直に反対艦中4区注水区製機閉室に非常注水したが、20分で沈没した。



斜線部は浸水箇所

①はカ4パン岸に命中し、揚錨機及び船前部倉庫に及んだ。

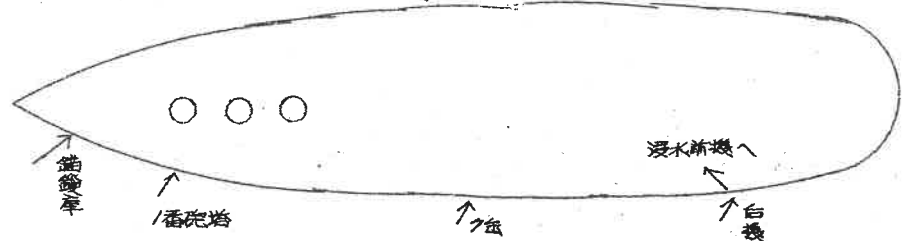
②は1缶室船に命中し、1缶室浸水、中甲板/缶室兩舷入口より火焔が逆昇した。

③は6缶室を浸水せしめ、7缶室にも火焔が侵入し浸水した。

④は下部蓄電池室及び後部発電機室附近より船台機5番砲塔火薬庫に浸水せしめた。

(3) 摩 耶 (44/10/23 9-27N 117-23E)

0657 艦より4本命中し、大傾斜し0705沈没した。



(56)

(4) 足柄(45.6.8 バンカ海峡)

船に4本が命中し、運動力浮力の大部分を喪失、急速に船に大傾斜しス分後沈没した。死傷者は少く、准士官以上53名、下士官兵約800名は救助された。

4 軽巡洋艦

(1) 球磨(44.1.11 ペナン沖)

1145 後部船にス本命中し、瞬時に右甲板は水面迄没入し船に傾斜した。

1155 最上甲板マスト基脚附近迄没入し、傾斜は船ス5度で一旦止つたが、更に後部が沈下し後部では安全針を抜いた30m深さ調定の爆雷が誘爆した。1157 船90°に傾斜の終極より沈下全没し、准士官以上7名、下士官兵131が戦死し、他に重傷3、軽傷4を出した。

(2) 阿賀野(44.2.17 トラック北160°)

16日1645 奥雷1本が船3缶室に1本が艦橋下に命中し、船へス傾斜した。

1700、3缶室は火災となり、1缶室前方下甲板以下は満水し、3、4、5、6缶室から徐々に前機一部中甲板に拡大した。

1900、3缶室の火災は漸次拡大し、中部上甲板内火艇に引火、17日0147 火災は前甲板に及び船に大傾斜沈没し、約100名が戦死した。

(3) 夕張(44.4.26 5-33N, 151-47E)

1004 奥雷1本がオ1缶室船前方に交角130度で命中しス缶室及び前方隣接区画に浸水し、蒸気圧力は急降し主機は使用不能、電源は停止した。

傾斜は船ス0度となり、船は次第に沈下した。激動により管装置各部に漏洩を生じ、缶水は回もななく不足し益分は増加しドレンによって短時間微速航行が可能であったのみで停止した。

1011 被害箇所附近に噴出した重油から火災を生じ、前部14cm弾薬庫に注水した。1015Kは4~ノスクフレーム

(57)

の各区は大部分が浸水したが、1030頃から風速波浪共に増加した。

1150 避防に成功し1150より五月雨により3Kの速力で喫航を開始した。

ス146、3缶室の再補強により、実速は5K以上に上げられた。しかし船体老朽と屢次の戦斗被害の修理が不徹底(同船はこれ迄に6回損傷を受けている)のため、意外の小浸水箇所多数を生じ、翌ス8日0415には上甲板中部は約1m海中に没し、1015Kに至つて船より沈下遂に沈没した。戦死准士官以上1、下士官兵18、重傷3、軽傷9を記録した。

(4) 大井(44.2.19 13-18N, 114-55E)

ス本の命中により全機室に浸水し、1時は15Kの航行が可能であったが、漸次浸水増加し排水作業は及ばず全機使用不能となり、次で大爆発を起し沈没した。

(5) 長良(44.8.17 35-18N, 129-55E)

18スス船舷門附近に奥雷1本が命中、火柱は右舷中部に達し、右部は浸入沈降し、右機は瞬時に満水、各所へ浸水は拡大した。

18スス前機は在室不能となり、傾斜は船ス5度となったが、1時15分に復元、再び18度となり、右部ス蓄煙突附近迄浸水した。

1840 船舷門附近に更に1本の奥雷が命中し、瞬時に缶室は浸水し、急激に右部より沈下し、船を上にして直立沈没した。

(6) 名取(44.8.19 12-4N, 129-26E)

18日奥雷1本が艦橋下1缶室に命中し、危急処置のため最微速とした。

19日0300 沖ス回目の被雷があつたが、内1本は艦橋下附近に命中したが不発であつた。

0540 前甲板は海中に入り、0705 波浪が高く浸水増大し、急激に船を突込み直立沈没した。

(7) 多摩 (44 10.25 比島沖海戦)

昼間の対空戦斗で航空機を撃ち落し、ノボクで単独沖艦へ向け進退中、ス300潜水艦の攻撃を受け、真雷3本が命中しスツク裂けて沈没した。

(8) 五十鈴 (45.47 蘭印)

艦橋下Kノ本命中前部に浸水し、6時間後更に真雷ス本が機銃室附近に命中し、16分後船体が切断し、3分を至て沈没した。戦死はス1名、重傷1、軽傷67名であった。

(9) 竜田 (44 3.13 八丈島沖)

03ノ4後機前部にノ本命中、前後機が浸水航行不能となった。沈没は免れるものと思われたが、船体数ヶ所の亀裂より漸次浸水し、缶室機銃室間の隔壁が圧潰し、更に舵取機室へも浸水ノ536沈没、戦死ス6、負傷8を出した。

天竜の沈没状況は不詳である。

5. 駆逐艦

(1) 夏潮 (42.28 5-36N, 119-6E)

ノ本の命中によって煙突から大火柱が上り、3缶室機銃室は大破浸水し、発射管も吹飛び前もなく沈没した。

(2) 子ノ日 (42.25 アツツ沖)

船にノ本命中ス分で転覆、5分で沈没し約200名が戦死し、生存者は20~30名にすぎなかった。

(3) 大潮 (43.220 アドミラルテイ 北)

前機船に真雷命中による10mの破口を生じ、前後機及び3缶室K700トンの浸水を起し、航行不能となった。翌朝船体は中部より切断し30分後沈没した。

(4) 沼凡 (43.12, 19 26-30N, 128-15E)

ノス月7日艦材水線附近に真雷命中、上方3mが打損し、中ノ主防水隔壁より前方兩舷水線上下K破孔を生じ、FRク水線上下1mに至30cmの破孔が生じた。浸水速防出し得る速力ノ8Kを執じた後、消息不明となった。

(5) 連 (44.12 5-30N, 141-34E)

前部にス本後部にノ本命中、前部火薬庫が誘爆し艦橋の前及び後部の区附近より切断し、ス分後轟沈し、准士官以上11、下士官兵143名が戦死し重傷9、軽傷ススを出した。

(6) 風雲 (44.68 大バオ湾口)

機銃室船にノ本命中航行不能となった所、ス分後3番砲塔船に被雷、ス分後大爆発を起し轟沈した。生存133名

(7) 朝風 (44.8.23 15-55N, 119-50E)

前後部に命中し艦長室より前方及び右甲板は切断しノ缶室は降下し船体は歪曲した。

ノス缶室に浸水、傾斜は最初船ノ5度であったが、徐々に浸水が増大しノ5時間後傾坐、右に覆覆沈没した。生存者は149名であった。

(8) 五月雨 (44.8.26 パラオ附近)

坐礁し、再礁直後前機船に真雷命中、船体は殆ど切断し放棄された。

(9) 岸波 (44.12.4 12-54N, 116-27E)

機銃室船にノ本命中し、機銃室補機室に漏水、航行不能となった。3時間半後更にス本がノ缶室及びス番連管船に命中、瞬時に船に大傾斜し、中央で切断沈没した。生存者ノス8名

(10) 野風 (45.2.20 12-27N, 107-40E)

機銃室後部にノ本命中、瞬時に機銃室、カス兵員室に満水し、50秒後後部より轟沈した。生存者は20名に過ぎなかった。上記以外の艦の状況は不詳である。

6. 迎防艦

(1) 38号 (44.11.25 14-33N, 119-51E)

艦橋下に被雷瞬時に切断、前部沈没後、後部は漂流したが、75分後沈没、生存者は士官1、下士官兵91名であった。

(2) 久米 (45.1.28, 33-55N, 122-55E)

機銃室中央に命中火災が全艦に拡大し、3時間後艦員退去、

(60)

更に3時間後沈没した。

(3) ノリス号(45, 欠ノ8 46-6N 14ス-16E)

艦に被雷艦に傾斜し中部より切断艦より没入し数分間で沈没した。生存者は4名で准士官以上は皆無であった。

その他の艦の詳細は不明である。

ス 敷設艦

(1) 津 軽(44, 欠ノ7 ス-ス3N, ノスク-54E)

ノ本が上部機雷庫艦に命中し、上下機雷庫は漏水し、冷却機室、冷蔵庫にも漏水の結果漏水し、レーダー、水測兵器、測深機、ジャイロは使用不能となり、最初ノスクを航行は可能であったが沈没した。生存者は171名であったが、内出血をしていた者が多かった。

(2) 蒼 鷹(44, 欠ノ26 ク-10N, ノ15-40E)

0410被雷のため艦を切断され、3ノを航行中、0715オス東が機庫室に命中し、ノスク45沈没した。戦死38 行方不明64 戦傷144を出した。

沖ノ島、白鷹、敬島、初鷹の状況は不詳である。

8. その他の艦艇

(1) ク号掃海艇(44, 欠ノ15 アンダマン)

艦に被雷、爆雷庫が大炎災となり、1時間後沈没し、戦死26 戦傷10を出した。

(2) 鷹 (44, 欠ノ8 ルソン西)

艦橋下に被雷、艦橋より前部は切断し自艦の臭雷が誘爆沈没した。生存者准士官以上4、下士官兵8スであった。

以上の外詳細不明である。

第4章 機雷によるもの

1. 航空母艦

(1) 初鷹(45, 欠ノ26 別府沖)

ク月24日被雷と至近爆弾により、左右軸室、臭雷格納庫、

(61)

右部弾薬庫、軽油タンクに約1000トンの浸水を生じ、船機もタービン台が亀裂し、少量浸水、送水管組、注油ポンプ皿も亀裂を生じ、4番缶は重油管が破損3号重油噴燃ポンプが破損された。4番高圧機、4番噴進砲は使用不能となり、発電機は1台のみ使用可能として残り航行不能となった。

翌朝右部ク区画の浸水は遡防困難となった。8月10日右部の浸水は3000トンに達し各部の漏水は毎時60トンとなり遂に着底し、漸次艦に傾斜し発着甲板の左縁は全部海中に没した。

ス. 駆逐艦

(1) 陽 炎(43, 欠ノ8 コロンバンガラ南)

水中機雷3発の爆発により、船体に相当の損傷を蒙り、航行不能となって漂流中、飛行機の銃爆弾により誘爆を起し、浸水増大沈没した。

(2) 黒 潮(43, 欠ノ8 コロンバンガラ南)

ス番砲塔下附近に水中機雷3発が爆発し、臭雷の爆発が誘爆した模様で轟沈した。

(3) 桜 (45, 欠ノ11 大阪)

右部に被雷し直に投錨した。ス缶室右機は使用不能となり、右部兵員室以後は上方に屈曲し、火災が発生し艦にノ7度傾斜した。20分後右部弾薬庫が誘爆して大火柱がスつ上り、横倒しとなり144分後艦より沈没し130名が戦死した。

(4) 初 霜(45, 欠ノ30 宮津湾)

ス3缶室中前に被雷し、艦底に大亀裂を生じ船体はフの字型に屈曲し、次々オス発目の被雷により爆雷が誘爆し、1番煙突以後は全没着底した。戦死13、重傷78、軽傷68を出した。天霧、巻雲については詳細は不明である。

3. その他の艦艇

(1) 海防艦目斗(45, 欠ノ44 部崎)

45兵員室附近に被雷し、20分後横転し艦に横転した。戦

(62)

死3名

(2) ス7号掃海艇(45.5.7 下関近海)

機銃室前方に魚雷、艇は大破し、機銃室及び缶室は満水し

放棄された。

復讐、掃海艇については詳細は不明である。

(63)

第 2 編

連 合 国 艦 艇 沈 没

(喪 失) の 状 況

連合國艦艇沈没(喪失)数一覽表

船種	沈没理由	航空攻撃 (焼沈以外)	特攻機	水上機	潜水艦 攻撃	機雷	原因不明	合計
B	B	8						8
C	V	2			2			4
C	V L	2						2
C	V E		3	1	1			5
C	A	3		7	1			11
C	L	1		5	1			7
D	D	12	14	23	6	3	2	60
D	M S	2	2					4
D	E		2	1	3			6
A	V	1					1	2
C	M	2						2
L	S T	2	4				7	13
L	S M		4				4	8
L	C T						12	12
L	C I	1		1			8	10
L	C S			3			1	4
P	(S) C	1	1	1			3	6
M	S	3	1			2	5	11
P	G			1			7	8
計		40	31	43	14	5	50	183

連合艦隊沈没(喪失)表 ----- 航空攻撃(特攻を除く)の部

艦種	年月日	地点又は海戦名	艦艇名	命中兵器	記事
BB	41.12.8	真珠湾	アリソン	T(A)×数機 B×8	記
"	"	"	オクラホマ	T(A)×5 B ²⁵ ×多	"
"	"	"	ウエストウイング	T(A)×6 B ²⁵ ×多	"
"	"	"	カリフォルニア	T(A)×2 B×2	"
"	"	"	ネバダ	T(A)×1 B×6	"
"(標)	"	"	ユタ	T(A)×2	"
"	41.12.10	ラワンタン沖	レパルス	T(A)×5 B×1	"
"	"	"	ソリスタブカス	T(A)×3 B ²⁵ ×多	"
CV	42.5.8	珊瑚海	レキシントン	T(A)×2 B ²⁵ ×数機	"
"	42.10.26	南太平洋	ホーネット	T(A)×5 B×5 Y×1	"
CVL	42.4.1	印度洋	英ハーメス	B ²⁵ ×37	20分以内に沈
"	44.10.24	ルソン東方	ソリントン	B×1	記
CA	42.4	印度洋	英トットン	B ²⁵ ×31	13分で艦沈没 } 死425.
"	"	"	英コンウォール	B ²⁵ ×8	
"	43.1.30	レンネル島沖	シカゴ	T(A)×6	記
CL	41.12.8	真珠湾	ラレー	T(A)×1 B×1	"
DD	41.12.8	"	カレン	B×1	"
"	"	"	タラント	B×3	"
"	42.2.17	ジャワ周辺	和ファンネス	B	生存なし
"	42.2.19	ポトダライン	ピアリー	B×5	記
"	42.2.24	ジャワ周辺	和ウテンカート	B	"
"	42.4	印度洋	英ウアンパヤ	B ²⁵ ×13	"
"	42.5.7	珊瑚海	シムス	B ²⁵ ×3	記
"	42.8.9	ガダルカナル北	ジャーヴィス	T(A)×2	"
"	42.10.15	サンクリストバル島	メアディチ	B T(A)	艦長以下185 戦死
"	43.2.1	イサベル島沖	デハウン	B×1 B ²⁵ ×1	記
"	43.4.7	フロリダ島沖	アロンワード	B×1 B ²⁵ ×4	"

艦種	年月日	地点又は海戦名	艦艇名	命中兵器	記事
DD	43.12.26	ニューブリテン沖	スロウソン	B×2	記
AV	42.2.28	ジャワ南方	ランワレー	B×5 B ²⁵ ×2	"
CM	41.12.8	真珠湾	オクララ	B ²⁵ ×1 / 艦長のT(A)×1	"
"	45.2	流黄島	ギヤムフル	B	"
MS	41.12.8	クアム	ペンギン	B	"
"	41.12.10	キヤビテ	ビターン	B	"
"	42.10.15	ソロモン	ガイレオ	B	"
LST	44.12.21	シンドロ	749	B	放棄
"	44.12.29	"	750	T(A)	機関室命中大波自沈
LCI	44.6.17	13-28N 148-18E	468	B	航行不能或機失敗 死15海兵
PC	45.5.26	26-25N 127-58E	1603	Y	"
DMS	45.1.6	リンカエン	ホウエイ	T(A)	3分で沈
"	"	"	パルマー	B×2	"

(68) 連合国艦艇沈没(喪失)表 ---- 特攻機の部

艦種	年月日	地 域	艦 艇 名	命中機数	記 事
CVE	44.10.25	比 島 沖	セントロー	?	記
"	45.1.4	ルソン沖	オマニーベイ	?	"
"	45.2.21	硫黄島沖	ビスマークレー	2	"
DD	44.11.1	比島周辺	アプナーリト	1 外にB×1	記
"	44.12.7	"	マハン	3	"
"	44.12.11	"	レイド	4	"
"	45.4.6	沖縄周辺	フツレユ	3	"
"	"	"	コルホーン	4	"
"	45.4.12	"	マナトリアベル	1 外に機1	"
"	45.4.16	"	フリンゲル	1 外にB ² ×2	"
"	45.5.3	"	リツツル	4	2分で沈
"	45.5.4	"	ラス	2	記
"	"	"	モリソン	4	"
"	45.5.28	"	ドレックスラー	2	"
"	45.6.10	"	ウリアムDボナー	3機×1	"
"	45.6.16	"	トウィックス	1 他にTAXI	"
"	45.7.29	"	カラクハン	1	"
DMS	45.1.6	リンガエン	ロ ン ク	1 及び 3機×2	"
"	45.4.6	沖縄周辺	エモンズ	3	"
DE	45.1.9	リンガエン	ホツジス	1	粉碎
"	45.5.9	沖縄周辺	オバレンダー	1	記
MS	45.4.22	"	スワロー	?	
LST	44.12	比島周辺	460	1	
"	44.12.15	ミンドロ	472	1	記
"	"	"	738	1	"
"	45.4.6	沖縄沖	447	?	
LSM	44.12.7	比島周辺	318	1	粉碎

艦種	年月日	地 域	艦 艇 名	命中機数	記 事
LSM	45.5.4	沖縄周辺	190	2	喪失
"	45.5.4	"	194	1	
"	45.5.3	"	195	1	
SC	44.11.27	タクロパン	744	?	

適合回艦艇沈没(喪失)表 ---- 水上戦闘の部

艦種	年月日	地点対海戦名	艦艇名	命中兵器	記 事
CYE	44.10.25	比 島 沖	ガンビアベイ	S×数10	記
CA	42.3.1	バタビヤ沖	ヒューストン	S8"×46 TX4×6	"
"	"	"	英エクセター	S TX1	"
"	42.9.8	オ3次ソロモン	豪カンバラ	TX2 S×25以上	"
"	"	"	グインセンス	S×多	"
"	"	"	フインレー	S×3 TX4×5	"
"	"	"	アストリア	S×多	"
"	42.11.30	ルンガ沖	ノーザムプトン	TX2	"
CL	42.2.27	スラバヤ沖	和デロホテル	T S	大火災 必耗洋菜新操
"	"	"	和ジャウア	T	大火災
"	42.3.1	バタビヤ沖	濠 パース	T×4	"
"	42.11.15	オ3次ソロモン	アトランタ	TX2 S8"×19 S5"×25	記
"	43.7.5	クラ 湾	ヘレナ	TX3	"
DD	42.1.29	エンダウ沖	英サネット	S5"×多	"
"	42.2.20	バリ島沖	和ピトハイン	S02T	誘爆 喪失
"	42.2.27	スラバヤ沖	和コルテノル	T	"
"	"	"	和ウッテネット	?	"
"	"	"	英エレクトラ	S×多	記
"	"	"	英エンカウンター	S	火災致命的
"	42.3.1	バタビヤ沖	ホーフォ	S B	記
"	"	バリ海峡	ピルスパット	S	45の砲臺10斉射で沈 生存0
"	"	1146N 126°0'E	エドセイル	S	"
"	42.8.22	カタルカナル沖	フルー	T×1	記
"	42.10.12	サボ島沖	ダンカン	S×数発	"
"	42.11.12	オ3次ソロモン	バートン	TX2	"
"	"	"	カッレンク	S(8"5")× 多	"
"	"	"	レフイ	S44 数発 TX1	"

艦種	年月日	地点対海戦名	艦艇名	命中兵器	記 事
DD	42.11.12	オ3次ソロモン	モンセン	中口魚雷34 大口径S×3	記
"	42.11.14	"	ウオーキ	TX1 S140×多	"
"	"	"	フレストン	S8"×3 S6"×2	"
"	"	"	ベンハム	T×1	"
"	43.7.12	ゴロンバンガラ	クウイン	T×1	"
"	43.8.7	ベラバラ島沖	レバリア	T×1	"
"	44.10.25	サマール沖	ホーレル	S(4"8"5")×40以上	"
"	"	"	ジョンストン	S×9以上	"
"	45.5.18	沖 縄 沖	ロンクジョウ	艦S×多	"
DE	44.10.25	サマール沖	サマールロバツ	S(4"8")×約20	"
LCI	45.2	流 黄 島	474	艦S×14	"
LCS	45.2.16	コレヒドール	7	震洋×1	柱及び上部構造物 吹飛ば
"	"	"	26	"	"
"	"	"	49	"	"
PC	45.1	サンヤコブイト	1129	"	転覆
PG	42.3.3	南ジャワ	アジュヴィル	S	生存0

(72) 連合艦艇沈没(喪失)一覽表 ----- 潜水艦雷艇の部

艦種	年月日	地 点	艦 艇 名	命中雷数	記 事
CV	42.6.6	ミッドウエー	ヨークタウン	2 他に ^{B25X3} _{T(A)X2}	記
"	42.9.15	ソロモン	ワス フ	3	"
CVE	43.11.24	タラワ沖	リスコムベイ	1	"
CA	45.7.31	グアム付近	インディアポリス	2	"
CL	42.1.14	ガダルカナル沖	ジュノー	1 他にTX1	"
DD	42.6.6	ミッドウエー	ハマ ン	1	"
"	42.10.19	ヌメア北方	オブライエン	1	"
"	42.10.26	南太平洋	ポーター	1	"
"	43.7.5	クラ 湾	ストロンク	1 他にSX2 ^射	"
"	43.10.3	7-10S 14806E	ヘンレー	1	"
"	44.12.3	比 島 周 辺	フーパー	?	"
DE	44.10.3	2-32N 129-13E	レイルトン	1	"
"	44.10.29	レイテ湾	インソール	2	"
"	45.7.24	19-20N 124-42E	アンダーヒル	?	"

連 合 国 艦 艇 沈 没 (喪 失) 表 抜 粋 の 部

艦種	年月日	地 点	艦 艇 名	命中雷数	記 事
DD	42.2.27	スラバヤ沖	英ジュピター	1	船体両断喪失
"	42.8.4	スピリット島	タッカー	1	
"	45.5.26	沖繩周辺	ハリカン	1	
MS	45.3		スカイラフ	2	
"	45.	フルネー	サリュート	1	

(74)

連合司艦艇沈没(要失)表 原因不明の部

艦種	年月日	地 点	艦 艇 名	死 者 数
DD	42.2.1	ジャワ周辺	和イゾルフェン	
"	42.2.13	"	和ファンテント	バンカ島へ擱坐
AV	45.4.5	24-24N 138-58E	ノントン	
MS	42.4.10	コレヒドール	フィンチ	
"	42.5.4	"	ヌナガー	
"	42.5.5	"	フォイル	
"	42.12.29	アリエーラン	ワスムス	
"	44.10.3	パラオ沖	ペリ-	
LST	43.7.18	9-03S 158-41E	342	
"	43.8.18	8-18S 156-55E	396	
"	43.9.25	ペララペラ	167	
"	43.10.1	"	448	
"	45.2.11	8-11N 130-22E	577	
"	45.4.4	沖縄周辺	675	
"	45.5.20	伊江島沖	808	
LSM	44.12.5	10-12N 125-19E	20	
"	45.4.4	沖縄周辺	12	
"	45.5.25	"	135	
"	45.6.21	"	59	
SC	43.6.17	15-32S 147-06E	740	
"	43.6.22	21-56S 113-53E	751	
"	43.4.19	アソソ沖	1067	
LCT	43.8.27	キスカ	319	
"	44.7.23	エニワトク	315	
"	44.8.7	ソロモン	182	
"	44.12.10	レイテ沖	1075	
"	45.1.21	ヌラワ	253	

(75)

艦種	年月日	地 点	艦 艇 名	死 者 数
LCT	45.1.26	1-0N 138-36E	1091	
"	45.2.21	4-27N 133-40E	175	
"	45.3.2	硫黄島	1029	
"	45.3.26	ルソン沖	1090	
"	"	"	1151	
"	45.4.21	ブナム	995	
"	45.7.27	伊江島沖	1050	
LCT	43.9.4	ニューギニア沖	339	
"	44.9.18	パラオ沖	459	
"	44.10	レイテ	1065	
"	44.11.12	サマル沖	684	
"	45.1	リングエン	974	
"	"	"	365	
"	45.1.12	"	600	
"	45.4.4	沖縄沖	82	
LCS	45.4.2	27-20N 127-10E	15	
PG	42.4.4	コレヒドール	オアフ	
"	42.5.4	"	ミンタサオ	
"	42.5.5	"	ルソン	
"	43.5.28	ソロモン	ナイヤカラ	
PGM	44.7.18	ビスマーク海	7	
"	45.4.8	26-13N 149-54E	18	
"	45.5.4	沖縄沖	17	

第2編 記 事

目 次

第1章	航空攻撃によるもの(特攻艇を除く)	79
1.	戦艦 ナリゾナ、オクラホマ、ウエストヴァー ジニア、カリフォルニア、ネバダ、エタ レパルス、プリンスオブウエルス	
2.	航空母艦 レキシントン、ホーネット	
3.	小型航空母艦 プリンストン	
4.	重巡 シカゴ	
5.	軽巡 ラレー	
6.	駆逐艦 ダウング、カルン、ピアリー、シムス、 ジャーヴィス、デムヴン、アロンウオード ブラウンソン	
7.	水上特母艦 ラングレー	
8.	救護艦 オブララ	
9.	上陸用艦艇 掃海艇、駆潜艇、砲艦	
第2章	特攻艇によるもの	91
1.	護衛空母 セントロー、オマニーベイ、ビスマ ークレー	
2.	駆逐艦 アブナーリード、アハン、レイド、 ブッシュ、コルホーン、マナートレアベル、 プリンゲル、ラス、モリソン、ドレッキスラ ー、ウィリアム D、ポーター、ソウィッグ ス、カラグハン	
3.	高速掃海艇 ロング、エモンズ	
4.	護衛駆逐艦 オバレンダー	
5.	LST 422、238	
6.	その他の艦艇	

第3章 水上戦によるもの 97

- 1. 護征空母 ガンビアベイ
- 2. 重巡 ヒューストン、英エフゼター、豪カンベラ、
グインセンス、クインシー、アストリア、
ノーザムプトン
- 3. 軽巡 アトランタ、ヘレナ
- 4. 駆逐艦 英エレクトラ、ポープ、ブルー、
ダンカン、カンニング、バートン、ラフェイ、
モンセン、ウォーキ、プレストン、バンナム、
ダウイン、シエバリエ、ホール、ジョンストン、
ロンブシヨウ
- 5. 護征駆逐艦 サシユエル、B・ロバーン
- 6. その他の艦艇

第4章 潜水艦によるもの 104

- 1. 航空母艦 ヨークタウン、ワスプ
- 2. 護征空母 リスコムベイ
- 3. 重巡 インディアナポリス
- 4. 軽巡 ジュノー
- 5. 駆逐艦 ハマン、オブライエン、ポーター、
ストロング、ヘンレー、クーパー
- 6. 護征駆逐艦 エバソール、アンダーヒル

第5章 空襲によるもの 108

連合国艦艇沈没（喪失）の状況

第1章 航空攻撃によるもの（特攻機を除く）

1. 戦艦

(1) アリゾナ（4/12、8 真珠湾）

オ1次攻撃（0755～0825）に於て、1～2本の魚雷が外側の工休艦ヴェスタルの艦底を潜りて中実より僅かに前部に命中。次で急降下の爆弾が、1は艦覆、1は4番砲塔盾に命中爆発。暫時して1発艦橋を貫通し短艇甲板で轟発。致命的な1発は煙突中へ入った。（煙突内の防策は当時米海軍に未だ殆どなかつた）此の爆弾により前部ボイラが爆発し、先に起つたクォーターデッキの火災は、重油タンクより流れ出た重油に引火し、全艦の周囲の海水は焰に包まれた。3番砲塔への火災拡大を防ぐにも消防主管の圧力はなく、14本のCO₂で僅かに之に充したに過ぎなかつた。火勢は益々烈しく火薬庫注水を決意したが、どうしたことが注水装置の鍵が見当らず、その捜索に手間取っている間に、遂に前部火薬庫が誘爆し、火柱は500'に達し前半部は完全に破壊された。此の誘爆を起した爆弾は前記煙突中へ入ったものと思われるが、一方2番砲塔横に命中貫徹し、前部火薬庫群中で爆発した大型爆弾とも云われている。

アリゾナは内側真留であつたので、本来魚雷には安全であるべき所、外側のヴェスタルより艦が100'も飛出していたため、防護とならず、数本の魚雷が命中した。爆弾も更に4発が艦橋とろ脚橋中間の上部構造物に命中し、在泊艦中最大の被害を生じた。

0900 漸く総員退去が令せられたが、乗員は艦橋乗艦中のマリニ軍楽隊員に至る迄勇敢に配置を離れず奮闘し、戦死士官47、下士官兵1056、負傷士官5、下士官兵59と、今次大戦中米海軍最大の損失を記録したにも拘らず1032名生存者は艦内に留って消火と傷者搬出に努めた。死者の大部は艦内に閉込められて溺死又は焼死した者で、その遺体は15年を経た今日尚多数艦

内から引揚げられていない。

(2) オクラホマ (4/12/8 真珠湾)

空襲最初に攻撃され、General Alarm と殆ど同時に15秒以内の間隔で早くも魚雷3本が命中し、忽ち25~35°舷に傾斜した。Condition 又は右舷注水も余裕なく、重油のため上甲板は又ル又ルとなって作業は困難を極め、機銃さえも傾斜のため1、2を除いて射撃不能となり、数分後隊員退去が命令された。襲撃開始時更に魚雷2本が舷側装甲上方に命中し、機銃掃射も一面に命中爆発した。攻撃開始後20分で150°に傾覆し、マストが湾底に着いて断く止った。戦死士官20名下士官兵395、戦傷士官2、下士官兵30を出した。此の間傾覆した艦中に閉じこめられた者の中、30名は舷側をガス切断して救出された。

後日同艦引起しが計画され、オ1段として正確な傾斜模型を複製し、潜水夫の参考とし、次で潜水夫により魚雷の孔を閉塞密封し、空気を圧入し18,000トンの浮力を得る作業が行われた。作業中艦内の食糧、被服、死体等有持物分解の毒ガスが物凄く排水後も防毒面を被って断く作業可能という状態であった。以上の準備作業に1年以上を要した。

浮力回復後高さ40の三角形木枠21個を艦底に構築し、其の頂点の鋼製キヤップから6本の太い鋼索を引き、之を転覆した艦の舷側に溶接した環に届し、其処で最大の捩り力を加わせた。各キヤップから16輪滑車を履き、2本の鋼索が8,000:1の力が加わるようフォード島のコンクリート基礎に据付けられた5馬力の電動ウインチに連結された。

1943年3月21日のウインチで100時間以上を費し、90°位の引起しに成功した。次で木枠と鋼索を取外し、上甲板に新しい掛りを依り完全に引起したが、損傷が大きく旧式艦であるので屑鉄として買却され、戦後米国西岸へ単航の途次、荒天のため沈没した。

(3) ウェストヴァージニア (4/12/8 真珠湾)

フォード島の飛行場に対するオ一発を事故によるカリフォルニアの爆発と見て Fire and Rescue Bill を発動したので、General Alarm も比較的早かった。突って0756オ1波の魚雷6~7本が命中したが死傷者は少かった。命中雷の内4本は、傾斜中艦中央部舷側の装甲部への命中であった。オ1番で動力燈台通信は廃滅し、舷高角は射撃不能となった。砲術砲も傾斜が甚しいため、連弾員を2列に並べ1列は支えとなって射撃する有様であった。

注水も命ぜられたが電音不通で通達せず(サウンドパワーは未だなかった)病牛の中尉が独断で注水を閉鎖し、25°の傾斜を15°に復元し、そのため着底はしたが転覆を免れた。

爆弾は少くも2発命中し、内1発は火災を発生させた。その他至近弾が多数あり、バルジ部に甚大な損害を与えた。爆弾1発はオ3、オ2、主甲板を元のオ3甲板より下オ10'位も陥没させ、艦底には皺が寄り着底部擦り曲った。

南戦後数分で砲術弾薬はなくなり、アリゾナの破片が燃えつゝ雨下し、上甲板は火の海となりそれより1等向半は負傷者を除き全員防火に従事した。0940迄に諸から1番砲塔は猛火に包まれ、前檣樯に及び、約100名が爆発のため海中に沈没された。1005完全に燃え尽し火災は上部構造物をなめ尽したので、隊員退去が命令された。次で Salvage Group を組織して再乗艦し、他の援助もあって午後半掛って断く火災を鎮火した。消火のため艦長殿達が犠牲して作業に協力した。戦死は士官2、下士官103、負傷は下士官兵52名と意外に少数であった。

引揚再就役した艦隊中本艦は修理に最長期を受け、昭和19年5月12日に浮揚したものの艦隊復帰は昭和19年であった。

魚雷による裂目は長さ120' 高さ12~15'の一連の物凄いもので、到底閉塞出来ないのでその大破孔に対しては、深さ50'の巨大な潜函を穿つも系列につくり、一つの外壁を構成し、重錘を付して沈下し、艦底との間隙は水中で固まるトレミツクセメントで閉塞した。排水浮揚後は工廠ドックへ曳航し乗員により艦内

(82)

を帰帰し、G.E.によって主発電機主電動機の巻換を行い、自力でプレマートンに回航し大改装が行われた。主なものは鉄を溶接構造とし重量を減じ、その他で吃水2 1/2'が上ったこと、甲板、砲塔の装甲を2倍としたこと。防水設備の増大、新換気装置系の採用、新消防主管、新液体燃料系装備、バルジの増大により巾は、98.5'より114'へ増大、主砲交換、対空兵器の増備(5"2連装16門、40耗4連装16基、20耗82門へ)である。

(4) カリフォルニア(4/12、8 真珠湾)

戦闘準備が最も欠けていた。同艦は旗艦であって、所謂評点釣上によって、提督の面目を失わさぬため、検閲の欠点を看過する慣習があった。後艦は特に構容を保つため、金物替や宴会用品の手入等に人員を多くとられ、自立たぬ所の整備がおろそかになり勝であった。丁度検閲前で2重底やマンホールの中ケ前は開放の態であり、他の12ヶ所は覆んでいた。更に余りに多数の士官が上陸中で、残留士官の処置も悪く、General Alarm Condition 又は遅延した。

0805 又は未完成、機銃も未だ射撃せぬ中に魚2本が艦橋前方と3番砲后方に命中し、忽ち8度の傾斜を生じたが、1少尉が独断で舷に注水し転覆を防いだ。

準備不完全の状態を受けた損害は甚大なものとなり、前方の魚雷で重油タンクが浸水し、其の処置が終らぬ中に電灯動力は停止し、命中后5分で人力揚弾に止むなきに至った。

0825 爆弾1発が下方高角砲弾薬庫で炸裂し、爆風と火焰は開放した弾薬通路を吹抜け、50名が戦死した。オ2発目は艦の鋼板を破った。

其の后漸く応急班も活躍し、0855 電灯動力水圧が回復し、全員消火作業に掛り、一応鎮火した。0910 に至り4缶使用で出港準備が完了した所、向もなくアリゾナからの引火重油が痕を覆い、1002 艇員退去が令せられた。向もなく油は瓦で吹飛ばされたので、1015 艦長は全員復帰を命令したが、誰もこれに従わな

かった。

その中戦斗被害と防水麻蓋の不閉鎖及び通風筒破裂の3原因により、浸水が累進的に増し徐々に沈下を始めた。

掃海艇2隻が接近して排水ポンプを使い、更に移動ポンプも他艦船から続々供給したが沈下は止まず、浸水は拡大を続け、12月30日深夜上甲板以上を海面に表わした位置で擱坐した。戦死士官6、下士官兵92、戦傷士官3、下士官兵58、昭和17年3月24日再浮揚に成功、プレマートンに回航し、ギルバート作戦直前艦隊に復帰した。

尚本艦は重油を満載していたが、魚雷爆発により下甲板は重油だらけとなり火災が各処に起り、有毒ガスや蒸気が艦内に充満し着しく作業を阻害した。

(5) ネバダ(4/12、8 真珠湾)

先ず魚雷1本が命中し、長さ45' 高さ30'の大破孔を生じ、多数区画に浸水したが動力に異常を生じなかった。

0825 急降下の爆弾2、3発が命中したが、戦艦群では最も早く航行準備を整え掌帆長が岸壁迄泳いで繫留索を解いた。機関科は后30分を要すると報じたが、艦長は強引に索を放ち、后進を令し速かにアリゾナから隔離することに努めた。アリゾナの附近を航行中砲術科員は身を以て弾薬を守った。此の迅速な行動により本艦はアリゾナの燃える重油から逃れることが出来たが、水道航行中泉中爆薬により250kg爆弾6発を受け、消防主管は破裂して水が出ず、前部は相当徹底的に破壊され、上部構造物は大部分爆砕炎上し、単艦2隻の援助で消火に努めたが、航海艦橋、西図室甲板は全焼した。機関部の被害はなかったが、浸水が拡大して洋頼に擱坐した。昭和12年2月12日浮揚してピューゼットサウンドに回航修理、18年未艦隊に復帰した。

(6) エタ(4/12、8 真珠湾)

0801 非装甲部に魚雷が命中し、舷に短時間で急傾斜した。0802頃更に1本命中し艇員退去が令せられた。大傾斜によっ

(84)

て甲板に張られた重い材木が滑り、其の下敷で多数の死傷者を出した。

0805迄に傾斜は40度に達したが、均熱灯は断けられ、発電機室へは連絡不能、缶室の残留員も最後に汽嚙を継ぎ續して戦死した。

0812最後の繋留索が切れて顛覆した。乗員は救急箱を持ってフォード島へ上陸した。発電機員は最後まで留り、レンチと応急灯を持ち沈着にマンホールより脱出した。又艦内に閉じこめられた者は、ラレーよりの切断要具で艦底より救出された。戦死52名

(7) レパルス (41. 12. 10 マレー沖)

1118 9機の水平爆撃が1発命中したが大した被害なし。

1220 魚雷1本命中、艦に傾斜が増大。

1223 9機の雷撃中、4本命中 1233 頭覆轟沈

(8) プリンズ オブ ウェルス (41. 12. 10. マレー沖)

1141 水平爆撃1発がP4砲塔舷に命中。

1220 舷に魚雷3本命中。

1246 水平爆撃1発命中。至近弾多数で大被害をうけ、5.25" 砲2門の外砲撃機能を喪失。

至近弾により推進器、舵を失い航行困難。

13.20 顛覆沈没

駆逐艦エクスプレスは横付けして救難に当った。

2. 航空母艦

(1) レキシントン (42. 5. 8 珊瑚海マ戦)

11時よりの空襲を予期し、総員配置に就け、飛行機即時待機 Condition 又とし、1055より25kt 次で30ktに増速した。巨体のため旋回圏が大であり1100以後雷撃機の掠襲により回避成らず、1120 艦前部1本艦橋舷1本の魚雷が命中し、更に回陸中大型爆弾1発が舷側急弾薬庫で爆発した。至近弾も数発あって舷側は大破孔が多数生じ更に1発が煙突で炸裂した。

傾斜は左へ7度となり、3つの缶室が部分的に浸水し、昇降機

(85)

は運転不能。3ヶ所に火災を生じた。直に重油移動が行われ、傾斜は復原し、魚雷の破孔は支柱で支え浸水は防がれ、火災も1230頃迄に鎮火した。

1247 ガソリン蒸気が運転中の発電機の火花が引火大爆発し、以後連続的に猛爆発が起った。

1414 尚も25ktを保持したが、艦内通信は次々に杜絶し、応急指揮所も大損害を受け、指揮官ピアリー中佐以下は戦死した。

1445 第2回目の大爆発により、缶室炭焼室の通風装置が大破し、運転継続が困難となり、他艦隊の救援を求めた。30分程消火作業は打切られ、1510 在空の飛行機は全部ヨークタウンへ収容を指令された。

既に艦内は手がつけられぬ程となり、格納庫内の魚雷頭部は、140°Fとなり、応急爆弾庫も又火災現場に近く大爆発の危険に曝された。

各機関室も手がつけられず、通信装置は電話1本を残して次々杜絶したので、遂に「機関科員上入」の令が下され、1630 停止し安全弁を開放した。

次で退去用意が令され、負傷者を艦長公室より150名を担架で大型ボートへ移し、各室を密封し1707 総員退去し、駆逐艦の魚雷で処分した。

戦死は219名で 飛行機36機と共に海没した。

(2) ホーネット (42. 10. 26 南太平洋作戦)

1000 急降下による爆弾1発が舷側部飛行甲板に命中し舷に2発の至近弾が落下した。

次で被弾機が煙突に命中し、ガソリンを後甲板に散布すると共に塔翼爆弾も爆発し、発着甲板及びその下の甲板に大火災を起した。

更に魚雷2本が機庫室に命中し全動力通信が杜絶し、艦へ10.5度傾斜した。

間もなく250kg 爆弾が3発命中した。1は右部に命中しホ

(86)

4 甲板迄貫通爆発し、2 発目は発着甲板で炸裂、3 発目は前部高炊前附近より 3 号甲板間で炸裂し、多数の戦死者を出すと共に火災を発生した。

2 分後雷撃機が 1 機前部砲座へ命中爆発し、砲を吹飛ばし艦を傾斜させた。

10 21 迄に艦は航行不能となり、大火災が数ヶ所に荒狂い、艦は傾斜、漂流状態となった。

駆逐艦 3 隻が横付消火に協力した。モリスはホース 2 本を発着甲板へ 1 本を艦橋へ伸し、ルツセルは艦橋へムスチンは艦中部の消火に当たった。

正午前には火災は下火となりそうであったので、11 06 重巡ノーザムプトンが曳航を命ぜられたが、その時急降下 1 機が来襲し艦橋に至近弾を落したため、11 30 頃には曳航準備が完成したにも拘らず、14 30 漸く曳索をとった。獲艦はパンサゴラへ移され、500 名が退艦し、3 号甲板で曳航を開始し乗留者は動力復旧に努力中、15 40、6 機の雷撃機が来襲した。その 2 機がノーザムプトンへ向ったため、曳索は放たれホーネットには艦に 3 本の魚雷が命中（内 2 は不発）し、更に急降下 5 機の攻撃による至近弾で破口が拡大し、乗員退去が命された。

その後 6 機の水平爆撃（1 発命中他は至近）、4 機の急降下（至近弾）を受け、駆逐艦が雷撃したが尚沈まず。その時日本側水上部隊の発見する迄となり、駆逐艦は逃走した。日本側は 1 時之の曳航を試みたが成功せず、結局駆逐艦で雷撃処分した。

3. 小型航空母艦

1) プリンストン (44. 10. 24 ルソン東方)

07 38 被爆。破口は小さかったが、不幸にも格納庫中に雷着した 6 機があり爆弾は 1 機を貫通し格納庫と 2 号甲板間で爆発した。焰は機関科区画を吹下し、直に火災が発生拡大し、艦側から猛煙を吹出した。缶室機械室は煙で充満したが、機関科員は OB A を附け「上れ」の命がある迄重転を継続した。

(87)

10 02 以後多くの誘爆で艦は裂け始めた。消防主管の圧力はなくなったが、数艦が救助に集り、13 00 頃には救助の見通しがつくに至ったので、軽巡バーミンガムが曳航を試みたが、20 Kt の風に妨げられて成功せず、横付して消火に当り 8 時間を要して殆ど火災は鎮火した。

突如火薬庫が大爆発を起し、缶室は空中に吹飛び艦の水中に落下し破片はバーミンガム艦上に雨下し、曳航準備中の甲板員、対空砲員、ホーズを引きつゝあつた応急班員や機関員等、上部に曝露した多数の乗員は爆発を真向から受け即死 233、重傷 211、軽傷 215 と一瞬一大修繕場と化し、上部構造物にも多数の破孔を生じ、ウルシーへ退却を余儀なくされた。

プリンストンの前半部は尚浮上していたが、軽巡レノの魚雷 2 本で処分された。本艦の戦死はク 行方不明 99、負傷 190 とバーミンガムに比し小であった。

此の外英ハーメスがあるが詳細は不明である。

4. 重巡

1) シカゴ (43. 1. 30. レンネル島沖)

最初の攻撃で魚雷 1 本が缶室に命中、舵取機も被害を受けた。次で 1 本が前部機械室に命中し、浸水を起し 3 号缶室は全滅艦は傾斜し航行不能となった。

翌 1 月 30 日被曳航で退却中、16 24 雷撃機の攻撃により艦に 4 本命中転覆し 16 43 沈没した。

他に英ドーセットニヤー、コンウォールがあるが、詳細不明である。

5. 軽巡

1) ラレー (41. 12. 8 真珠湾)

07 55 早くも 2 号缶室外側に魚雷が命中し、同室と前機が浸水し見る見る左へ傾斜して顛覆に瀕した。応急長と木工員は迅速に反対艦注水を命じたが、殆ど立直らないように見えただので、艦長は直に上部重量物の投棄を命じた。既に動力は停止したので 2 機

の飛行機は人力でフオード号入運び上げられた。魚雷は奥用頭部を除いて発射し、発射管もカタパルト揚貨機ブーム、放命機、残スターション、ダビット等悉く投棄した。次でポンツーンを舷側に懸付しワイヤで固定し、安定性を附与し、ブイに増設をとったので辛うじて転覆は免れた。其の他多数のワイヤやホースで艦を固定した。之等の作業は激烈な日本機の掃射を冒して行われた。1時間後危険は遠ざかったが、9時過ぎ800kg級甲爆弾が1発艦尾部に命中、救甲板を貫通艦外の海底で爆発し、大した被害はなかったが、漸次浸水が増加して擱坐した。

昭和17年2月浮揚に成功した。

6. 駆逐艦

(1) ダウンス (41. 12. 8 真珠湾)

尾部舷に100ポンド焼夷弾が命中貫通、乾ドックまで爆発し重油タンクを被爆発火させた。火焰は忽ち全艦を包むと共に、タンク内の重油が引火点に達するや大爆発を起し、更に大被害を生じた。魚雷奥用頭部は溶解し或るものは爆発しなかったが、少くも2発が誘爆し、100'以上の火焰と共に港内に破片の雨を降らせた。

更に2発の爆弾が命中し、その1発は海図室で爆発し、艦橋に大被害を生じた。

入渠中で蒸気、動力、水が工廠より供給されて居り、それらが攻撃によって切断されたため作業は著しく妨げられた。乗員は工廠のホースで岸壁から放水した。

ドックは直に注水を命ぜられが、表面の燃える重油のため結果不良で、0930火薬庫と前記魚雷の誘爆を惹起し、約1,000ポンドの発射管が、ペンシルヴァニアの橋樑に飛び、同艦の橋も破片で無数の凹みを生じた。損害甚大のため本艦は遂に放棄解体された。

(2) カッシン (41. 12. 8 真珠湾)

ダウンスと隣り合せて入渠していたが、主砲修理中で機銃のみ

で応戦、0820迄に修理部品を取揃え射撃を前線したが、以後ダウンスと同運命となった。乗員退去して岸壁から放水消火に努めたが、火薬庫魚雷の誘爆で損壊し、ダウンス上に折重なった。本艦も放棄解体された。

(3) ピアリー (42. 2. 19 ポートダーウィン)

5発の命中爆弾中最初の1発は艦に命中し、舵取機を粉砕し1発は烹炊所に命中大火災を起した。次で命中した2弾の内1発は前部弾薬庫を誘爆させ、最後の1発は艦橋に命中、艦体を両断沈没した。生存者は僅かに1名に過ぎなかった。

(4) シムス (42. 5. 7 珊瑚海々戦)

命中した250kg爆弾3発中の2発は機関室内で炸裂し、中央部が折れて艦より沈没した。煙突が水没した時大爆発が起り、残艦は10~15'吹上げられた。

沈没後も爆雷の小爆発が続いた。生存者は僅かに15名であった。

(5) ジャーヴィス (42. 8. 9 カタルカナル北)

8日昼間航空魚雷1本の命中により、戦死14、重傷7名を出したが、自力でシドニーへ退却中、漏水が増大したので高所の重量物を投棄し、ボート機を投棄して、8Ktで第1次ソロモン海々戦々場を油の嵐を引き艦を沈下させつつ航行中、9日1300艦攻の雷撃を受け沈没した。ボート機を捨てたことが福し、乗員247名が艦と運命を共にし、米側では終戦迄行方不明とされていた艦である。

(6) デヘヴン (43. 2. 1 イサベル島沖海戦)

艦橋に被爆し艦長は戦死し人や砲、甲板要具は空中へ吹飛ばされ、14名の士官中4名のみが生存しその中1人も重傷を負った。更に至近弾により艦の一部はクニヤクシヤとなり、艦から沈下火災は上部構造物を覆いつつ沈没した。

下士官兵は167名が戦死した。

(7) アロンウオード (43. 4. 7 フロリダ島沖海戦)

250kg 至近爆弾2発で破片多数を受け、1発は直車更に1分
后至近弾2発で大破したが、その傷は直には表われず、向もなく
5発への電力は停止し、両缶室へ浸水し前機の隔壁も破壊され浸
水は増大した。后機へも同航艇の亀裂より浸水し、6時間浮上し
綱坐を試みたが成らず沈没、戦死27、戦傷57を出した。

(8) ブラウンソン (43. 12. 26. ニューブリテン沖)

1430頃2番煙突根元に爆弾2発が命中し、火災を起し停止
した。1番煙管より3番砲座の上部構造物は吹飛ばされ、2つに
折れV状を呈し、1450放棄を命されて9分後沈没した。戦死
108。

その他 和ファンネス 同バンカート、英ヴァンパイヤ、メアディ
チについての状況は不詳である。

7. 水上機母艦

(1) ラングレー (42. 2. 28 ジマワ南方)

被爆のため上甲板の飛行機は次々に誘爆火災を起し、艦橋での
操舵は不能となり、ジマイロは破壊され左に10度の傾斜となっ
た。火勢を抑えるため合成反速を少とずるよう操艦したが、20
~25kt の速で効果少く、飛行機の海中投棄、反対舷注水に努
めた。

「ボート筏を卸す準備をなせ」という命令が誤解され、乗員は
我勝に海中へ飛び込み回収がつかず、向もなく特閉室が浸水し航行
不能となり、駆逐艦の砲雷雷で処分された。戦死は16名のみに
明らかな応急装置の不備による喪失であり、総員退去が早過ぎた
例でもある。

8. 敷設艦

(1) オグララ (41. 12. 8. 真珠湾)

軽巡ハレナの外側に横付けしていたが、本艦の艦底を潜りハレナ
に命中した魚雷の爆圧と、8時頃両艦の間に落ちた1発の爆弾
によりドック側へ転覆した。

排水のためハレナより水中電動ポンプを持って来たが、缶室に

浸水し電源がなくなり、使用不可能で0900総員齊艦、直ち
にハレナ外側より単航され綱坐した。

他にギヤムブルがあり状況不明である。

9. 上陸用艦艇 掃海艇、駆雷艇、砲艇

何れも命中兵器のみ判明しているものが若干ある外、詳細は不
明である。

第2章 特攻機によるもの

1. 護衛航空母艦

(1) セントロー (44. 10. 25. 比島沖)

命中機は途中で落ちたが、搭載爆弾は発着甲板を貫通して炸
裂し、以後大爆発が相次いで2つに折れ、艦が先づ沈み、9分
後艦も沈没した。

(2) オマニーベイ (45. 1. 4. ルソン沖)

大爆発を起し火焰に包まれ左に傾き、日没迄火災が止らず、
駆逐艦の魚雷で処分した。

(3) ビスマークシー (45. 2. 21. 硫黄島沖)

1825ノ刻が后部昇降機の本線と発着甲板の中間に命中し
ケーブルカーが切れ昇降機は底に墜落した。防火カーテンとス
プリングラ装置は即座に返されたが、消防主管被害のため最
も必要とされる場所の本線が出来ず、手空き総員后部へ集り消
火にかかった。

次でオ2機が昇降機直前に命中し、防火隊は総員戦死を遂げ
た。その爆発で隔壁は屈曲し、甲板を破られ、多量の弾薬とガ
ソリンを抜いていない飛行機に引火、魚雷も誘爆し、25分に
亘って火災爆発が相次いだ後、総員退去が令せられた。最後の
1人が降り艦長が退避すると同時に、艦が大爆発によって吹飛ば
び、破片によって泳者が多数傷ついた。残った艦体は数覆沈没
し、死者347名を出した。

2. 駆逐艦

(1) アブナーリード (44. 11. 1 比島周辺)

煙突中へ爆弾が落下し、汽酸中のホイラで爆発、その後特攻艇が中央部船へ命中し、後部煙突へ破片がとび、ガソリンの雨によって上部構造物に大火災が起り、砲術予備弾薬は誘爆を制止し、破片により多数の死傷者を生じた。火災は後部へ拡大し、7〜8分後5砲の弾薬庫が大爆発を起し、直ちに後部は裂けて垂下した。

魚雷は投棄された急班懸命の努力も空しく、浸水は破れた船体に激次拡大し、10分後総員退去と共に沈没した。

油の火災は沈没後数時間続いた。

戦死士官3、下士官兵 19、負傷士官1、下士官兵 55。

(2) マハン (44. 12. 7 比島周辺)

前橋に1特が命中して主砲盤より前部煙突に垂下し、ガソリンの雨で前部構造物全部に恐しい火災を生じた。

次でオ2、オ3特が木線附近に命中し、前部重油タンクの破壊により更に大火災を発生した、5砲の全動力は停止し、消防主管は破れて消火活動が困難を極め、火災は激次火薬庫に迫ったので、13分後総員退去、原潜ウォーキの魚雷で処分された。

(3) レイド (44. 12. 11 比島周辺)

オ1特は内火艇を引掛り反対舷海中へ落下、オ2特は艦橋より艇へ、オ3特はガソリンを曳きつゝ艦へ命中、オ4特は後部砲塔へ、又オ4特が15秒間に命中したため、艦は激しく左右に揺れ、特にオ4特により40発は吹飛ばされ、火薬庫の爆発を起し、スクリューを廻した際ズブズブと2分間で沈没した。生存者は152名であった。

(4) ブッシュ (45. 4. 6 沖籠周辺)

オ1特が1、2番煙突間より後部缶室へ突入、塔載の魚雷又は爆弾が前特で爆発し、後特も又缶の被害によって回転が低下した、爆発による塔載室通風口の破片はレーダーのアンテナを

吹飛ばした。

オ2特は複甲板に命中し複硫火災を生じた。

オ3特は艦に大穴を明け、火災が全艦に広がり航行不能となり、全動力は停止し甚しく傾斜し、2つに折れかかって沈没した。戦死は87、戦傷は42名であった。

(5) コルホーン (45. 4. 6 沖籠周辺)

オ1特が艦橋に命中粉砕し、オ2特は艦に命中、大破裂を生じ、オ3、オ4特は舷側へ命中火と破片とガソリンの雨を降らせ大火災となった。艦橋へ火災の煙が来ぬよう操艦し、魚雷、砲筒、其の他重量物投棄に努めたが艦へ大傾斜し艦を弄し沈没した。残った艦はカミンヤングの砲艇により処分された。本艦の火災では電気火災が頭着であった。戦死36、負傷は21名であった。

(6) マナート・L・アベル (45. 4. 12 沖籠周辺)

梅花で沈んだオ1艦で、先に特攻1特が後特艦に命中し、爆風で室内は一掃され、特機や人員が空中へ吹飛ばされた。

60秒後梅花が艦1番煙突直下に命中し、前缶を爆発させ2つに折れて3分後沈没した。その3分間にウエイ大尉はドグが曲ったり吹飛ばしたりして、閉じ込められた前特室員及びプロツティングルームの人員救出に努力し、外からこじ開けて脱出を助けた。

(7) プリンゲル (45. 4. 16 沖籠周辺)

1番煙突後方へ1特命中し、塔載の250kg爆弾2発が艦内に入って爆発した。これによって両煙突は吹飛び上部構造物を艦橋より3番砲台全壊した。船体中部は大破キールは挫屈した全動力は停止し漂流状態となるや、尚もなく2つに折れきり分以内に沈没した。

生存者258名中半数は火傷及びニョック負傷を患えていた、戦死は62名を算えた。

(8) ラス (45. 5. 4 沖籠周辺)

艦1番突の前にオ1が命中し、上部構造物に火の雨を降らせた。

オ2は舷の後部附近に命中し大浸水を起こした。数分間は *even keel* であったが間もなく傾斜が増大し艦より沈没し、戦死149、負傷94を生じた。

(9) モリソン (45. 5. 4. 沖繩周辺)

2分間隔で4が命中した。

オ1は砲撃門を破壊し、オ2が既に艦内は空虚と化した。4命中少くも2は爆弾を携行していたので、その炸裂により轟沈し、その沈没が余りに速かであったので、甲板下の人間は殆ど戦死した。

戦死152 負傷108の多数で無傷はクノ名にすぎなかった。

(10) ドレックスラー (45. 5. 28 沖繩周辺)

2の命中により甲板に大破孔を生じ、甲板は空中に吹飛び大浸水を起こし、甚しく傾斜し49秒後転覆沈没した。甲板下の人間は殆ど総員脱出する暇がなく。戦死士官8、下士官兵158、負傷51に及んだ。

(11) ウィリアム・D・ポーター (45. 6. 10. 沖繩周辺)

1が後部至近に落下爆発し、その炸裂効果により水線下に大破孔を生じ、余りに急激な浸水は遮断不能となり、全艦部区画は殆ど瞬時に満水した。必死の排水作業も空しく、艦より沈没。戦死61名を出した。

(12) ツウィップス (45. 6. 16. 沖繩周辺)

航空魚雷1本が2番弾薬庫に命中すると共に、その飛行機も後部へ命中した。魚雷によって弾薬庫が誘爆し、以上3つの爆発によって全艦火に包まれ、漸次上部構造物に及んで応急班も手の下しようなく、30分後には後部弾薬庫も誘爆沈没し、22名の士官中艦長以下18名が戦死し、負傷3名、無傷は僅かに1名という有様であった。下士官兵も165名が戦死し生存者

も多くは負傷していた。

(13) カラブハン (45. 7. 29. 沖繩周辺)

3番砲場弾室へ1が命中し、塔載爆弾は后部へ入って炸裂し火災を発生した。

2分後砲場弾室の弾薬が誘爆し、数分後には全艦が誘爆。艦部は大浸水し、爆風で艦橋の人員が吹飛ばされた。

命中後9分でサルベージグループ以外は退艦を命ぜられ、1時間後はそれも総員退去階を高く上げ数秒で沈没した。

退艦が適切に行われたので、戦死は47名であった。その他リツルがあるが、2分で轟沈したので特に記すことはない。

3. 高座帰海艦 (DMS)

(1) ロング (45. 1. 6. リンガエン)

命中枝によって艦橋は火焰に包まれ、1番火薬庫は爆発に瀕した。至近に落下した2枝からも損害を受け沈没した。戦死8名。

(2) エモンズ (45. 4. 6. 沖繩周辺)

オ1は艦に命中し、塔載爆弾が炸裂し、帰海具は後部煙突を越えて吹飛び、艦は切断した。

オ2は艦橋に命中し、艦長は水中へ吹飛ばされ、副長も行方不明となった。

オ3は艦橋に命中し、附近を全壊し、通信は杜絶し、舵は使用不能となった。

火災は全艦を荒れ、消防主艦はズタズタ、ホーズも穴だらけで役に立たず、重油タンク弾薬庫共誘爆の危険に曝された。

20瓶2門を残し全砲台は使用不能となったので、砲術長は総員退去を発令した。

本艦は尚長時間浮いていたが、阿夜エリソノ(斐あさかぜ)により処分された。

4. 護衛駆逐艦

(1) オバレンダー (45. 5. 9. 沖繩周辺)

1) 機が燃えつゝ、25番砲へ命中、左の翼は后部缶室の煙路に当って小破した。飛行機は大した被害を与えなかったが、250kg 運発爆弾が甲板を貫通し、前部缶室で炸裂して中部に大被害を生じ、猛烈な火災が起り航行不能となった。死者は8名であったが、53名の負傷者を生じ、一方赤十字班は防火に忙しく、傷者処置はその他の看で全部行われた。幸い約6名の熟練者を予め特に養成してあったため、処置は適切に行われた。

本艦は度良向泊地へ曳航されたが、修理不能と認められ、7月25日放棄された。

その他ホッジスが、詳細は不明である。

5. L S T

1) 472号(44. 12. 15. ミンドロ)

命中と共に火災爆発が起り、次で底部でオ2の爆発を起し沈没した。

戦死 12. 戦傷 50名.

2) 735号(44. 12. 15. ミンドロ)

艦に1機が命中し、外殻を貫通し内側の兵員室も突抜け戦車甲板に入った。其処には21ドラムの高オクタンガソリンと12トンの75耗弾薬及び多くのトラックがあり、更に200~300の酸素瓶があったので、忽ち猛火と大爆発の連続となった。

総員退去が令せられたが、既に爆発によってすべての重油タンクは破壊し漏出した重油で海面は火の海となった。駆逐艦モールが横付けして救助に当り50ヤード離れた時、又々2つの大爆発を起し、モールは多数の破片で一部水線下にも及び多くの破口を生ずると共に、兵員に多数の負傷者を生じた。

その他460号 447号も特攻機で沈んでいるが、詳細は不明である。

6. その他の艦艇

L S M 318. 190. 194. L C S 33. その他いくとも

10隻以上が特攻機で沈没しているが、何れも詳細は不明である。

第3章 水上戦闘によるもの

1. 義犯航空母艦

1) ガンビアベイ(44. 10. 25. 比島沖海戦)

0810発着甲板に1弾を受け、次で艇至近斉射弾により前舷外舷外板を破られ、直に浸水が始り速力は1ノットに落ちた。以後毎斉射命中弾があり、20°に傾斜し、0910沈没する迄毎分命中弾を受けた。相手は主として金剛の副砲であった。最後は弾薬の誘爆のようであった。

2. 重巡

1) ヒューストン(42. 3. 1. バタビヤ沖海戦)

27日午後前部砲塔のみ(3番砲塔は4日のジヤバ沖海戦で大破)ジグザク射撃を続けている時、1弾を受け重油タンクを破壊され、更に艦を貫通され浸水を起したが、何れも不発で大した被害はなかった。

28日0000頃からの戦闘では、12番砲塔の弾薬は尽き3番砲塔が運弾して応戦した。

0010既に艦に傾斜していたが、后舷に斉射弾が命中し蒸気管が破裂し柱室員は倭員戦死し砲員も蒸気のため避退を余儀なくされた。

次で前部下銃番1本が命中し、主砲台の底部を粉碎したのでその砲員は上甲板へ出た所へ砲弾が炸裂し全滅した。

0020装填中の2番砲塔に砲弾が命中火災を起し、1、2番砲塔の火薬庫は注水された。更に銃番3本が命中して大浸水を起し、0025総員退去が発令された。

艦長が戦死するや副長は退去命令を取消し、全弾を打尽くす迄奮戦した。

2) 英 エクセター(42. 3. 1. バタビヤ沖海戦)

27日 1708 8"砲弾が高角砲台を貫通し火薬庫で爆発したため大破し、速力は15ノットに落ちた。

其の後応急修理修理により23ノットまで回復した所、3月1日1020よりオ5戦隊と交戦し、1120缶室に命中弾を受け全動力停止4ノットに落ち、更に駆逐艦の魚雷1本の命中により従員退去、向もなく転覆沈没した。

(3) 豪カンバラ (42. 8. 8 オ1次ソロモン海戦)

従員配置を令し変針を終らぬ中に少くとも25発の5"砲弾と1〜2本の魚雷が缶室附近に命中した。

4"砲甲板は最も大被害を受け、全砲使用不能となり、人員は殆ど戦死し、艦長は重傷を受け艦は転々10度傾斜した。以上は僅かに1〜2分間の出来事であって、全く手のつけようもなく、更に命中弾多数により沈没した。

(4) ヴイセンス (42. 8. 8 オ1次ソロモン海戦)

艦橋に砲弾が命中し、通信長外2名が戦死し、全通信装置が破壊された。次で集中砲火を浴び約15分で沈没した。

(5) フインミー (42. 8. 8 オ1次ソロモン海戦)

1缶室4缶室に魚雷各1本が命中し、次で艦橋附近、2番砲塔及び下部に砲弾多数が命中した。

続いて1〜2本の魚雷の命中と共に全動力が止った。消防主管も判をなさず休養は困難を極め、砲も5"1門が人力で操作された外射撃不能となった。向もなく短艇甲板、烹炊所は猛火に包まれ、煙突からは蒸気を噴出して停止した。

最後の魚雷1本が命中するや急激に舷に傾斜し、全砲火の場となり、従員退去が令され戦闘開始後55分で転覆沈没した。

(6) アストリア (42. 8. 8 オ1次ソロモン海戦)

戦闘開始後35分で多数の命中弾による被害のため、2番砲塔と副砲1門の外沈黙し、火災が大きくなった。

舵は故障し機関室よりの全動力は停止し、死傷多数を生じた。乗員は一旦退去したが、又乗艦して消火に努め、10日昼迄浮

上していたが、救助の見込がなくなり放棄され、艦は1215転覆沈没した。

(7) ノーザムプトン (42. 11. 30 ルンガ沖海戦)

駆逐艦の魚雷2本が中部砲重油タンクに命中し、傾斜10度となり一旦止ったが、徐々に増大し23度に至した。重油火災は全艦を覆いメインマストはトーチのように燃えた。0130総員上甲板の令により、サルベージグループ以外は海中に飛び込んだ。サルベージ員は1時向に亘って火災と斗ったが火勢は衰えず、短艇甲板は火の塊となり、傾斜も増大し遂に彼等も離艦して0306転覆し脱より沈没した。

戦死士官17 下士官兵378を出した。

3 軽 巡

(1) アトランタ (42. 11. 13 オ3次ソロモン海戦)

5"13弾、3"散弾が殆ど艦橋附近に命中した。次で駆逐艦より5"12弾を受け、前部に火災を起した

更に駆逐艦の魚雷1〜2本の命中により補助ディーゼル以外の全動力が停止し、舵は取舵の停止したので、艦は円形運動するに至った。運動不如意となるや3,500ヤードの近巨島より8"徹甲弾19発が命中し、前橋は倒れ火災は各処に拡大し、航行不能となり、アドミラルスコット以下幕僚3名が戦死した。

被害復旧に努めたが見込立たず、遂に翌夜自沈した。

(2) ヘレナ (43. 7. 5 フラ湾夜戦)

93式魚雷3本の命令で1は艦を吹飛ばし、他は艦を破壊しY字状に折れて沈没した。

他に和デ、ロイテル、和ジヤバ 豪パースがあるが、資料不足で詳細不明である。

4 駆 逐 艦

(1) 英エレクトラ (42. 2. 27 スラバヤ沖海戦)

1725、2缶室に命中弾を受け航行不能となり、その後多数命中弾を受け、艦橋通信装置を破壊され、砲側照準のみで射

真したが、やがて砲も全部破壊され、総員退去の沈没した。

(2) ホープ (42. 3. 1 バタビヤ沖海戦)

被弾により3号缶の炉壁が内方に陥没した。

1230の艦爆により4番砲射撃前に至近爆弾を受け、大破孔を生じ大浸水となると共に、推進軸は屈曲し震動穴の凝り止した。

艦の浸水は Control 出来ず、砲術長は特別破壊班を指揮し特別捜索その他に爆薬を仕掛け、防禦庫蓋を開放して総員前部中、重巡の斉射が命中し艦より15秒で沈没した。

(3) ブルー (42. 8. 22 ガダルカナル沖)

初風の魚雷が命中し艦を粉砕され、戦死6、戦傷22を生じた。航行不能となり、被弾中浸水増加し、ツラギを目前にして放棄された。

(4) ダンカン (42. 10. 12 サボ島沖夜戦)

前部缶室に被弾、前部煙突は吹飛ばされた。続く命中弾により暗号室レーダー室は粉砕され、益は使用不能となり、IC及び艦内通信は全滅し、艦長は戦死した。艦内のペイントは致しく燃え、舵も被害を受け、15ノットで円運動をするのみとなり、灯火も消滅した。尚も2番砲換装室の巻索に引火、大火災となった。火災は漸次後方に及び、前部は放棄されたが、給水を右部ボイラへ引き得ず、海水をハンデイビリーで缶へ給水したが反ばず、漸次圧力は低下した。一方艦橋は人員殆どが死傷したので、特別砲術長が艦を指揮操縦し缶消火前辛うじて樹生に成功した。

2時間後弾薬が燃焼を開始し50名が戦死した。

12時間後には艦は全く焼失し沈没した。

(5) カッシング (42. 11. 12 オ3次ソロモン海戦)

巡洋艦及び駆逐艦の斉射を受け、動力線切断落伍し、人カ操舵により航行を続けたが、やがて航行不能となるや、集中

射撃の目標となり、全砲及び上部構造物を破壊され火災を起した。12時間後火薬庫の燃焼を起して沈没し、戦死士官6、下士官兵53、負傷56を記録した。

(6) バートン (42. 11. 12 オ3次ソロモン海戦)

前部前部に魚雷が命中し、僅かに10秒で轟沈した。乗員の90%は戦死した。

(7) ラフェイ (42. 11. 12 オ3次ソロモン海戦)

比叻の2番砲が命中し、2番砲と艦橋を粉砕され、更に艦に魚雷が命中し、後部区間に浸水し動力は停止し、尚もなく沈没した。沈没の際に爆雷が爆発し、水中の生存者は殆ど死亡した。

(8) モンセン (42. 11. 12 オ3次ソロモン海戦)

中口部の斉射を受けて5号缶は吹飛ばされ、上部大火災動力停止のため舵故障し、缶室に被弾してポンプが破壊され落伍した。総員退去が令されたが10時間後爆発沈没した。

(9) ウォーキ (42. 11. 14 オ3次ソロモン海戦)

集中射撃を受け長良の14cm砲弾が多数命中し艦は大傾斜した。次で魚雷1発が命中して2つに折れ、2番砲は空中へ100'も吹上げられ艦橋構造物は全く大破し、艦橋から前は速かに沈没し、後部も徐々に沈没した。沈没と共に「安全」にした筈の爆雷が爆発し、艦長以下75名が戦死した。

(10) プレストン (42. 11. 14 オ3次ソロモン海戦)

艦に6番砲弾2発を受け、2つの缶室内で炸裂し、缶室の総員を殺し2番煙突は破壊され、大火災を生じた。

次で艦に重巡の斉射3弾が命中し、後部は火の塊と化し、総員退去を令された。

艦は艦に傾いて転覆し、艦は30秒以内に水中に没した。

が艦は首立し、10分間其の傍の姿勢を保った。

戦死は艦長以下116名を算えた。

(11) ベンナム (42. 11. 14 オ3次ソロモン海戦)

魚雷を受けて艦を突込み左へ傾斜し、次でおお30°の傾斜と

なつたが、12Kt航行が可能であつたが、機軸グウインの損傷によつて浸水速防に努めつゝエスピリフサンドへ向つたが、12時間後被害が増大し放棄された。

(12) グウイン (43. 2. 12. コロンバンガラ)

中部に魚雷が命中し、火災発生舵も破損した。機軸室内は蒸気が噴出し航行不能となつたので、駆逐艦で単航避退中、漸次傾が沈下、傾斜が増大したので、8時間後総員退去、駆逐艦の魚雷で処分した。

戦死 61名。

(13) ミエハリエ (43. 5. 7. ブララバラ島沖)

2番砲火薬庫部に魚雷命中。艦橋から前は吹飛び、艦橋の人員は艦長始め殆ど一時意識不明となり、艦は停止した。次で后持艦に魚雷オバソンが衝突し后持は満水し、艦に傾斜し動力は半分停止した。被害復旧の見込なく総員退去、駆逐艦の魚雷で処分された。

(14) ホール (44. 10. 25 比島沖海戦)

益附近に先づ命中弾があり、次で后持に金剛の14"砲弾が命中し、艦舵は使用不能となつた。

続いて14"弾が后部の砲に命中之を粉碎し、舵取持を破壊し人力操縦舵となつた。やがて全電力は失われ、5" 8" 14" 計40弾を受け、艦に転覆し艀を上げ、沈没した。戦死 253、戦傷 15を記録した。

(15) ジョNSTON (44. 10. 25 比島沖海戦)

金剛の14"砲弾3発 6"砲弾3発が命中し、座力は16Ktに落ち 0530迄に砲は2門を残し大破し、レーダーはアンテナを折られヤードに垂下り、ガイロも故障した。

0845 艦橋に命中弾があり、3名が死に操舵員は重傷した。次で1発前部弾薬庫に命中浸水を起し、1発は糧食庫に命中、以後被害が拡大し 1010 沈没した。戦死は艦長以下184、戦傷 101を算した。

(16) ロングニョウ (45. 5. 18 沖繩沖)

沖繩で座礁し重量物投棄を行い極力離礁に努めたが及ばず、その中陸砲の猛射を浴び、上部構造物、甲板、砲台は原型を止めぬ程粉碎され、火災爆発を起し総員退去、友軍の砲火で処分された。

士官 22名の内 13名は戦死 2名が負傷し、下士官兵は、73名が戦死、87名が負傷した。

南洋方面で沈没したオランダのファンネス 同ピートハイン、同ゴルテノール、英のサネット、同エンカウダー、米エトセイルについては資料不足で詳細は不明である。

5. 護衛駆逐艦

(1) サミュエル・B・ロバーツ (44. 10. 25 比島沖海戦)

0851 斉射弾が命中したのを皮切りに、其の后約50分間連続的に8"及び14"弾約20発を受け、全動力と圧縮空気系統及び通信装置を破壊され、1番砲は粉碎された。2番砲は噴気装置が使用出来ぬにも拘らず勇敢に応戦を続けたが、遂に2発目の着弾によって爆発し、3名を喪失全乗員は戦死し、その内2名も舷外に吹飛ばされた。残った1名は重傷にも屈せず立上れぬ迄に尚も次の弾薬を装填せんものと、必死の努力をしているのをICPOに発見され「勇敢なる水兵」*国旗として勇名を馳せた。以上の奮闘も及ばず被害は余りにも大きく、遂に1005沈没した。

(2) 其の他の艦艇

震洋隊の命中によるものが、コレヒドール前面に於てLESF, 26, 49号, PC/129号の4隻、沖繩戦で駆逐艦名不詳1隻、喪失されている外、原因不詳の沈没艦艇(何れも駆逐艦以下)の中には水上戦闘によるものも若干あるが詳細は不明である。

第4章 潜水艦によるもの

1. 航空母艦

(1) オークタウン (42. 6. 6 ミッドウエー)

0900 レーダーで日本特探知と共に、給油艦のガソリンを抜きCO₂を充満した。

航空攻撃により爆弾3発が早期に命中した。

オ1発は発着甲板に命中し、多数乗員は戦死し、火災の黒煙は全艦を覆った。

オ2発は煙突内部で爆発し、幕とペイントに引火し、破片は四散して3本の燃料を破壊し、2本は使用不能となり、残る6本中5本の火を消したので、速力は6ノットに落ちた。

0920 艦は停止オ3発がオ4甲板を貫通して炸裂し、前部軽油タンク、火薬庫に隣接したウエス庫内が火災となった。各火薬庫は迅速に注水され、CO₂が放出された。

火災でレーダーが破壊されたので、司令部は1315重巡アストリアに移乗し、ポートランドは曳航を命ぜられた。

1340 4本が復旧し、18~20ノットを発揮するに至った。

1442 航空魚雷2本が命中し、艦側重油タンクの大半は破壊し、凡ゆる動力系統は分断され航取持も停止した。艦は17°に傾斜し20分以内に26°となったが、動力がないため注排水が不能であった。珊瑚海々戦の被害を真珠湾で半分しか修復する暇がなかったため、防水性能が悪く、浸水を防ぐことが出来ず15時直前総員退去が令せられた。

しかしこの退去は早まったもので、同艦は24時間も人手を借りず海上翌日飛行機からは炎上し傾斜増大も認められなかった。駆逐艦ヒューズが監視に任じていたが、病室内に残された生存者が上甲板へ出て来て銃を射つたので、調査員を派遣したところ、暗号機3個及び多数の秘密書類が散乱しているのを発見し、火災もウエス庫が煙っているだけであることを確認した。

直に小規模のサルベージグループが送られ、掃海艇ヴァレオも翌日正午到着し、1426曳航索をとったが、船体が小さいので貿易風のため前進出来ず、次で1530駆逐艦グウィンが到着し、サルベージグループが派遣され、日没迄に錐や固定でない機装品を海中投棄し浮力の保持に努めた。

別に駆逐艦ハマンで艦長以下士官29 下士官141の特別救難班が出発し、翌々日の日出前に機付して動力、ポンプ、清水を供給し、火災を消火すると共に反対舷に注水し、飛行機や可動重置物を艦より海中に投棄し、傾斜復元に努力した。午後に入って相当作業が進捗したとき、1330伊168の魚雷2本が命中し、次の日0600転覆、固定しない機装品が転落する大音響の中に沈没した。

(2) ワस्प (42. 7. 15. ソロモン)

伊19の魚雷3本が命中し、飛行機は空中へ吹上げられ、破損したガソリン管から火災が起り、機甲板へ煙が襲来した。艦は直ちに25°船へ傾斜し、転覆の危険が生じた。前部が火災のため停止し、防火にかかった時予備弾薬が誘爆を開始し、海中に吹飛ばされる者も多数あった。浸水により電路の絶縁が破れ閉閉器を切っても過負荷による火花が止らず、探照灯は火災となった。

30分後ガソリン蒸気が轟然と大爆発し、破片は200ヤード以内の水面に落下し、艦の周囲に流出した重油も炎上して以後大爆発の連続となった。

艦の水密はよかったが、火災が拡大して絶望となり、1320総員退去が令せられた。

残骸は駆逐艦ランスドーンの魚雷4本で処分され、2102転覆し艦より沈没した。戦死は193名であった。

2. 護衛航空母艦

(1) リスコムベイ (43. 11. 24. タラワ沖)

伊175の魚雷1本が中部に命中、数秒後から艦載機爆弾

が庫内で爆発し、破片は 1500 高れたニューメキシコ迄飛んだ。大火災、薪爆を連続して2つに折れ、23分后沈没し、士官 5ノ、下士官兵 59ノが戦死した。

3 重巡洋艦

(1) インディアナポリス (45. 2. 31. グアムレイテ間)

0005 伊 58 の魚雷 2本が命中し艦は沈下し、全通信装置は使用不能となったため、命令は口達によらねばならなかった。従員退去も口達された。

警戒を弛めていたため、手の施しようなく沈没し遭難電報を出す暇もなかったのが、沈没は予定日にレイテに到着せぬため、やっと向題となり、4日后来敵特が油の跡を発見して始めて確認された。

生存者は6日後に士官 15、下士官兵 30ノが救助され、696名は戦した。

4 軽巡洋艦

(1) ジュノー (42. 11. 14. ガダルカナル沖)

オ3次ソロモン海戦に於て 12日 0152 駆逐艦の魚雷が FR 42~45 の舷兵室装甲下に命中し、在室員 17名は従員戦死し直に舷に傾斜した。発着時は停止して前部の灯火は倉庫以下は消滅し、上部も大破射撃不能となり、速力は極度に低下し落伍した。

13日正午前潜水艦の魚雷が命中し、瞬時に轟沈し、多数の戦死者を出した。

4 駆逐艦

(1) ハマン (42. 6. 6. ミッドウェー)

ヨークタウンに頼村救助作業に従事中、伊 168 の魚雷 1本が命中し、2つに折れて4分足らずで沈没した。沈下時水中爆発を起し、(ボイラーか)戦死士官 9、下士官兵 72を出した。

(2) オブライエン (42. 10. 19. アメア北方)

9月15日伊 15の魚雷 1本が命中し、艦を切断されたが火

災は発生せず、15ノを航行は可能であったので、自力でエスピリフサンド及びアメアに到着、応急修理をなし本国人帰航の途、荒天に遭遇し乗力材が折損して沈没した。

(3) ポーター (42. 10. 26. 南太平洋)

伊 21 の魚雷 1本が中部に命中し、舷側より重油流出、缶より蒸気を噴出して沈没、戦死 15を出した。

(4) ストロンブ (43. 7. 5. フラ湾夜戦)

海岸砲台より 150m 3発の命中弾を受けた後、潜水艦の魚雷 1本が命中して沈没し、沈下中爆雷が爆発して、水中の泳者多数がニョック死を遂げた。

命中魚雷の威力は絶大で、舷に命中したが舷は破壊され、缶室が舷室に大浸水を起し、中部が沈下、2つに折れて沈んだ。戦死は士官 7、下士官兵 39であった。

(5) ハンレー (43. 10. 3. 7-10S 148-06E)

舷中部に潜水艦魚雷 1本が命中し、1缶室で爆発し航行不能となった。命中後4分で主甲板を海水が洗うに至り、従員退去が令せられ、艦を上げて沈没し、1分后水中大爆発(ボイラーか)を起した。戦死士官 1、下士官兵 14、負傷士官 8、下士官兵 44を出した。

(6) コーパー (44. 12. 3. 比島周辺)

舷に魚雷が命中、忽ち 45° に傾斜、火災を生じ 30秒以内に2つに裂け、1分36秒で沈没した。トップサイドの人間以外は戦死を遂げた。

5 護衛駆逐艦

(1) エバーソール (44. 10. 29. レイテ湾)

伊 45 の魚雷 1本が命中、15° の傾斜をしたところ、次で1本が先の命中孔内に入って艦内を爆発し、30° に傾斜した。従員退去が令せられて 15分以内で沈没し、更に数分后大爆発を起した。乗員は 139名ののみ救助された。

(2) シェルトン (44. 10. 3. 2-32N, 129-13E)

(108)

呂 41 の魚雷が命中し揚つぎから 13 時間探知を続行したが航行不能となって傾斜転覆した。此の掃蕩により戻って反陣の潜水艦を撃沈し、呂 41 は無事脱出する悲劇があった。戦死 11、戦傷 22。

(3) アンダーヒル (45、ス 24 19-20N, 126-42E)

特殊潜航艇又は回天の攻撃を受け、大爆発によって前部缶室前壁迄吹飛ばされ、艦橋構造物やマストも飛散し、艦に傾きログループ 4 迄黒煙に包まれて沈没した。戦死は 112 名で、士官は艦長以下 14 名中 10 名が死に、戦傷者も士官も士官 2、下士官兵 71 と全乗員の殆どが死傷した。

第 5 章 掃蕩によるもの

駆逐艦 タッカー、ハリガン

掃海艇 スカイロック、サリュートの外救隻

以上の外特務艦艇若干が沈没した模様であるが、何れも詳細は不明である。

第 3 編

日本艦艇損傷

(沈没喪失以外)の状況

日本艦艇損傷(沉沒喪失以外)延隻數一覽表

艦種	文官種別	航空攻撃	水上戦斗	着水雷	雷	機雷	原因不明	合計
戦艦		14	1	2	1			18
航空母艦		16		7				23
重巡洋艦		19	10	5	1			35
軽巡洋艦		30	5	5	2			42
旧式/等駆逐艦		29	6	4	1			40
特型駆逐艦		10	6	2	1			19
甲型駆逐艦		56	14	7	4	1		82
乙型駆逐艦		7		3	2			12
丁型駆逐艦		17	2	1	6			26
乙等駆逐艦		2			1			3
甲型海防艦		6		6	1			13
乙型海防艦		14	1	1	10			26
丙型海防艦		14		2	6	1		23
丁型海防艦		15	2	9	4	1		31
哨戒艇		1						1
水上機母艦		2						2
着水母艦		1		1				2
旧式/等掃海艇		2			1			3
敷設艇		8		3	3			14
1等輸送艇		7	1		1			9
乙等輸送艇		9			1			10
水雷艇		6		2	1			9
掃海艇		8		1	8			17
敷設艇		3		1				4
駆潜艇		22	2	4	5			33
砲艦		3		1				4
合計		338	53	67	60	3		521

日本艦艇損傷（沈没喪失以外）表-----航空攻撃の部

艦種	年月日	地名又は 海名	艦艇名	命中兵器	記 事
戦	44.6.20	マリヤナ沖	榛 名	B ⁴⁰⁰ / B ⁴⁰⁰ /	記
"	44.10.24	シブヤン海	大 和	T(A) X /	
"	"	"	長 門	T(A) X ス	
"	44.10.25	比 島 沖	伊 勢	B至近 X 多	記
"	"	"	榛 名	B X /	
"	44.10.26	"	大 和	B X 4	記
"	"	"	長 門	BX ⁴ B至近X多	
"	44.3.19	吳	日 向	B X 2	記
"	"	"	榛 名	B X /	記
"	"	"	伊 勢	B X /	
"	"	"	大 和	B 至 近	
"	44.7.18	横須賀	大 和	B X ス	記
"	44.7.22	吳	榛 名	B X /	
"	44.7.24	吳	"	B X /	
空母	42.5.8	珊瑚海	翔 龍	BX3 近X8	記
"	42.8.24	南次ソロモン	千 歳	B至近 X ス	記
"	42.10.26	南太平洋	翔 龍	B ¹⁰⁰⁰ X 4	記
"	"	"	瑞 鳳	B X /	記
"	44.6.19	マリヤナ沖	隼 鷹	BX2 近X6	煙突附近命中 着弾困難
"	44.6.20	"	瑞 鳳	T(A)X / BX / B至近X4	記
"	"	"	千代田	B ⁴⁰⁰ / B至近X多	記
"	"	"	龍 鳳	B 至 近	記
"	44.3.19	吳	天 城	B X /	記
"	"	"	葛 城	BX / B至近	記
"	"	"	鳳 翔	B ⁴⁰⁰ X 3	記
"	"	"	海 鷹	BX / B至近X /	記
"	"	"	蒼 鷹	B ⁴⁰⁰ 3 RX3	記

艦種	年月日	艦対海戦名	艦艇名	命中兵器	記 事
空母	44.7.24	吳	葛 城	B X /	記
"	44.7.28	"	天 城	B X 4 R	記
"	"	"	鳳 翔	B	小破
重巡	42.1.4	フララク	妙 高	Y	小破
"	42.6.7	ミッドウエー	最 上	B X 6	記
"	42.9.14	ソロモン	妙 高	B	小破
"	42.10.26	南太平洋	筑 摩	BX3 近X2	記
"	42.11.14	南次ソロモン	摩 耶	B 至 近	記
"	"	"	鳥 海	"	記
"	43.4.6	カビエン	青 島	B X /	記
"	43.7.20	ソロモン	熊 野	T(A) X /	記
"	43.11.1	ソロモン	妙 高	B 至 近	小破
"	"	"	羽 黒	B X /	船橋艦側破損 重カス6Kに低下
"	43.11.5	ラバウル	愛 宕	B至近 X 3	記
"	"	"	摩 耶	B X /	記
"	"	"	高 雄	B X /	記
"	"	"	最 上	B X /	記
"	"	"	筑 摩	B至近 X /	記
"	44.6.20	マリヤナ沖	摩 耶	"	記
"	44.10.24	シブヤン海	妙 高	T(A) X /	重カス6Kに低下 機銃受
"	44.10.26	ソロモン	熊 野	Y	航行不能
"	44.3.19	吳	利 根	B X /	3番機塔砲身ノ 戻回機破損
軽巡	44.12.10	ビガン	那 珂	掃 射	小破
"	"	アパリ	名 取	B 至 近	艦橋長門へ変更
"	42.3.1	ジャバ沖	鬼 怒	B 至 近	小破多数
"	42.3.10	ラ エ	夕 張	B至近及掃射	前部無敵火災
"	42.8.24	南次ソロモン	神 速	B X /	記
"	42.9.25	ソロランド	由 良	B 至 近	記

艦種	年月日	艦名	艦艇名	命中兵器	結果
警巡	42.10.2	ラバウル	天 竜	B X /	記
"	42.11.14	ネズノロモン	五 十 鈴	B 至 近	水浸、 水浸、 水浸
"	"	"	天 竜	B 至 近	
"	43.1.21	アンボン	名 取	"	記
"	43.6.23	マサツカル	鬼 怒	"	記
"	"	"	球 磨	"	前部水線上に拳 銃の破口
"	43.10.21	セントジョージ 岬	木 首	B ⁵⁰ X /	記
"	43.11.3	トランプ ラバウル向	那 珂	掃 射	
"	43.11.5	ラバウル	阿 賀 野	B X /	高角砲使用不能 重軽傷 //
"	"	"	能 代	T(A)X/ BX/	重軽傷 14、小破
"	43.11.11	"	夕 張	B 至 近	小破口ス
"	43.11.12	"	阿 賀 野	T(A)X(砲)BX(機)	記
"	43.11.13	ユアグレン南	夕 張	B 至 近	記
"	43.11.24	ガロペル戦	"	"	記
"	43.12.5	クエゼリン	長 良	"	記
"	"	ルオット	五 十 鈴	BX3 B至近X多	記
"	44.1.1	カビエン	能 代	BX(不発) B至近掃射	記
"	44.10.24	ツアヤン海	矢 矧	B ⁵⁰ X2 B至近	記
"	"	マニラ湾	鬼 怒	Y	軽微
"	44.10.25	比 島 沖	多 摩	T(A) X /	
"	44.11.16	アルネー	大 湊	B 至 近	記
"	44.12.26	サンホセ	"	BX2(不発)	記
"	45.3.17	莫	"	BX4 B至近X/	記
"	45.7.28	"	北 上	B B至近X10数	記
特駆	42.3.10	ラ イ	夕 風	B X /	機故障
"	"	"	朝 風	BX2 B至近X2	記
"	42.5.3	ツラギ	夕 月	Y	小破、艦長戦死
"	42.7.22	カ ナ	卯 月	B	死傷 16、小破

艦種	年月日	地名又は海戦名	艦艇名	命中兵器	結果
特駆	42.8.25	ガダルカナル北	卯 月	B 至 近	記
"	42.9.2	カ カ	秋 風	Y	小破
"	42.10.24	ソロモン	"	Y	水浸、 水浸、 水浸
"	42.12.17	ソロモン	望 月	B 至 近	船前部に破孔
"	42.12.27	ラバウル	太 刀 風	BX/ B至近	記
"	43.4.3	カビエン港外	文 月	B 至 近	記
"	43.4.15	ムシ海峽	太 刀 風	B至近X 4	記
"	43.7.17	ソロランド	夕 風	B 至 近	記
"	"	"	皇 月	B X /	記
"	"	"	松 風	B	水浸、 水浸、 水浸
"	"	"	水 無 月	B至近X多	記
"	43.8.3	ラバウル南方	秋 風	B X / 以上	艦橋大破、 煙突、 倉庫、 船橋大破
"	43.10.12	ラバウル	望 月	B 至 近	船体小破、 二番砲台 使用不能
"	"	"	水 無 月	"	左舷外板より小浸水 入、 煙突、 機回不能
"	"	"	太 刀 風	"	艦外電路切断
"	43.11.1	ソロモン	文 月	掃 射X/4	重油タンク 燃焼
"	43.11.20	"	朝 風	B 至 近	記
"	43.12.21	トランプ ラバウル向	秋 風	"	鉄砲、 浸水
"	44.1.4	カビエン	文 月	B T (A)	浸水
"	"	"	皇 月	B 至 近	記
"	44.1.14	ラバウル	松 風	B	船体小破孔
"	44.1.31	ソロモン	文 月	B至近X 6	記
"	44.2.17	トラック	松 風	B 至 近	記
"	45.1.21	馬 公	春 風	B X 2	記
"	45.1.31	ガラビ南方	夕 風	B	記
特駆	42.6.12	キスカ	響	B 至 近	艦中破、 機回切断 キール
"	42.8.28	ソロモン	天 霧	"	小破
"	"	"	夕 霧	"	記

艦種	年月日	被災又は海難名	艦艇名	命中兵器	被害
特取	42.10.19	ソロモン	波 波	Y	小破
"	42.12.1	ブ ナ	破 波	B 至 近	記
"	42.12.8	ソロモン	"	"	"
"	43.11.5	ラバウル	天 霧	T(A)X/(不発)	記
"	44.1.12	夕ロア	潮	B 至 近	各部破孔 20ヶ所
"	44.10.24	マ=ラ湾	浦 波	掃 射	"
"	44.11.13	"	潮	B 至 近	記
甲駆	42.6.6	ミッドウェイ	朝 潮	B 至 近	ノ缶使用不能 重油タンク浸水
"	"	"	荒 潮	"	操舵不能
"	42.8.19	カダルカナル沖	寂 風	B X /	記
"	42.8.22	ソロモン	江 砲	Y	"
"	42.9.24	カミンボ	海 砲	B 至 近	ホ/連射料倉庫より前方浸水 /番砲塔使用不能
"	42.10.5	ラバウル	村 砲	B 至 近 X 3	記
"	"	"	峯 雲	B 至 近	記
"	42.10.14	ソロモン	五 月 砲	B	小破 3番砲塔 砲身要換表
"	42.10.17	キスカ	初 砲	B	ス3番砲塔破損
"	42.11.12	カミンボ ソロモン	天 津 砲	Y	小破
"	"	"	雪 砲	B 至 近	記
"	42.11.17	ブ ナ	江 風	B X /	船破孔 12ヶ所浸水、 21ヶ所 5番砲塔破損
"	"	"	海 風	Y	中部及びホ3号倉庫火災 操舵使用不能
"	42.11.29	"	白 雲	B	記
"	"	"	巻 雲	B 至 近	ホス缶室火災
"	42.12.3	ソロモン	巻 波	B	小破
"	42.12.7	"	野 分	B 至 近	記
"	"	"	嵐	Y	小破 5番タンク浸水
"	42.12.8	ニ-グリフ島	朝 潮	B 至 近	記
"	42.12.16	ヨ-トラド	陽 炎	B	小破
"	42.12.26	セントジョージ 岬	有 明	B 至 近	小破火災 16ヶ所可 死 28、傷 40

艦種	年月日	被災又は海難名	艦艇名	命中兵器	被害
甲駆	43.1.1	ソロモン	涼 風	B 至 近	ホス缶室艦艇破孔 最大 12ヶ所
"	43.1.2	レンドハ南東	"	"	"
"	43.1.15	ニ-ジョー 岬北東	嵐	"	艦破損
"	43.1.16	"	浦 風	掃 射	船体小破孔
"	43.2.1	付ハル島南	巻 波	B	ホ3号倉庫、12号倉庫水 隔壁浸水不発 又月受艦
"	43.2.4	コロンバンガラ北	舞 風	B 至 近	記
"	"	コロンバンガラ 東 30'	舞 潮	"	3番砲塔火災、弾庫浸水
"	"	"	江 風	"	浸水小破
"	"	"	不 知 火	B X /	3番砲塔火災
"	43.2.7	キゾ南東 70'	浜 風	B X /	1番砲塔命中、艦故障
"	"	カダルカナル 西 150'	砲 風	B X 2	記
"	43.4.1	ヨ-トラド	五 月 砲	B 至 近	艦破損
"	43.4.12	ソロモン	谷 風	"	記
"	43.8.26	ブカ北方	浜 風	"	缶室浸水、橋脚小破
"	43.11.2	ソロモン	白 雲	"	記
"	43.11.5	ラバウル	波 砲	T(A)X/(不発)	記
"	43.11.11	"	浦 風	掃 射	"
"	"	デュークオブ ヨーク島附近	長 波	B ⁴ 發/T(A)X/	記
"	"	ニ-ブグテン	海 風	掃 射	少量浸水
"	44.1.17	ソロモン	春 砲	Y	小破
"	44.2.17	トラック	時 分	B 至 近	2番連管電氣装置全部 故障 死 1、傷 3
"	"	"	時 砲	BX/ B至近掃射	記
"	"	"	春 砲	B 至 近	"
"	44.6.8	ピアク洋	五 月 砲	B X /	1番連管に命中
"	44.6.9	ニ-ギ=ア	白 雲	B	重油タンク漏洩
"	44.10.24	シヤン海	清 霧	B X 2 以上	"
"	44.10.24~29	比島周辺	沖 波	BX/砲) B至近	記
"	44.11.10	セブ島北東	秋 霧	B	前部切断、航行可

艦種	年月日	被災又は遭難名	艦艇名	命中兵器	記 事
甲駆	44.11.13~14	マニラ湾	清 霜	B X /	記
"	44.11.16		雪 嵐	B 至 近	
"	44.12.27	サンホセ	霞	B至近 掃射	釣合タンク2満水 推進器翼歪曲
"	"	"	朝 霜	Y	浸水、振動大
"	45.4.7	九州南西	初 霜	Y	
"	45.4.7	"	雪 嵐	Y	主機位置路故障 機軸1大破、死3、傷15
"	45.7.30	高津湾	"	B 至 近	記
乙駆	42.10.26	南太平洋	秋 月	B	記
"	"	"	照 月		小破口
"	43.11.6	カタロナ	若 月	B 至 近	記
"	43.12.1	南 方	"	"	砲機水雷機機 電気兵器損傷
"	45.4.7	九州南西	家 月	BX/ B至近X2	記
"	"	"	冬 月	RX2(不発)	1号缶使用不能
"	45.7.24	長 野 近	宵 月	Y	記
丁駆	44.11.25	パラナカン	竹	B至近 掃射	記
"	44.12.7	比島周辺	杉	Y	記
"	"	レイテ	梅	B X /	前機室油タンク液漏れ 機室注水、2番記使用不能
"	44.12.12	レイテ北西	栢	B	記
"	44.12.14	比島周辺	桃	BX2 B至近X10	記
"	44.12.15	マニラ	梅	B 至 近	記
"	44.12.27	サンホセ	樞	BX/ 掃射	記
"	"	"	樞	Y	2号機/掃射器/ 破壊
"	45.1.21	高 雄	"	BX3(盲/)	記
"	"	"	杉	B 至 近	記
"	45.1.31	ガラピル	楓	B X /	機室甲板破孔 5x5m 干没
"	45.6.22	内海西部	榆	B X 2	記
"	45.7.14	福島鍋地	柳	B	記
"	45.7.24	内海西部	樺	B^ X 4	記

艦種	年月日	被災又は遭難名	艦艇名	命中兵器	記 事
丁駆	45.7.24	硫島南西	萩	B X /	3号機/ 缶室使用不能 人が操舵
"	"	四山附近	椿	B X 3	缶機機室命中 航行不能
"	"	平群島	萩	B至近X4	死2 傷14
ス駆	45.7.28	備前瀬河口	朝 顔	掃 射	記
"	"	香 港	蓮	B	中破
敷	42.2.1	マニラ	常 磐	Y	小破
"	42.3.10	ラ エ	津 堅	B至近X多	銃取扱故障
"	42.5.3	ツラギ	沖 島	Y	小破
"	42.9.3	ソロモン	津 堅	B 至 近	記
"	43.2.25	ニューブ イアール島	"	B至近X12	小破
"	43.8.25	ソロン	若 鷹	Y	"
"	44.8.24	ノナト附近	萩 島	B 至 近	尾部浸水、航行不能
"	45.8.9	大湊方面	常 磐	BX4 B至近X4	記
練巡	44.12.27	サンホセ	香 雀	B	機室缶破壊
日巡	45.3.19	吳	警 守	B至近X3	死1 傷12
潜母	45.7.30	舞窟附近	長 家	B X /	船橋崩壊、火災
甲海	44.12.31	?	対 馬	B至近X2	記
"	45.2.16	大島南西	天 草	Y	軽微
"	45.3.1	石垣島	福 江	B X /	航海通信水測兵器大部 破壊死20重傷22軽傷18
"	45.4.3	香港々内	満 珠	B	記
"	45.5.11	片岡湾	八 丈	B	記
"	45.7.15	八戸港外	福 江	Y	船体其の他相当の被害
乙海	44.9.23	馬公附近	御 蔵	BX2(不発)B至近	記
"	44.10.11	サンセント 岩	屋 代	B	記
"	44.11.18	ラブアン島沖	沖 龍	B 至 近	記
"	44.11.30	南西方面	十 振	"	記
"	44.12.5	白砂灯台沖	主 名	"	記
"	44.12.31	?	三 宅	B X /	機室油タンク命中使用不能

艦種	年月日	地点又は海戦名	艦艇名	命中兵器	記 事
乙海	45.1.9	高雄港外	屋代	B X /	記
"	45.1.12	15-50 N 107-20 E	鶴末	B至近 X 6	記
"	45.1.16	?	新南	Y	重油タンク外板小破孔
"	"	?	能美	Y	"
"	45.2.24	石踏島南 4'	"	Y	兵器損傷甚大
"	45.5.27	L M 哨区	栗国	B R	記
"	45.7.14	八戸港外	伊王	B	記
"	45.7.30	舞窟附近	高根	B 至 近	記
丙海	44.9.20	高雄附近	63	BX(7發)近X3	記
"	44.9.24	マソウツ北	5	B*	大破
"	44.11.10	レイテ	13	Y	火災停止
"	44.12.17	カムラン南方	19	B 至 近	記
"	45.1.9	左營沖	9	B	記
"	45.1.12	仏印沿岸	27	掃 射	船外板水線以上 小破口浸水
"	45.1.29	北ノ島附近	47	B	後部突撃命中 舵機庫
"	45.2.16	横 浜	"	Y	小破
"	45.4.22	?	81	Y	記
"	45.7.14	?	205	Y	船外板水線以上 小破口浸水
"	45.7.15	福島船地	215	Y	粘後部電殺
"	"	?	221	Y	重油タンク破損
"	"	?	55	Y	小破
"	45.7.30	34-27 N 128-27 E	27	Y	水測器測兵器使用不能小破
"	45.8.6	九十九里浜	37	Y	船体兵器若干の被害
丁海	44.6.12	17-20 N 144-10 E	4	掃射 X 数百	
"	44.7.14	小笠原	12	Y	小破
"	44.7.19	ヤツフ南西	16	B 至 近	記
"	44.8.4	父 島	4	掃射 X 約50	
"	"	"	12	" X 約50	

艦種	年月日	地点又は海戦名	艦艇名	命中兵器	記 事
丁海	45.1.12	仏印沿岸	18	B	
"	"	"	2	T (A)	
"	45.1.16	?	60	Y	重油タンク外板小破孔
"	45.2.6	父島北西 36'	12	R X 2	記
"	45.3.15	33-31 N 116-52 E	36	Y	後部中火大爆雷 浸水、死1傷2
"	45.3.30	榆 林	28	B 至 近	記
"	45.4.5	32-45 N 116-10 E	52	Y	舵機故障、船体兵器若干の被害
"	45.7.24	田 辺	190	B X 2 B 近 X 5	船体破孔大小60
"	45.7.28	龍伊由良	"	B 至 近	記
"	45.7.30	舞 窟	2	B	重油タンクより水兵室に浸水
ノ輸	44.6.13	ウルシ-附近	1	Y	航行不能
"	44.11.25	パラナガン	9	掃 射	記
"	45.2.11	小笠原	13	R X 2	記
"	45.2.16	硫黄島南方	16	掃 射	記
"	45.6.5	父 島 北	9	R X / 掃射	
"	45.6.17	大島 100°15'	16	R	オス 突撃命中 浸水、舵機庫
"	45.7.24	吳	19	B X 2	中部水線上被降破口 死2、傷2
ス輸	44.9.19	一 見	153	B 至 近	記
"	45.1.16	香 港	108	B 掃 除	大破、重油タンクより火災全 艦に波及、死約30
"	45.1.21	高 雄	112	B 至 近	
"	"	"	143	"	
"	45.2.2	?	115	B 掃 射	重油流出航行不能、死50
"	45.3.2	?	143	Y X /	火災、大破
"	45.3.18	八丈島	137	R X 2	
"	45.4.10	37-48 N 121-05 E	142	掃射 X 20	
"	45.5.18	?	137	掃 射	死2、重傷1
水雷	42.11.22	トラツク南方	瀧	B X /	艦に命中、小破
"	42.11.30	アソダマン	雁	B 至 近	艦底測程機破損

艦種	年月日	地域又は海戦名	艦艇名	命中兵器	記事
水雷	43.1.6	トボ湾口	友 電	B 至 近	記
"	43.4.14	ババル島	雉	"	小破口多数
"	43.11.27	基隆の西	友 電	B 掃 射	重油タンク糧食 庫浸水
"	44.6.3	マノクワリ	雉	B X /	記
掃	43.2.27	コロナン	スズ	B 至 近	艦前部至近破口数個
"	43.7.17	ブイ	15	"	主機塔銃全弾発射不能海水 ポンプ発電機使用不能掃2機航
"	43.7.27	香 港	101	Y	小破
"	43.11.2	ラバウル	スズ	B X / 近 X /	記
"	43.12.25	カビエン	スズ	B 至 近 X /	記
"	"	"	スズ	B 至 近 X 多	記
"	44.3.6	?	スズ	近 X 掃射 X / 50	記
"	44.11.26	海南島	17	B 至 近 X 4	記
駆潜	43.10.10	アリューシャン	14	掃 射	探照灯測高儀航 海諸灯破損
"	"	ラバウル	32	B 至 近	探照灯不能探信 儀破損
"	43.11.6	トラック南方	31	B	水中聴音機作動 不能水際下敵船破
"	43.3.27	ワトランド	スズ	掃 射	無敵兵器被害
"	43.8.1	ラバウル	12	B 至 近	記
"	43.8.30	ブゲンビル	10	B	記
"	43.9.14	セトジョー群	スズ	Y	小破
"	43.10.18	ラバウル港外	スズ	B X /	記
"	43.11.4	キエタ北西	30	掃 射	火災発生
"	44.1.12	カビエン	38	B 至 近	探信儀、電信故障
"	44.1.中	ロレンガウ	37	Y	記
"	44.2.21	?	38	B 至 近	記
"	44.7.4	父島北西	18	掃 射	小破死傷重傷4 軽傷13
"	44.9.24	?	30	B 至 近	小破口多数
"	"	?	33	"	"
"	44.10.10	沖 籠	58	"	艦体一部火災全弾発射不能 上X近掃12日朝漸く鎮火

艦種	年月日	地域又は海戦名	艦艇名	命中兵器	記事
駆潜	44.10.18	母 島	51	B 至 近	船体兵器小破、傷2、
"	44.10.30	スル海	36	掃射X50以上	死1、重傷3、軽傷5、
"	44.11.14	ミンドロ西	/	B 至 近 掃射	記
"	"	ミンドロ附近	19	"	記
"	44.11.26	?	7	B 至 近	記
"	44.12.21	?	37	"	記
"	45.2.17	52-45N 111-56E	47	掃 射	記
"	45.2.23	パラナカ台 74° 8'	35	B X /	后甲板命中火災 舵機室故障
"	"	サンジヤック	41	B 至 近 X 掃射 X 80	記
"	45.3.1	南西諸島	49	Y	記
"	45.3.7	八丈島神港	51	B X /	記
"	45.3.15	南澳島南側	21	B 至 近 掃射	記
"	45.3.21	12-30N 109-0E	9	B 至 近	補機室、満水、軽傷の受 艦庫浸水
"	45.4.5	22-45N 172-70E	"	B X /	補機室命中満水
"	"	"	20	"	浸水
"	45.7.28	横須賀	14	R X 2	記
哨	44.5.17	スラバヤ	36	B X /	記
教艦	44.2.22	ラバウル	那 沙 美	B 至 近	浸水発生
"	44.6.6	7-46N 147-3E	由 利 島	Y	小破
"	45.5.	左 伯 湾	怒 和 島	B X /	記
砲	42.4.22	漢口上流	隅 田	掃 射	機機室浸水
"	44.11.25	パラナカン	"	B 掃 射	45.3.25ドラム子雷油 タンク破損、使用不能
"	45.4.2	上 海	堅 田	B X /	2号室右方命中上部構造物 大破浸水発生
水母	42.9.2	ブ カ	秋 津 洲	B 至 近	小破
"	44.17~18	トラック	"	B X /	記

日本艦艇損傷（沈没喪失以外）表-----水上戦闘の部

艦種	年月日	地名又は海戦名	艦艇名	命中兵器	記事
戦	44.10.25	サマル沖	大和	S(中口径) X 2	
重巡	42.2.28	スラバヤ沖	三隈	S 8"	記
"	42.8.8	ネ3次ソロモン	島海	S 8" X 2	記
"	"	"	青葉	S X 3	2番連管之番砲塔被弾火炎
"	42.10.11	サボ島沖	衣笠	S X 3	小破
"	"	"	青葉	S X 24	記
"	42.11.24	ネ3次ソロモン	高雄	?	中破
"	"	"	愛宕	?	"
"	43.3.27	アソツ沖	那智	S X 5	記
"	"	"	摩耶	S	兵器破損
"	43.11.2	ブゲンビル沖	妙高	S 至近	記
"	"	"	羽黒	S X / S至近	記
"	44.10.24	スリガオ海峡	最上	T(B) B	航行不能
"	44.10.25	サマル沖	熊野	T X / B X /	旗艦変更、マラハ返還
駆巡	42.4.9	セブ島附近	球磨	T(B) 砲掃射	
"	44.10.25	スリガオ海峡	阿武隈	T(B) X /	艦橋水浸下命中一時停止以後速力10Kt
"	"	サマル沖	能代	S 5" X 2	2番供給所、艦上甲板に命中
"	"	"	矢矧	S 5" X 3	記
"	44.12.26	サンホセ	大湊	S(直) X 2	1番缶破壊
回/駆	42.3.1	バンタン湾	春風	S	艦橋機銃室純その他数ヶ所命中
"	42.11.8	ルンガ	望月	T(B) X /	大破
"	43.2.5	クラ湾	"	S X 8	記
"	"	"	皐月	S	記
"	43.10.2	ソロモン	木無月	S X / S至近 X 多	記
"	43.11.25	ブイン沖	卯月	S(直) X /	C DDと砲戦
特駆	43.3.1	バンタン湾	白雪	S 6"	艦橋に命中缶故障
"	"	"	敷波	S 至近	推進器損傷

艦種	年月日	地名又は海戦名	艦艇名	命中兵器	記事
特駆	42.10.11	サボ島沖	初雪	S	小破
"	42.11.12	ネ3次ソロモン	雪	S	12番砲及び中部破壊
"	43.2.5	クラ湾	初雪	S	4番発煙器、使用不能
"	"	"	天霧	S 5" X 4	記
甲駆	42.2.20	バリ島沖	満潮	S	記
"	"	"	大潮	S	前部浸水之番火薬庫浸水
"	42.3.1	バンタン湾	朝雲	S	1号機銃室浸水
"	42.11.12	ネ3次ソロモン	村雨	S X /	1号命中之Kt可
"	"	"	満潮		記
"	"	"	初風	S	
"	42.11.30	ルンガ沖	長波	S 大至近	小破
"	42.12.7	ヨートランド	親潮	S	小破 死2、傷8
"	43.2.5	クラ湾	谷風	S	揚筒機電動機浸水使用不能
"	"	"	涼風	S	記
"	43.8.6	ソロモン	時雨	S	
"	43.8.17	ベラ湾	浜風	S 至近	艦橋被害及び若干浸水
"	"	"	磯風	"	小破
"	44.6.9	西=ユ=ギ=ア	時雨	S X 4以上	記
丁駆	44.12.2	オルモック	竹	S 5"	記
"	45.1.5	マラ294'100'	杉	S 5"	1番砲測深儀水測兵器使用不能
乙海	44.9.26	扶堤附近	能美	△S大 X 60	記
丁海	44.10.30	都井崎130'100'	スズ	S X 相当	
"	45.1.5	硫黄島	66	S X 6	砲孔外板に1、上甲板5
1輸	44.12.12	比島周辺	15	陸 S	大破
駆潜	43.11.14	?	20	△S X 数発	記
"	45.2.31	尾崎	42	△S X 数発	記

日本艦艇損傷（沈没表外以外）表-----潜水艦雷虫の部

艦種	年月日	地又は海峽名	艦艇名	命中雷数	事
戦	43.12.25	トラック北面150'	大和	/	記
"	44.3.29	パラオ北方	武蔵	/	記
空母	42.9.28	トラック南方	大鷹	/	記
"	42.12.12	八大島南東	龍鳳	/	押板甲板3分の3浸水
"	43.5.10	三宅島128°	飛鷹	2	記
"	43.9.24	大島南東	大鷹	/	記
"	43.11.5	豊後水道外	隼鷹	/	記
"	44.1.19	グアム東南東	雲鷹	3	記
"	44.12.9	女島東方	隼鷹	2	記
重巡	43.9.6	宮右南方	那智	2 (不発)	記
"	44.10.23	パラワン島沖	青雄	2	航行不能
"	"	14°0N/119°30E	青葉	/	記
"	44.11.6	比島附近	熊野	2	機室浸水航行不能 遂に成功船を傾斜
"	44.12.13	カニヤック附近	妙高	/	記
軽巡	42.4.1	シヤワ近海	那珂	2	記
"	42.10.18	ソロモン	由良	1 (不発)	記
"	44.1.12	トラック附近	阿賀野	/	記
"	44.1.27	マラッカ海峡	北上	2	記
"	44.11.19	コレヒドール	五十鈴	/	記
甲/駆	43.7.1	セレバス北方	帆風	/	記
"	43.9.21	8-46N 142-43E	追風	1 (不発)	舷外板に凹所発生
"	43.11.4	ルソン海峡	春風	/	記
"	44.9.8	47-27N 148-20E	波風	/	記
特駆	43.5.16	加ビエン北面120'	夕霧	/	記
"	44.9.6	琉球嶺附近128°	響	/	記
甲駆	42.2.4	セレバス南東	涼風	?	12号機室浸水
"	42.8.27	キスカ	不知火	/	記

艦種	年月日	地又は海峽名	艦艇名	命中雷数	事
甲駆	42.6.27	キスカ	霞	/	記
"	43.1.24	ウエツク南	春風	/	記
"	43.7.12	ソロモン	江風	/	記
"	44.1.17	マニラ南西	天津風	2	記
"	44.1.31	8-48N 147-20E	満潮	?	大破
乙駆	43.1.19	ソラギ西270'	秋月	1及び不発1	記
"	44.1.16	沖ノ島南方	涼月	2	記
"	44.10.12		冬月	?	記
"	44.12.16	宮崎沖	涼月	2	記
丁駆	44.12.9	姉崎台6030'	旗	/	艦橋命中 大破
潜母	44.9.19	那覇323°31'	迅鯨	/	記
敷	43.8.5	グリス島西50'	津軽	/	記
"	44.10.17	バウエ島の東方	若鷹	/	記
"	45.3.27	カニヤック南5'	"	/	FR 28より前部切断
甲海	44.5.24	ホル対西方	松輪	?	エンジン外板損傷
"	44.6.27	台湾南	坂垣	?	大破
"	44.8.6	36-53N 129-25E	"	?	損害大
"	44.11.25	マニラ西方	占守	/	記
"	45.1.31	西貢附近	満珠	/	記
"	45.6.22	北海道	笠戸	/	記
乙海	45.4.10	生月北端	生名	/	記
丙海	44.7.18	高雄附近	17	/	記
"	44.9.27	"	25	2	船前部命中
丁海	44.6.28	毛口湾	10	?	大破
"	44.9.19	基隆附近	30	?	"
"	44.10.5	香港東方	8	?	"
"	44.10.24	沖ノ島南方40'	132	/	記
"	45.1.10	石垣島北方	30	/	FR 22より前部切断 死6、傷6

艦種	年月日	地点又は海戦名	艦艇名	命中雷数	記 事
丁海	45.3.10	九州沖徳向	44	?	大破
"	45.4.9	36-46 N 123-46 E	102	?	記
"	45.5.1	和歌山県沿岸	50	/	記
"	45.6.26	山田湾沖	196	?	舵機舵柄破損大破
水雷	43.8.31	和山島南	鷹	?	大破
"	44.9.8	檣島320°/8'	真 雀	?	"
掃	44.8.5	5-53N125-41E	30	?	"
駆潜	43.9.12	?	13	/	艦底擦道小破
"	44.2.21	洲崎325°4'	52	/	記
"	44.11.2	ボルネオ西	/	?	大破
"	45.1.9	3-41N111-54E	5	3	大破
教艇	43.6.19	32-30 N 126-06 E	燕	?	大破
砲	44.3.3	シンガポ西口	艦 津	/	前部煙突の約10m前より切断

日本艦艇損傷（沈没喪失以外）表…………… 艦雷の部

艦種	年月日	地点又は海戦名	艦艇名	命中雷数	記 事
重巡	45.7.31	シンガポール	高 雄	2	記
軽巡	43.7.15	カビエン	長 良	/	記
"	43.11.4	?	五十鈴	/	記
甲駆	42.11.16	スラバヤ北水道	春 風	/	記
甲駆	41.12.31	リンガエン	山 雲	/	中破
"	43.2.4	ソロモン	陽 炎	3他にB	浸水増大
"	43.4.3	ポトランド	風 雲	/	記
"	43.11.4	カビエン	磯 風	/	記
特駆	45.3.29	檣島灯台附近	響	/	記
乙駆	45.6.5	檣島北方	宵 月	/	記
"	45.6.16	六 連	夏 月	/	浸水小破が航行不能
丁駆	45.4.10	受水灯台 95°58'	椿	/	記
"	45.5.25	六 連	桜	/	記
"	45.5.28	小豆島	椿	/	記
"	45.6.5	センガイ瀬 灯台附近	推	/	記
"	45.6.26	舞雀附近	櫻	/	艦艙室浸水 小破
"	45.6.30	関門西口	榴	/	記
乙駆	44.9.3	上海附近	蓮	/	記
重巡	45.5.13	小倉沖	鹿 島	/	記
教	44.5.16	ハルマハラ島	蒼 鷹	/	記
"	44.8.3	万水水道西口	初 鷹	/	記
"	45.6.3	バクナ崎	常 磐	/	舵頭室浸水 小破
甲海	44.12.21	久島附近	天 草	/	記
乙海	44.9.14	高雄附近	屋 代	/	記
"	45.3.31	吉野崎灯台 132°58'	稻 木	/	記
"	45.4.8	揚子江	羽 前	/	無線電測水測発電機 / 基故障航行不能
"	45.5.9	?	早 久	/	記

船種	年月日	被災は海戦名	艦艇名	命中雷数	記事
乙海	45.6.6	観音崎灯台 325° 1300	波 太	/	記
"	45.6.10	観音崎 36° 255	"	/	小破
"	45.6.14	八戸巻外	伊 王	/	
"	45.6.25	深川湾	久 真	/	記
"	45.6.27	長久水道	崎 尹	/	発電機主機基線故障 航行不能
"	45.8.1	小口水道	伊 唐	/	記
丙海	45.3.9	カシマクサ 128° 10'	61	/	記
"	45.3.3	八戸湾	207	/	航行不能 舵機弁板電裂
"	45.5	梅島260.3KM	29	/	記
"	45.7.8	横須賀港内	95	/	記
"	45.8.10	大口瀬戸	63	/	記
"	45.8.14	?	67	2	記
丁海	45.4.10	菱井島灯台 83° 5.200M	124	/	記
"	"	?	156	/	
"	45.5.2	?	24	/	操縦室式雷電裂 水測電測使用不能
"	45.5.17	宮津湾外	200	/	艦底損傷 浸水大 航行不能 傷80
ノ輸	45.4.9	大黒神	19	/	記
又輸	45.8.11	全輪島灯台 65° 1920M	153	/	操縦故障航行不能 浸入なし
水雷	44.11.12	香 港	初 雁	/	修理 10,000工数
掃	42.2.1	アンボン	11	/	防雷具小破 又ピン移動
"	"	"	12	/	防雷具小破 内火発着機要換装
"	43.10.2	カピエン	28	/	記
"	44.5.19	カウ湾	4	/	記
"	45.2.5	父島附近	29	/	記
"	45.4.10	揚子江	21	/	発電機補機煤油供給破損 一時航行不能
"	45.5.13	?	29	/	記
"	45.8.13	?	17	/	記
駆着	43.7.13	ヨートランド	30	/	舵機ノズル煤油供給 機油機故障

船種	年月日	被災は海戦名	艦艇名	命中雷数	記事
駆着	44.6.15	パラオ西方	7	/	敵4隻沈没に樹立 死傷52
"	45.1.22	父 島	42	/	艦15隻40Mで沈没 レーダー水測装置使用不能
"	45.2.22	ミルランド 317° 6'	23	/	記
"	45.5.18	ペナン水道	57	/	舵機機破損 小浸水 航行不能
敷	45.2.4	リンガ北方	伊 勢	2	油圧影響なし 船50M

日本艦艇損傷（沈没被害以外）表-----原因不明の部

艦種	年月日	地対海戦名	艦艇名	命中回数	記事
甲駆	8/10	ソロモン	初風		IX/ 航空小艦艇か不明
丁海	20.4.17	?	46		FR40~46 外殻破孔 探信機破壊
丙海	20.7	サイゴン	61		航行不能

第3編 記事

目次

章	記事	頁
オノ章	航空攻撃によるもの	135
1	戦艦 榛名 伊勢 大和 日向 榛名 長門	
2	航空母艦 翔鶴 4次 翔鶴 瑞鳳 瑞鶴 4代田 竜鳳 天城 鶴城 鳳翔 海鷹 竜鳳 天城 葛城	
3	重巡 最上 筑摩 摩耶 鳥海 青葉 鈴野 愛宕 摩耶 高雄 最上 筑摩 摩耶	
4	軽巡 神通 由良 名取 鬼怒 木曾 阿賀野 夕張 夕張 長良 能代 矢矧 大井 大井 大井 北上	
5	駆逐艦 朝風 秋風 卯月 夕霧 笑風 村雨 峯雲 秋月 雪風 江風 白雲 藤波 野分 太刀風 舞風 磯風 谷風 太刀風 夕風 皇月 水無月 白露 天霧 藤波 若月 長波 朝風 皇月 潮 文月 時雨 松風 沖波 朝 清霜 竹 桃 桐 杉 梅 樅 榎 杉 春風 潮 柳 宵月 磯 朝顔 雪風	
6	敷設艦 津軽 常磐	
7	海防艦 16 御蔵 63 屋代 沖繩 4振 生名 19 対馬 9 屋代 鶴来 12 28 満珠 八丈 栗屋 51 伊王 190 高根	
8	掃海艦 26 21 22 21 17	
9	駆潜艦 12 10 23 37 38 1 19 2 37 47 41 49 51 21	

- 10. 1等輸送艦 9 13
- その他の艦艇 友峯 清36 雄輪153 怒和島
- 秋津洲

第2章 水上戦によるもの 164

- 1. 軍艦 三嶋、島海、青葉、青葉、那智、妙高、羽黒
- 2. 駆逐艦 矢矧
- 3. 駆逐艦 滿潮、滿潮、涼風、天霧、望月、皐月、水無月、時雨、竹
- 4. その他の艦艇 駆蒼20、能美、駆蒼42

第3章 潜水艦によるもの 167

- 1. 戦艦 大和、武蔵
- 2. 航空母艦 大鶴、飛鷹、隼鷹、雲鷹、大鷹、隼鷹
- 3. 軍艦 那智、青葉、熊野、妙高
- 4. 駆逐艦 那珂、由良、阿賀野、北上、五十鈴
- 5. 駆逐艦 不知火、霞、秋月、春風、夕霧、秋風、江風、天津風、京風、響、波風、冬月、京月、春風
- 6. 敷設艦 津軽、若鷹
- 7. 潜水母艦 田鱒
- 8. 海防艦 17、132、占守、滿珠、102、生名、50
- 9. 佐戸
- 9. その他の艦艇 駆蒼52

第4章 機雷によるもの 174

- 1. 駆逐艦 長良、五十鈴
- 2. 駆逐艦 春風、風雲、磯風、蓮、響、椿、桜、榎、宵月、樺、楯
- 3. 海防艦 尾代、天草、61、船木、124、早久、29、波太、久賀、95、伊良、63
- 4. 掃海艇 28、4、21、17
- 5. その他の艦艇 高雄、初鷹、駆蒼23、蘭19、蒼鷹、鹿島

日本艦艇損傷(沈没喪失を除く)の状況

第1章 航空攻撃によるもの

1. 戦艦

(1) 榛名(44.6.20マリアナ沖)

1900頃500ポンド爆弾1発が4番砲塔後部へ命中、上甲板に580×510cmの破口を生じ、下甲板で炸裂。F&276の横隔壁の一部は吹飛び、弾火薬庫は浸入し、メカ操舵室及び予備重油タンク附近を大破した。中上甲板は吹上げられ附近諸室(大破舷外軸表出受に約10耗の亀裂を生じた)更に60kg爆弾1発が命中し、上甲板に310×200cmの破孔を生じた。

(2) 伊勢(44.10.25比島沖海戦)

夕刻至近大型爆弾多数と機銃掃射により、外板バルジに多数の貫通孔を生じ、バルジ内に約900トンの浸水を起し、艦に4度傾斜した。落下の水柱に艦カタパルトは吹上げられ、右舷機銃台の機銃員2名は海中に吹飛ばされ行方不明となった。

水平爆撃による両舷への爆弾同時落下の衝撃により、12号(前部艦)4号(右部艦)の発電機は危急弁が落ちて停止し、偶5号(内火)発電機を1号と併列運転していたため、3/4停電となるべきところ片舷の1/2停電に止った。12.4号共2分以内に復旧したが、一時射撃はバツタリ止り、士気に及ぼす影響は少くなかった。

29日呉帰着直後に入渠してバルジの排水及びパッチを行い、特急工事で2日間で完成した。

(3) 大和(44.10.26比島沖海戦)

1040鐘甲板に爆弾1発が命中、深く入って炸裂し、揚錨機室以下が浸入し外板に大破口を生じた。

更に1発が1番砲塔舷前方水線上に大穴を穿ち、其の他2発

が命中し、3,000トンの浸水となった。后部に2,000ト
ン注水してツリムを保ち吃水は増大した。

(4) 日向 (45.3.19 呉)

6缶室艇天井に爆弾が命中炸裂し、下記の被害を生じた。
主補蒸気掛気、前部発電機復水管、46缶室、隔壁貫通部ボ
ルト切損、排気伸縮金物、発電機復水管ノ本破損、

主補蒸気管は鉄より漏洩

主砲水圧管ノ本破損、高角砲揚弾機要修理、その他旋回不具
合のもの若干

6.5番高角砲、1.3.5番噴進砲7.8.9.10.番機銃等砲路損傷
1.3号電探空中線損傷

最上甲板 FR 136 ~ 137 艇に径4.5cmの貫通孔、

上甲板 FR 128 ~ 136 4 x 2.5mの破孔、

FR 274 ~ 278 3 x 2.5mの破孔、

中甲板 FR 126 ~ 140 艇に8 x 6mの破孔

射出甲板直撃弾により、F271 ~ 278 船外板に6.5 x 3.75m
の凹所を生じた。

(5) 榛名 (45.3.19 呉)

1発の命中により下記の被害を生じた。

最上甲板 FR 143 ~ 144 艇に230 x 40cm の貫通孔

上甲板 FR 141 ~ 145 に3.2 x 3mの破孔

中甲板 FR 142 ~ 144 に2 x 1mの破孔

5番副砲小破、3番高角砲坐 機銃 - 基銃坐何れも変形、笠
旋回困難

3.5番高角砲、3.5番副砲電路損傷

揚弾電動機5台、通風電動機4台損傷

空中線切断

(6) 長門 (45.7.18 横須賀)

3番砲前セルター甲板 上甲板に損傷を受け、又前部羅針盤
檣 機銃台を大破、消防主管が破裂した。中破。

その他大和2回、榛名3回、長門2回、伊勢1回の損害があ
るが、詳細は不明である。

2. 航空母艦

(1) 翔雀 (42.5.8 珊瑚海々戦)

1057爆弾2発が命中、1発は船艙でガソリンが引火し、
発着甲板は損傷し、発艦不能となった。

他の1発は艦に命中し、発動機修理室を大破した。

火災は迅速に消火され、1/40更に1弾を受けたが、無事
戦斗を切抜けた。

戦死108、戦傷40、修理は7月19日完成した。

(2) 千才 (42.8.24 オマカソロモン海戦)

至近爆弾により船機は浸水し、使用不能となり、船后部も浸
水と小火災を生じた。

(3) 翔雀 (42.10.26 南太平洋海戦)

中部昇降機附近に直撃3発を受け、発着甲板後半、格納庫中
后部、高角砲機銃の若干を破壊され、送受信不能、発着不能
となった。更に1発が命中し、出し得る速度は21Kもとな
った。

(4) 瑞鳳 (42.10.26 南太平洋海戦)

艦爆により発着甲板后部に1発直撃を受け、径1.2cmの
破孔を生じ発着不能となり、后部高角砲機銃も破壊されたが
全力発艦には支障なかった。

(5) 瑞雀 (44.6.20 マリアナ沖)

直撃爆弾1発により船 FR 132 ~ 136 間 2.0 x 3.5m の破孔
を生じ、航空魚雷1発が命中し至近弾も6発あり火災が各処
に発生し、火熱のため発着甲板 FR 28 ~ 50 間は40耗の
垂下を起し、一部は500耗のめくれを生じた。一時は總員
退去が掛けられたが、応急班が活躍し消火に成功したので取
消された。

至近弾による小破孔多数も生じた。

- (6) 千代田(446.20マリアナ沖)
1900頃 Fr 151~155(右部)に500ポンド爆弾1発が命中火炎を生じ、飛着甲板に4×3mの破孔を生じた。ビーム及びガードの一部が切断し、機銃高角砲2門が破損した。又船前部の外板には至近弾による小孔多数を生じた。
- (7) 竜鳳(446.20マリアナ沖)
至近爆弾が船尾檣附近に落下、右檣は飛散し前檣の上部1/2は折損した。外板には凹凸を生じ、爆弾庫は注水された。
- (8) 天城(453.19呉)
爆弾1発が命中し主機と昇降機が破損し、飛着甲板 Fr 122~191の船側に13×6.5mの大破孔を生じた。
- (9) 葛城(453.19呉)
船前部に500ポンド爆弾1発が命中し、上部格納庫及び舷側に至5'の破孔を出し、戦死1戦傷3を生じた。
- (10) 鳳翔(453.19呉)
飛着甲板右部に小型爆弾3発が命中し、1×1m 50×100cm 30×30cm 2個の破孔を生じ、戦死6 戦傷11を生じた。
- (11) 海鷹(453.19呉)
船機下部ノ4番タンクに被弾破孔を生じ、重油取入管により機庫室に500トンの浸水を生じた。破孔は水線下3~7mに最大巾3mに達し、之より附近47の重油タンクに浸水した。前機も機庫室に浸水し、2号冷却機は取付ボルトが切損し、空中線電路に若干の損傷を生じた。飛着甲板には小破孔多数が明いた。
- (12) 竜鳳(453.19呉)
1缶室船に被弾し、補助蒸気管は切断し、12号送風機風路鏡戸及び補給装置は破損し、前部缶囲は変形した。送風機排気管及び排気主管も破損し、機庫工場天井は変形し、主軸

- 屈曲プーラーが破損し、工作機械は使用不能となった。
3号冷却機及び製氷機室、200トンダークゼル消防ポンプ及びガソリン消防ポンプ室に浸水した。
4番高角砲 29ノ1番機銃は旋回不能となり、ノ3号機銃ノ基は吹飛び、ノ基は毀損、25号ノ基、3番噴進砲も小破した。別の爆弾により前部昇降台は落下し、後部昇降台は飛着甲板上に放出されて変形した。
電機関係では舵取機駆電路、3番高角砲、35号機銃の電路が損傷し、船揚艇機管制室も破損、後部配線室、副管制盤室にも浸水した。オ2送信機室及び同発電機室は浸水し、空中線は切断した。
飛着甲板は Fr 122~224が最大巾20mに亘り、爆風のため上方に2m弯曲し、一部は下方に最大50cmの垂下をした。
機銃甲板は Fr 123~198間の煙路及び通風機囲が圧潰した。飛着甲板の破孔は Fr 167に至10mに達し、舷側には長さ1.2mの亀裂を生じ、海士官室にも5mの破孔を生じた。オ2発目は船中甲板 Fr 202 に大亀裂を生じしめ、大浸水は排水に15日を要した。
オ3発目は Fr 172 で上甲板線を破壊した。
ロケット弾の1発は Fr 125 船上部格納庫甲板隔壁を破壊し、ノ缶入口に至70cmの破孔5を生じしめた。別のロケット弾1発は、Fr 105 船中部に50cm 至の孔6ヶを明けた。戦死20 戦傷は30名であった。
- (13) 天城(457.24及28呉)
大型爆弾が1発上級格納庫に命中炸裂し、破片は飛着甲板上約50mの範囲に飛散し、爆風により前部昇降機は落下、前部飛着甲板は亀裂垂下した。
オ2昇降機附近の至近弾により、3.4.5.6缶室及び船尾機に浸水、別の至近弾によつて生じた外板の小破孔により、船機

庫 前部下甲板、兵員室、電線通路、2缶室と浸水は漸次増加した。

別に直撃3発及びロケット弾が発着甲板アイランド側に命中し、船橋橋前部の至近弾で前部爆弾庫へ浸入した。

29日、600傾斜は舷ク0度となつて停止した。高角砲5門、船高射装置25発を連装の1/2は使用可能として残った。

(4) 葛城(45.7.24及28日)

29日直撃500ポンド1発が船高角砲に命中し、戦死10、戦傷5を出した。

28日は1000ポンド2発が発着甲板に命中し、更に跳弾により前部上部格納庫に破孔を生じた。上部格納庫は中央部外板に大破孔を生じ昇降機は屈曲し発着甲板中央部は盛上った。

至近弾により圧縮ポンプ室及び後部5番タンクが浸水した。同日風損も軽々な損傷を受けたが、特記すべき事はない。

3. 重巡洋艦

(1) 最上(42.6.7ミッドウェイ)

0625以後直撃6発を受けた。

オノ弾は5番砲塔を貫徹し全員死亡した。

オ2次命中で火災となり、オ3発目は炎上中の機械室を燃封し、戦死90を出した。

航行困難となり乍らトラックに帰投した。

(2) 筑摩(42.10.26南太平洋海戦)

爆弾2発が船橋に命中し、1は主砲指揮所を破壊し、12名を除き船橋員は全滅し、艦長は重傷した。別の1発は発射管を破壊した。1発が更に船橋後部より機関部に入り、若干名が死傷し速力は23kに低下し、船前機は使用不能となつた。

至近弾は2発が中部船に落下し、弾片によつて若干の被害を

生じた。

戦死は副長以下19名、戦傷は75名に達した。

(3) 舞取(42.11.14オ3次ソロモン海戦)

空襲により46缶室は火災となり、発艦可能速力は29kととなった。更に至近弾が船に落下若干の被害があった。

(4) 鳥海(42.11.14オ3次ソロモン海戦)

至近爆弾により指防水区側に20トンの浸水があったが、戦闘航海には支障なかった。

(5) 青森(43.4.6カビエン)

発射管室船に直撃砲を受け、至3mの破孔を明け船機で炸裂した。

別の爆弾で2番高角砲より射出機附近迄船外板は下甲板附近で彎曲して大破孔を生じ、至近弾も加わつて6缶、機械室及び同后部区画へ浸入し、予備浮力は危険状態となつたが、渡防不能のため水深25mの所へ擱坐した。上部では魚雷2本が誘爆大火災となつたが、酸素呼吸器がないため煙煙により被害探知は殆ど不可能で処置なく、結局燃えるものが全部燃えて鎮火した。

サルベージは比較的迅速に成功し、トラックへ曳航、応急修理后内地へ帰投した。

(6) 熊野(43.7.20コロンバンガラ北)

0100航空魚雷1本が命中し、船后部に至5m水深下5mより上甲板迄の破孔を生じ、舵故障、速力は24kとに落ちた。

(7) 慶忌(43.11.5ラバウル)

0915より1050迄に至近弾3発を受け、中央部船バルジのFR174~188間に6.3x6.5mの破孔を生じ、后部船のバルジは大皺が寄り舷ビルダキールは凹所及び皺を生じた。中甲板船側外板も凹所や小破孔が生じ、火災が発生、艦長以下18名が戦死、戦傷20名を出した。

(8) 摩耶 (43, 11.5 ラバウル)

艦機に被爆火災となり、全注水し船前後機も半注水 弾薬庫も注水された。

上甲板には大破孔を生じ艦側板中甲板も一部亀裂小破孔を生じた。

FR 202~276の中甲板諸室、諸装置は圧潰し、火災を生じた。射出機も使用不能となった。

機銃室は排水整備し、波軸航行でトラップへ向った。

最初不使用軸は誘転せず、9Kセゴであったが、4エンプロックを掛けて途中発動に成功し、実速16Kセゴでトラップを由横須賀に帰投修理した。

(9) 高雄 (43, 11.5 ラバウル)

1発の被爆により船前部水線に大破孔を生じ、12番砲塔は浸水、火災を生じ、3番砲塔左砲身に亀裂を発生した。

上甲板 FR 74~86 船には5.3 x 2.3 5m、2番砲塔船前部には1.4 x 1.7 mの破孔を生じた。

戦死3名、戦傷14名を生じた。

(10) 最上 (43, 11.5 ラバウル)

船前部至近弾1発により艦より1番砲塔艦首に小破孔約300を生じFR 7より前方は大部分浸水し、発令所は漏水し、水雷火薬庫と前部ジヤイロ室が浸水、使用不能となった。12番砲塔は俯仰旋回不能、3番砲塔は船体破損のため使用不能となり、艦射出機も使用不能、機関は異常はないが12Kセ以上発進不能となった。

更に爆弾1発が12番砲塔間上甲板船に命中し、上甲板を貫通爆発し、上甲板に至る6m、中甲板に至る5mの破孔を生じ、外板は3 x 10 mの大破孔が明き浸水、火薬庫は全部注水し、戦死19、戦傷41を出した。

(11) 筑摩 (43, 11.5 ラバウル)

至近爆弾1発により、船外板、FR 113~117のビルダキール

上に凹所を生じ、艦側重油タンク、防水区割に浸入した。

(12) 摩耶 (44, 6.20 マリアナ沖)

至近弾1発により艦外に小破孔約3,000を生じ、火災と共に下甲板 FR 117~216 船艙甲板 FR 140~200 間に浸水を生じた。

その他妙高4回、羽黒1回、熊野1回、利根1回の被害があるが、詳細不明である。

4. 軽巡洋艦

(1) 神通 (42, 8.24 ネオ2次ソコモン海峽)

基地航空機により1発被爆、12番砲及び附近船体を破壊し、前部火薬庫に浸水、陽炎に旗艦変更の止めなきに至った。

(2) 由良 (42, 9.25 ショートランド)

至近爆弾により7番砲は使用不能、10番重油タンクは漏洩し、軸室に小浸水を起した。

(3) 名取 (43, 1.2 アンボン)

至近爆弾によって2缶室底 FR 93~113 間船の底板の2~6枚目が内方へ屈曲し、2缶室は満水となった。ビルダキールは葛脱弯曲し、下部2.8番重油タンク2.3.4番予備水タンクに浸水、速力は16Kセに落ちた。

(4) 鬼怒 (43, 6.23 マカツサル)

至近爆弾によって艦水線附近に拳大の破孔多数を生じ、47番砲は砲身に瑕を受け、損壊を要する状態となった。后機は漏水して最大速力は14Kセに落ち、船后部の各倉庫は浸水した。

(5) 水雷 (43, 10.21 セントジヨージ岬沖)

24Kセ航走中2缶室の3号缶に50Kg爆弾1発が命中、12缶室天井に至る5mの破孔を生じ、短艇甲板は前半部が液状に弯曲し、2.3号缶は外側に破孔浸水を生じて使用不能となり、重油タンク4に火災が延焼、2.5号機銃ノ及びジヤイロは破損した。2缶室は総員戦死した。

(6) 阿波野(43, 11, 12ラバウル)

不発魚雷がFR 2~3に100 x 60 cmの凹所をつくり、中央の10 cmの亀裂から釣合タンクに漏水した。

爆弾の命中によりFR 183より右部は切断した。

舳FR 76~87の外板には11 x 43 mの破孔を生じ、高角砲弾薬庫、12号発電機室、主砲発令所、オ2受信室、飛射発令所、オ2空気圧縮ポンプ室、主管制艦室、圧縮ポンプ室、ジヤイロ室、25号弾薬庫、オ7兵員室、12缶室は浸水破損し、使用不能となった。

FR 82~87ではビルギキールの外板への取付鉄が脱落。

FR 88~89では鉄20が脱落、弛鉄多数を生じた。

FR 78~87では浸水を起した。

舳外板FR 79.5、艇外板75.5及びセルター甲板FR 75では挫屈を生じた。

2次室では床全面及び通路が80 cmの隆起を生じた。

FR 163で上甲板は挫屈し、FR 163~167の艇では16°の亀裂を生じた。

FR 160より后方は中甲板以下に浸水した。

舳内軸の推進器は喪失し、各タービンの軸受は破損し、船過回転により翼は弛緩した。

4号復水器管は破損した。

受信器、空中線的大部分及び管制線は使用不能となった。

前部配線室、12区主電路に浸水、12号発電機主管制艦、電路交換器、高声令達器、前部直流配電盤は破損した。

舵取機及び舵は喪失した。

(7) タ張(43, 11, 13ニコブリティン南)

至近爆弾により前部艇外板水線下に脱鉄弛鉄を生じ、漏水、艇高圧タービン脚は亀裂を生じ、水平接手より蒸気が漏洩し、最大發揮速力は24kセとなった。

(8) タ張(43, 11, 24ガロベ作戦)

至近爆弾により1番ノ4 cm砲は旋回不能となり、オ5兵員室、運用科倉庫に少量の浸水を見、ジヤイロ、測深儀、測程儀は使用不能、高速時ノ5度以上の操舵は不能となった。

(9) 長良(43, 12, 5クエゼリン)

至近爆弾により1番連管が誘爆、搭載の水復に引火、前右部に火災が起り、前部は浸水しノ缶は使用不能、出し得る速力は26kセとなった。

浸水箇所はオ7、8兵員室及び下部重油タンク、舳電線通路で、前右部火薬庫にも注水したので、傾斜は舳ノ30°に達し、戦死54、戦傷70を出した。

(10) 五十鈴(43, 12, 5ルオット)

6番砲舳に3発の直撃を受け、至近爆弾も多数で士官室附近は火災となり、後部電信室は使用不能となった。後部弾薬庫にも浸水し、艇外舳の外は使用不能で、發揮可能速力は12kセに落ちた。

軸室舳に大破孔を生じ、舵故障舵軸は折損した。

戦死15、戦傷29。

(11) 能代(44, 11, 1カビエン)

直撃爆弾(不発)至近弾及機銃掃射によりFR 47~55に2 x 6.5 mの破孔、FR 56附近水線上に径80 cmの破孔、FR 58に巾30 cmの亀裂、FR 58上甲板、中甲板に径60 cm、80 cmの貫通孔を生じ、FR 41~59間の上中甲板、士官居住区の舳側は全壊し、12番火薬庫に浸水した。電気、無線、航海兵器も損傷した。

(12) 矢矧(44, 10, 24ニヤブン海)

1600噸至近爆弾により最大發揮可能速力は22kセに落ちた、即ち500ポンド爆弾がFR 23舳水線附近に4 x 3 mの破孔をつくった。

(13) 大淀(44, 11, 16ブルネー)

至近爆弾により右部の水線下に80 cmの凹みを生じ、浸水

を、船艙の外板及び3番砲塔は小破した。

(14) 大定 (44.12.26 サンホセ)

不燃爆弾2発によりノ号缶が破損し、最大使用可能速力は32ノットとなった。

(15) 大定 (45.3.19 呉)

直撃爆弾は前部艇と、煙突艇下部及び上部に各1発で煙路に於て炸裂。中部艇に命中して艇前機上部中甲板で炸裂した。計4発である。

至近弾も加わって、以上の結果次の被害を生じた。

2号缶室は焚火中であつたが、中段迄浸水し、主給水ポンプ、注冷ポンプ、重油噴燃ポンプは水没した。

3号缶室は煙路、煙突、給気孔を大破した。

4、6号缶室間は隔壁が崩出し、4号缶室は床下迄浸水した。

5号缶室と3、6号缶室間の隔壁も崩出し、煙路が破損し、全体的に艇に移動した。

6号缶室は上部8番重油タンクに浸水し、缶室入口は大破、煙路の付根も破損した。

艇前後機間の主蒸気管は切断し、減速車室に破口を生じ、低圧子歯車は転落した。復水器は右部側の蓋に亀裂を生じて海水が漏出し、ポンプ室床下迄浸水し、中圧タービンも全体的に移動した。

機械工場、铸物工場、鍛冶工場、電気工場は爆砕大破した。

前部冷却機は火災により焼損した。

高角砲、揚弾薬筒は2本歪曲し、盤盛も変調、2群機銃動力室も粉碎された。

2号電機室及び機側管制盤室、前部蓄電池室に浸水し、主砲弾薬庫は注水された。

1、2番砲塔多心線は絶縁不良となった。

オノ送信室、オノ送信室用電動発電機室、右部無線電機室

オノ送信室の空中線にも夫々損傷があつた。

(16) 北上 (45.7.24 及び 12.8 呉)

24日 至近爆弾1の発と機銃掃射により、主砲射撃指揮装置、45cm測巨儀、ジャイロス基、レーダー、探信儀の全部、主電路を含む電路の一部と揚艇機が破損し致死ノ、重傷ノ、重傷ヲを出した。

28日の空襲により桁高低圧、艇底圧車室前後部滑脚が亀裂し全機使用不能となり補機の若干も損害を受けた。1、2、6番重油タンクには浸水破孔を生じた。

(17) 天竜 (42.10.2 ラバウル)

右部上甲板に被爆、至4mの破孔を生じ、機側水線下は漏水し、重油タンクノ側も漏出した。

以上の外延8隻あるが、詳細不明である。

5. 駆逐艦

(1) 朝風 (42.3.10 ラエ)

前甲板及び1、2番連管附近に被爆、至近弾も加わり4号缶は使用不能となり、中破した。

(2) 萩風 (42.8.19 ガダルカナル中)

舷に被爆至5mの破孔を生じて浸水し、3番砲塔、操砲装置は使用不能となった。

(3) 卯月 (42.8.25 ガダルカナル北)

至近弾により機庫科倉庫、炭庫、面軸室より重油が漏出し、3、4番照準装置は旋回不能となった。

(4) 夕霧 (42.8.28 ソロモン)

至近弾によりノ番砲塔、3、4号缶は使用不能となり、上甲板には相当な被害を生じた。

(5) 海風 (42.9.24 カミンボ)

至近弾によりオノ運用科倉庫より前方は浸水し、1番砲塔は使用不能となった。

(6) 村雨 (42.10.5 ラバウル)

至近弾により艇前部に無数の破孔を生じ、糧食庫に浸水し発

揮可能速力はノ4Kセとなった。

(8) 秋月(42.10.26 南太平洋海戦)

B-17により中破、ノ缶に浸水し艀機は使用不能となり、
后機は隔壁が墜出した。

(9) 野風(42.11.12 北ソロモン海戦)

至近弾により艀中低圧タービン及び巡航低圧タービンの脚部
が亀裂した。

(10) 江風(42.11.17 ブナ)

艀に破孔を生じてノス区に浸水、5.8番重油タンクを破損
し、出し得る速力は2ノKセとなった。

(11) 白露(42.11.29 ブナ)

破孔浸水を生じ、缶には異状なかったが艀体が歪曲し、出し
得る速力は2ノKセとなった。

(12) 磯波(42.12.17 ブナ)

至近弾により2缶室が浸水し、艀3番タンクも使用不能、5
番タンクは漏洩を生じた。

(13) 野分(42.12.27 ソロモン)

至近弾により艀に大破孔を生じ、前機及び2缶室に浸水航行
不能となった。

(14) 朝潮(42.12.28 ニューブリテン島)

至近弾により2番砲塔の右砲及び3番砲塔が使用不能となり、
矢貫室は破孔浸水を生じたが、機関には異状はなかった。

(15) 太刀風(42.12.28 クラバウル)

直襲及び至近弾により艀長室其他を大破し、2番砲は使用不
能、揚筒機は復旧の見込なく、送信機も故障した。

(16) 舞風(43.2.4 コロンバンガラ北)

至近弾により700トンの浸水を生じ、2.3缶室は使用不
能となった。測巨鏡2.5号機銃 ジヤイロにも破損箇所を生
じた。長月の曳航により基地へ帰った。

(17) 磯風(43.2.7 ガダルカナル西ノ50)

ノ番砲を挟んで2砲被爆し、FRノ7~50の中甲板以上は
両舷外板全部及び甲板が吹飛び、ビームは切断した。ノ缶室
前部隔壁より前全部は浸水し、ノ番砲は使用不能となったが
機関には異状はなかった。

(18) 文月(43.4.10 カビエン港外)

至近弾によりノ番煙突陰側水面下炸裂部の艀体全周に10x
50cmの皺を生じ、2番砲、ノ番連管の内ノ個及び前部操
舵は使用不能となった。尚ノ2缶室と重油タンクに浸水
した。

(19) 谷風(43.4.12 ソロモン)

至近弾により艀頭軸受及び補強金物の取付鉄が弛緩し、受動
筒が漏洩した。

(20) 太刀風(43.4.15 ムシユ海峡)

至近弾により主砲3門、ノ2番連管は旋回不能となり、FR
5~50の中甲板以下は浸水した。
艀高圧及び両舷低圧タービン前部滑脚に亀裂を生じ、重油漏
洩によりノ号缶は使用不能となった。

(21) 夕風(43.7.17 ショートランド)

至近弾により中部艀側水線上に破孔無数を生じ、前部糧食庫
艀釣合タンクに浸水した。3番重油タンクにも破孔を生じ、
ノ7番重油タンクは軸室内に於て破孔が明き重油が漏出した。
揚筒機のクランク軸受が破損し、2番2.5号機銃の銃身が破
損、ノ番発射管の左管は破損、ノ番発射管の左管は破損、舷
外電路が切断した。内火発電機はクランクが破損し、短波受
信器も故障したが、普通航海には支障はなかった。

(22) 皐月(43.7.17 ショートランド)

機械室の前部上甲板に至50cmの破口を生じ、ノ3号缶
艀ノ4号缶艀の缶脚取付部が漏洩した。出し得る速力は20
Kセとなった。

(23) 水無月(43.7.17 ショートランド)

タービン滑脚に至近弾のため亀裂を生じ、機軸室に浸水したのでセメントを充填塞防した。又12号缶艦底のフレームも屈曲した。

(24) 白鷺(43.11.20ソロモン)

至近弾により4区迄浸水し、主砲盤にも被害があり、舵故障、戦死4、戦傷2を出した。

(25) 天霧(43.11.5ラバウル)

不発の航空魚雷により、FR 68の水線下の80cmに長さ60cmの凹所を生じた。

(26) 藤波(43.11.5ラバウル)

不発の航空魚雷により、船外板に長さ15m深さ80cmの凹所と径20cmの破孔を生じた。

(27) 若月(43.11.6カタロナ)

水線下に多数の貫通孔が明き、高射装置、水測兵器、レーダー、2番機銃は使用不能となった。

(28) 長波(43.11.11デュークオブヨーク島附近)

500ポンド爆弾がFR 165に直撃し、FR 149~160に於て上甲板と外板は全周に鉢巻状の皺を生じ、FR 149より后部は約6度の垂下とした。1缶室は航空魚雷によって浸水し、西舷龍軸は折損したのでタービンは過回転し、復水器管が折損した。舵機室は浸水し、4機銃科倉庫は大破した。

(29) 朝風(43.11.20ソロモン)

至近弾により船タービン脚に亀裂を生じ、3番重油タンクは漏洩、外板より少量の浸水を見た。25号機銃照準器、1番砲旋回装置、測程儀、受信器、通信機、方位測定機、FMが故障した。

(30) 皇月(44.1.4カビエン)

3缶室、機軸室の艦底外板は内方に大湾曲し、西舷推進器の全翼尖は欠損した。艀推進軸は歪曲、1番砲は砲身に機銃弾が穿入した。出し得る速力は24ktとなり、戦死7、重傷艦

長以下15kt出した。

(31) 潮(44.1.12タロア)

B-25の銃爆弾により艦内各所に大小の破孔を生じ、出し得る速力は20ktとなった。中部操舵とし、主砲機銃の各1門も使用不能となった。

(32) 文月(44.1.13ソロモン)

至近弾により船体各部の鉄が弛緩し、錨鎖庫、被服庫に漏水し、1缶室、前部水雷火薬庫、前部真水タンクにも浸水があり、缶詰庫等に漏洩した。

戦死2、戦傷3名。

(33) 時雨(44.2.17トラツツ)

爆弾1発が艦内火庫に命中し、1番発射器を大破し、2番砲俯仰電動機は使用不能となった。

更に至近弾及び銃爆により、2番重油タンク及び爆雷庫に破孔浸水があり、揚錨機室より前方も浸水した。

測巨塔は旋回不能となり、2測巨儀は破壊され、探照灯も破損し、同管制灯は使用不能となった。レーダーも使用不能、1番煙突及び12号缶煙路風路は大破、空中線全部及び艦外電路は切断した。

信号諸灯、各種計器は多数破壊され、短艇もカッター1隻を失し全部破壊された。

2号缶は温熱器連絡管に破孔を生じ、同蒸気ドラムは穿孔数個により使用不能、艀推進器は翼尖2葉が折損(長さ1m、巾24cm及び10cm)した。戦死25、重傷50。

(34) 松風(44.2.17トラツツ)

船体に450の破孔を生じ、前部下甲板は1m、后部下甲板は0.5m浸水し、浸水量は190トンに達した。前艦は大破し、3号缶の温熱管は漏洩し、重油タンクの破孔は60を算し、出し得る速力は20ktとなった。戦死10、戦傷40。

(35) 沖波(44.10.24~29比島周辺)

爆弾ノ発が命中したが不発で、3号缶室船体上甲板に小破孔を生じ、内火艇は大破し、3番機銃台 甲板は中破した。

至近爆弾により6区艇の外板は水線下の5mより上方長さ7m、高さ3m大破し、后部に150トンの浸水を起した。戦死13、重傷57。

(36) 潮 (44/11/13~14 マニラ湾)

至近弾により船主機械が破損、片舷ノ8k七以上出し得なくなった。后機附近では重油タンクが破損、船蒸気管接手は脱落、船推力軸受は亀裂し、舷単式及び高圧タービン車室の下半分は小亀裂を生じた。

(37) 清霜 (44/11/13~14 マニラ湾)

1番煙管に被爆、2缶は使用不能、出し得る速力は18k七となった。3、4番管を残して連管は大破し、魚雷は投棄された。1、2番煙突間に600耗の凹所を生じ、2、3、5番機銃台は破損、重油タンクは漏油した。

(38) 竹 (44/11/25 パラナカン)

機銃弾及び至近爆弾で小破し、出し得る速力は22k七浸水もあって常時排水を要し、電気兵器は大部分使用不能となった。砲員機銃員の損耗は甚大であった。

(39) 杉 (44/12/7 比島周辺)

出し得る速力は26k七、魚雷筒は発射不能、射撃装置、ジマイロは誤差大となり、70電話は使用不能となった。

(40) 栂 (44/12/12 レイテ北西)

船体各部に無数の破孔を生じ、高圧タービン滑脚装置及び主送ポンプタービン台は切損重下し、同減速装置は亀裂を生じたので、片舷航行ノ3k七をだし得るのみとなった。その他側探儀、ジマイロ、砲ノ門が破損した。

(41) 桃 (44/12/14 比島周辺)

被爆により2缶と前機は使用不能となり、蒸化器が破損し缶水不足で4時間后航行不能となった。火災浸水は数ヶ所に起

り、魚雷は投棄された。通信水測兵器は全部使用不能となり、舵はなつた。戦死30、戦傷102。

(42) 梅 (44/12/15 マニラ)

至近爆弾により船揚機室船水線下と幾3m、長さ5mの破口を生じ、船よりFR28隔壁迄浸水した。

(43) 榎 (44/12/27 サンホセ)

被爆により后機は中部より切断し、1号缶重油タンクは機銃弾貫通のため火災浸水を起し使用不能、出し得る速力は20k七となった。尚無線にも被害があつた。

(44) 樅 (45/12/1 高雄)

缶室の一部と旗甲板は爆砕され、前部電信室、烹炊所、ジマイロ、射撃指揮装置、制舵装置、前部兵員室は破壊され、出し得る速力は20k七となった。前部兵員室、船水線附近には60cmの破孔を生じた。戦死21、重傷20。

(45) 杉 (45/12/1 高雄)

至近爆弾により射撃装置、レーダー、25LF破壊、前部弾庫に一部浸水し、出し得る速力は20k七となり、戦死2、戦傷3を出した。

(46) 春風 (45/12/1 馬公)

爆弾ノ発が前部艇に命中し、上甲板を破損、更に1発が2号缶室船の上甲板に命中し、2、3号缶及び3、4号缶風機を破損し、戦死4、重傷16を出した。

(47) 夕風 (45/13/1 グランビ南方)

船高圧、舷高圧タービン前部軸受及び揚機に亀裂を生じ、発電機脚軸受は破壊せられ、主送水ポンプ、機械台が亀裂、船体各部に浸水漏油を生じた。

1、2番砲は旋回が過重となり、1番連装機銃、9番単装機銃は照準環を破壊、3番単装機銃は旋回過重、3式探信儀は送波器を破損、73式電探は能力低下、13号電探の受信機は作動不良となった。

(48) 京月 (45.4.7九州南西)

艦橋前に被爆火災を生じ、右部に至近弾2発による破孔を生じ浸水した。

直撃弾による破孔は艦橋船 FR 47~70に 14x6m 上甲板 FR 61~67 船に8x4m 下甲板 FR 51~63に 4x6m に達した。右部の艦底にも4箇所を生じ右進12ktで佐世保に帰投した。戦死5名 戦傷5名

(49) 楠 (45.6.2之内海西部)

前機と2缶室に被爆艦底を貫通して海中で炸裂し、艦底及び上甲板に破孔を生じ、前機の甲板下1mにて浸水前部主機械は破損し、10番タンクも破壊された。

(50) 柳 (45.7.4瀬島鎮地)

被爆により艦は切断し、傾斜もあり、右部高角砲直后より両舷推進器、推進軸は脱落、艦軸は歪曲、右部主機械は全面的に亀裂を生じ、舵取機、舵を亡失した。

(51) 宵月 (45.7.24呉附近)

探信儀保持筒は昇降不能となり、捕音器は12個が故障、舷外電路之本が切断し、ジヤイロの懸吊線も切断した。

(52) 權 (45.7.24之内海西部)

小型爆弾が発射管に命中破壊し、前機1缶室にも弾命中、主計科倉庫は漏水、機銃掃射により舷側重油タンクは全部海水が浸入使用不能となった。

送信機、発射管、機銃3門も使用不能で、出し得る速力は20ktとなり、戦死1名、戦傷5名を出した。

(53) 朝顔 (45.7.28備後瀬戸西口)

機銃掃射17弾の命中により発射管の右管は使用不能となり、送信機も被弾、撃傷2名を出した。

(54) 香風 (45.7.30宮津湾)

至近弾により予備倉庫、兵員室の一部に浸水し、その他若干の損傷と火災の発生を見た。

FR 18水線下2mの舷から舷へロケットの直弾が30x30cmの破孔をつくり、レーダー、ジヤイロ、発電機が破損した。

FR 145より前方水線下の外板は鉄が弛緩し、同FRより前方捕音機室間は1番弾薬庫浸水の外漏水した。

2缶室は隔壁が屈曲、同缶室内の煉瓦は脱落した。戦死5名、重傷2名。

以上の外の艦については詳細不明である。

6. 敷設艦

(1) 津堅 (42.9.3ソロモン)

至近爆弾により舷に破孔を生じ、前部弾薬庫は浸入し、高射装置その他が故障した。

(2) 常磐 (45.8.9大湊方面)

舵取機室、舵柄室、ボク機室作業庫に浸水、補機室内の補助蒸気管破損し補機は使用不能となった。

主機械は数時間の低速航行が可能なのみで、電源動力関係は全壊し、舵取機は使用不能となった。

以上の外延6隻あるが、特記事項はない。

7. 海防艦

(1) 16号 (44.7.19ヤツブ南西)

至近弾により主機械の横縦弁が不具合となり、探信儀は発信不能となった。出し得る速力も15ktに落ちた。

(2) 63号 (44.8.20高雄附近)

舷中右部に至近弾3発、1番砲の前部に不発の貫通弾があり、ボク兵員室、爆雷庫外数ヶ所に被弾し、航行不能となった。

(3) 御蔵 (44.9.23馬公附近)

FR 98に不発爆弾が最上甲板上中甲板外舷を貫通し、至1mの破孔を生じ、ボク兵員室が浸水した。舷右部の外板は至近弾によりFR 84~108が65cm 4入、鉄の脱落弛緩

は約3000に達した。5.6.7兵員室 后部士官室 船軸室 弾薬庫 爆雷庫等は海水と重油が浸入し、発電機室はキングストンより逆流して同室を満水した。機械室のポンプは全部破損し、送受信機、電測水測諸兵器も損所を生じた。

(4) 屋代 (44.10.11 サンビーセント泊地)
2号発電機は故障し艦橋下の艦底に凹所を生じ、船ビルギキールは上方に弯曲した。送信機も故障し、戦死4 重傷9 軽傷11を記録した。

(5) 沖繩 (44.11.18 ラブアン島沖)
至近弾により7.9番タンクより前部爆雷庫へ約12トンの重油を、機械室内リベットも64脱落し漏油、空気圧縮ポンプは破損した。

(6) 4振 (44.11.30 南西方面)
至近弾と機銃掃射により重油が漏れ、鉄弛緩のため海水が浸入した。探照灯、測巨儀、探信機、聴音機は使用不能となった。

(7) 生名 (44.12.5 白灯台沖)
至近弾により水測電測兵器、測程儀、測深儀、通信兵器は使用不能となり、単装高角砲は旋回不能となった。

(8) 19号 (44.12.17 カムラン南)
至近弾により后部弾火薬庫、下部2重底に毎時15トンの浸水を見た。

(9) 対馬 (44.12.31)
至近弾2発により外板が弛緩し、后部通用科倉庫、3番弾庫に海水が漏れ、重油タンク隔壁の鉄が脱落したため面取軸室、4番機関科倉庫、3米薬庫に重油が浸入した。機械室と軸室間の隔壁は弯曲し、3番砲は旋回不能、船投下器は投下不能、レーダー、探信儀、ジヤイロは故障した。

(10) 9号 (45.1.9 左宮沖)

機械室后部隔壁より后方は操舵室と隣り全浸水し、船に16度傾斜、后部は坐洲した。艦橋使用不能で2番砲、爆雷砲は破壊し、受信操舵不能となった。

(11) 屋代 (45.1.9 高雄港外)
艦橋前部及び船短艇に被爆、艦長、航海長以下12名が戦死し、機関長が艦の指揮をとった。操舵装置も故障した。

(12) 網走 (45.1.12 13-50N, 107-20E)
6発の至近爆弾により重油タンクに破孔を生じて浸水した。主軸受メタルに亀裂が入り、出し得る速力14ktとなった。更に約200発の機銃掃射を受け、受信機2台、砲撃指揮装置、探信儀、航海兵器、艦橋電路が損傷した。

(13) 12号 (45.2.6 父島北西36°)
ロケット弾2発が艦橋船上に命中し、上甲板上の船体の一部に破孔を生じ、兵器も若干損傷した。重傷3 軽傷4

(14) 28号 (45.3.30 菊林)
至近弾により外板の一部が弯曲し、ビームの一部には亀裂を生じ、浸水傾斜、主タービン推力軸受及び滑脚部も亀裂し、同取付ボルトは全部折損して航行不能となった。

(15) 満珠 (45.4.3 香巻々内)
被爆により艦が沈下着底し、艦橋前部附近は大破した。機械室より后部の浸水遮防は成功し、機械も使用可能で、傾斜は15度あつたが、艦橋前部で船体を切断し、后部のみ浮揚せしめた。

(16) 31号 (45.4.22)
至60cmの破口を生じ、水測電測兵器は故障し、舵取機電動機は亀裂を生じた。重傷1 軽傷1

(17) ハ丈 (45.5.11 片岡湾)
被爆により、457~58では両舷氷線下の外板電管が挫

感し 艦は約750 耗重下した。

FR 51~65 間は艦外板の水線下に最大 600 耗の圧入変形を見。FR 59~60 の艦水線下はL型の亀裂と最大 600 耗の食重を生じた。

FR 62~63 の上甲板も挫屈し、FR 51~65 艇のビルダキールは船体より最大 50% 離脱した。

補助缶室、発電機室は満水し、レーダーは破損した。

(18) 栗国 (45.5.27 LM 哨区)

ロケット弾により FRノ前方を破壊され、1番高筒砲及び水測兵器は破壊された。

FR37 横隔壁より前方キールより船楼甲板に至る間は大破浸水して重下した。

錨鎖 場錨機は亡失し、探信儀は要修理状態となった。

(19) 伊王 (45.7.14 八戸港外)

爆弾命中により 2番砲及びレーダーは故障し、弾庫は火災となったが周もなく鎮火した。舵取機も故障し、戦死ノ重傷ノ軽傷ヲを出した。

(20) 170号 (45.7.24 及び 28 田辺 及び 紀伊 由良)

24日艦橋下部を2弾が貫通し、至近弾により大小60の破孔を生じた。

28日は至近弾により更に数十箇所に破孔を生じ、レーダーは火災となり、重油タンク、真水タンクは漏洩し、25耗2基が使用不能となった。重傷ノ 軽傷ノ3。

(21) 高根 (45.7.30 舞鶴 附近)

至近弾により火災発生小破し、砲員の7割と見張員の全部が死傷した。 (死 16、重傷 40)

戦斗航海には支障はなかった。

8. 掃海艇

(1) 26号 (45.11.23 トラバウル)

機械室艇中部と舷側に直撃及び至近爆弾各ノ発を受け 舷側

に大破孔を生ずると共に、上甲板は艇より船へ亀裂を生じ、機械室ノ2缶室、蓄電池室、オ2、オ3兵員室に浸水、樹生したが即刻浮上した。

戦死2、重傷11、軽傷18。

(2) 21号 (45.12.25 カビエン)

艦橋艇に至近爆弾を受け、1缶室より前部は浸水し、FR32~44に長さ6mの破口を生じ、通信機は大部分破損した。

(3) 22号 (45.12.25 カビエン)

多数の至近弾により無数の小破口を生じ、缶室機械室に小浸水を生じ、兵器は大部分破損して掃海不能となり、出し得る速度は8ノトとなった。

通信室艇より魚雷が貫通し、鉄砲架のため倉庫、弾薬庫、重油タンクに浸水した。

3番砲、25耗機銃、探信儀、聴音機、測程儀は作動不良となり、艇橋中軸受艇送水ポンプ、1缶室、2缶室の重油噴燃ポンプ取付口は亀裂した。

(4) 21号 (44.3.6)

艦橋前部艇に至近弾が落ち、6x4mの破孔を生じ、1缶室より前方全部に浸水した。機銃弾も約150が命中し、無線兵器全部、探信儀、測深儀、測程儀、舷外電路は破壊した。

1.2番重油タンク、測程儀室、前部弾薬庫、オノ兵員室、探信儀室、下部士官室以外は現地で排水した。

FR19迄の区画は切断弯曲し、キールはFR35附近で曲折し、艇ビルダキール、舵、外板にも損傷があつた。

(5) 17号 (44.11.26 海南島)

至近弾により4番石炭庫の外板が亀裂し、又各タービンの取付脚も亀裂を見、舵故障で7ノトの片舷航行をなし得るのみとなった。

その他兵員については特記事項はない。

9. 駆潜艇

- (1) 12号(43.8/ラバウル)

至近弾により、FR 31 39 50が摧毁し、艀がノ米直下、機
械室より前方は満水し、艀は擱坐した。
主機械、発電機は使用可能であったが、電信室は浸水した。
- (2) 10号(43.830ブーゲンビル)

機械室前部上甲板 オ2兵員室前部上甲板 オ3兵員室 爆
雷艀舷外板に破口を生じ、水雷科倉庫 艀外板キールに至る
所にも破口があり、上甲板は膨出した。
探信儀、無線兵器、聴音機、測程儀は破損し、艀推進器艀軸
フランジ接手の前方が折損、航行不能となり、曳航されてト
ラックに帰った。
- (3) 23号(43.10.18ラバウル港外)

航海灯より前部は切断し、FR 37. 29 64に於て甲板は
摧毁、8種砲は亡失した。
13種機銃、無線電源、探信儀、測程儀は全壊し、艀主機械
は架橋台板に亀裂を生じた。
- (4) 37号(44.1.中旬ロレンガウ)

至近弾により消音器の震動が増大し、外板は湾曲し、内火電
気機も震動が増大し、探信儀、聴音機、高角砲旋回装置は作
動不良となった。
主機械は震動を増し、両舷推進軸は侵蝕された。
- (5) 38号(44.2.21)

至近弾により水線下に約300の破孔を生じ、3番重油タン
クが漏水し、前檣樑は曲折し、消音器、煙突、カッター(ブ
ビット共)は大破喪失した。
主機械は震動が増大し、8/10全カ以上の發揮は不可能となつ
た。諸管系も相当の損傷があった。
- (6) 1号(44.11.14ミンドロ西)

船体機関に機銃掃射による被弾が多数あり、至近爆弾により
水線附近に約1mの破孔を生じ、擱坐したが2/日自力寄礁

- し、22日マニラに着いた。戦死5名。
- (7) 19号(44.11.14ミンドロ附近)

機銃掃射を受け前部整頓油庫に小火災を生じ、貫通弾は数十
発、外板の鉄釘100本が脱落した。重傷1、軽傷4
- (8) 7号(44.11.26)

至近爆弾により機械室上部の上甲板でビームの一部が亀裂し
、2.4番重油タンクは漏水した。
- (9) 37号(44.12.21)

舳艀底のFR 64~65 間に至近弾による至50cmの破孔を
生じ、艀推進軸及び艀軸は屈曲し、戦死4 重傷5 軽傷10
数名を出した。
- (10) 47号(45.2.17 32-45N. 111-56E)

機銃掃射により37/個所の破口(内水線下11)を生じ、
リベットの弛緩30個所、艀は使用不能となった。前部運用
科倉庫 主計科倉庫 艀艀庫に浸水し、揚艀機は使用不能と
なった。
探照灯1基、25種機銃2門、13種連装1基、電探逆探1
基、90式電送受信器、艀外電路、2式爆雷6個、測程儀
信号灯、測巨儀が破壊され、対空兵器は全滅となったが、自
力航行は可能であった。戦死2 戦傷22
- (11) 41号(45.2.23 サンジヤツフ)

8種高角砲、機銃、探照灯、測巨儀、ジヤイロ、受信器、内
火艇を焼失し、戦死8、戦傷16を出した。何れも至近爆弾
及び機銃掃射によるものである。
- (12) 49号(45.3.1 南西諸島)

8cm高角砲、探照灯、航海水測兵器の大部分を破壊され
通信機は故障し、糧食庫、艀艀庫、揚艀機室、兵員室に若干
の浸水を見た。戦死21 重傷10 軽傷12
- (13) 51号(45.3.7 八丈島神港)

外板舳 FR 72~81に4x2m、上甲板舳 FR 75~81に

2.75 x 2.8 m の破孔を生じ、下甲板船 Fr 76-80 は屈曲変形し、一部破孔を生じた。

(14) 21号 (45.3.15 南澳島南側)

機銃室艇中部水線附近に至近弾による中破孔と機銃弾による破口10を生じ、探照灯、探信儀、無線電話は使用不能となったが、戦闘航海には支障なかった。

14号 (45.7.28 横須賀)

舷側下甲板にロケット弾2発が命中し、前部は浸水、舵は変形して操舵不能となった。戦死1、戦傷6。

その他延17隻については特記事項はない。

10. 1等輸送艦

(1) 9号 (44.11.25 パラナカン)

揚錨機室に浸水使用不能、艦橋操舵不能となった。戦死は14、戦傷は43であったが、砲員は全滅し、機銃員は半減した。

(2) 13号 (45.2.11 小笠原)

ロケット弾1発が艇から約10mの鋼板を貫通、至20種の破孔をつくり、船外板に衝撃炸裂し、1弾は才3兵員室艇を貫通し、右部艇内に於て炸裂、艦橋下より前部に浸水した。貫通弾中の1発の噴進焔は艦長室前の可燃物に引火大火災となり、前部には浸水も起った。火災は2時間後鎮火したが、戦死30、戦傷41を出した。

(3) 16号 (45.2.16 硫黄島南方)

機銃掃射により破孔多数を生じ、弾庫重油タンク前部倉庫に浸水し、砲兵兵器は使用不能、制舵装置は故障した。戦死22、重傷37、軽傷35。

その他延4隻については詳細不明である。

11. その他の艦艇

(1) 友崎 (43.16 トボ湾口)

至近弾により機銃室、2缶室、補機室艇に浸水、応急処置後曳航された。

(2) 36号哨戒艇 (44.5.17 スラバヤ)

入系中2缶室に直撃弾を受け、3号缶大破、2号缶中破、送風機3/4台、主給水ポンプ1台を破損、諸管系も大破し、機銃室油、冷却器、注油ポンプ、船前部諸管装置一部破損の損害があつた。

船体は2缶室艇の外板を大破し、機銃室缶室間隔壁、12缶室間隔壁、710番重油タンク、主給水タンク、油澄タンク、予備油タンクを破損した。

(3) 雉 (44.6.3 マノワリ)

船体中央部の上甲板が挫屈し、飛鉄約100を生じた。肋板は機銃室より艦首挫屈し、1缶の噴燃器は出入不能、揚錨機油受部は破損した。

(4) 153号輸送艦 (44.9.19 一見)

至近弾により主機の前側と送水ポンプ台が亀裂し、12号重油噴燃ポンプと旋鈕が折損、蒸化器は破損した。12号重油タンクは亀裂し、重油が漏出した。

(5) 怒和島 (45.5 佐伯湾)

艦上甲板に直撃弾を受け、上甲板を貫通して下甲板に於て炸裂し、舵附近より舵は飛散し失した。右部上甲板は右部兵員匍附近より反転し、船外板は船外に垂下、機銃室隔壁より右部艇内全部が浸水し、右舷附近より艇部の浸水は上甲板に達した。

(6) 秋津洲 (44.2.17~18 トラツ)

直撃爆弾により右部上中甲板及び舵取機が破損し、水線以上約0.5mより上部の外板が剥離、デリックは破損し使用不能、舵取機は2台中1台のみ使用可能の外制舵装置は全部破損した。戦死27、戦傷33の殆どは砲員、機銃員であつて、砲術科員の健在者は軽傷を含み1/4に留まらなかつた。

以上の外の各艦については詳細不明である。

第二章 水上戦によるもの

1. 重巡洋艦

- (1) 三隈 (42.2.28 スラバヤ沖海戦)
2355 ヒューストンの弾丸が命中し、発電装置を損傷したが迅速に修理された。
- (2) 鳥海 (42.8.8 オノソロモン海戦)
ヴァインセンスの首射弾2発が作戦室に命中し、全海図を焼失、1番砲塔は使用不能となり、約30名が戦死した。
- (3) 青葉 (42.8.9 オノソロモン海戦)
1番砲塔及び発射管に被弾火災を生じ、1番連管は使用不能となった。
- (4) 青葉 (42.10.11 サボ島沖夜戦)
最初の電探射撃を受け24弾が命中、2番砲塔及び艦橋を破壊され、2缶に浸水したが、通常航海に支障なく、異に帰投修理した。
- (5) 那智 (43.3.27 アッツ沖海戦)
0350 船后橋に被弾、戦死11、戦傷21を生じ、小火災が起ったが直に消火された。
0352 発射管室に被弾し、戦死2、戦傷5を出した。
0354 2番号機は海中に投棄された。
合計5発を受け、戦死14、戦傷27を出した。
開戦時蒸気区分を誤って発電機を停止し、好機と誤した事故があった。
- (6) 妙高 (43.11.2 ブーゲンビル沖)
至近弾によって船外軸外側低圧及び内軸内側タービン車室脚が全面的に亀裂した。
- (7) 羽黒 (43.11.2 ブーゲンビル沖)
至近弾により46缶室下部重油タンクに浸水し、2番砲塔防水線下、7缶室水線下に水中弾が命中、2mの破孔を生じ、

防水区に浸水した。

測巨儀及び2番砲塔の旋回は不調となり、通信電格は焼損した。2,3番高射器、射出機は使用不能となった。

至近弾により船外軸内側及び外側低圧タービン脚に亀裂を生じた。

その他高雄、愛宕、衣笠、摩耶、熊野、最上も各一回被害を受けているが、詳細は不明である。

2. 軽巡洋艦

- (1) 矢矧 (44.10.25 比島沖海戦)
10cm 砲弾がFR59上甲板船に命中、上甲板に60×60cm、士官室に95×80cmの破孔を生じ、倉庫に小火災が発生した。
その他球磨、能代、も被害を受けているが、詳細不明である。

3. 駆逐艦

- (1) 滿潮 (42.2.20 バリ島沖海戦)
主蒸気西舷交通弁に砲弾が命中し、全缶の蒸気が噴出し、機
関長以下在室員は殆ど戦死して、航行不能となった。
- (2) 滿潮 (42.11.12 オノソロモン海戦)
砲撃により5室機銃室に浸水し、艦底を沈下した。14日の空襲で航行不能となった。
- (3) 宗風 (43.7.5 クラ湾夜戦)
砲撃により1番砲塔の右砲身は弯曲し、砲塔は旋回不能となり、探照灯及び同台も全壊した。
- (4) 天霧 (43.7.5 クラ湾夜戦)
5" 砲弾が艦楼甲板/番砲寄りに1発、次で前部電信室艦側航海科倉庫、2番煙突上部船に各1発が命中し、受信器は全壊した。
- (5) 望月 (43.7.5 クラ湾夜戦)
夜戦により1番砲、1番連管、2m測巨儀、望遠鏡、探照灯/缶室主蒸気管を破壊され、重油タンクに小破孔を生じ、

た。

(6) 皇月 (43.7.5 トラ湾夜戦)

夜戦により探信機送波器、25 耗機銃 / 探照灯、方位測定機、1号注油ポンプ排気管、3号重油噴燃ポンプに被害を受けた。

(7) 水無月 (43.10.2 ソロモン)

砲戦により、2缶室船 / 3番重油タンク外板水線上下約 1m に 70 x 90 cm の破孔を生じ、タンク内にも小破孔数個を生じた。

(8) 時雨 (44.6.9 西ニューギニア)

夜戦により 2番砲射管に直撃弾を受けて破壊し、1番砲塔も破壊、艤務にも直撃を受け、外板に 2 x 1m 外数ヶ所及び上甲板に破孔を生じた。

(9) 竹 (42.12.2 オルモツク)

駆逐艦、魚雷艇と交戦し、5" 砲弾が前機銃を貫通し、補機は浸水し、片舷航行となった。探照灯用電動発電機も破壊した。

蒸化器が使えず圧水が欠乏し、輪 9号の供給を受け、14K7 2時間の航走により危地を脱した。

その他延 20 隻についての詳細は不明である。

4. その他の艦艇

(1) 20号駆潜艇 (43.11.14)

潜水艦との砲戦により艦水線附近を両舷貫通し、艇 70 x 70 cm 艇 40 x 40 cm の破孔を生じ、艦橋下艇水線附近に 100 x 150 cm、機械室艇水線附近に 70 x 70 cm、補機室艇上 70 x 50 cm、上甲板艇に 40 x 40 cm の破孔を明けられ、浸水のため航行不能となった。

(2) 能美 (44.9.26 根拠附近)

潜水艦と砲戦し外板に大小 60 ヶ所の砲口を生じ、機械室、2号兵員室、レーダー、信号通信兵器及び電路に被害を生じた。

た。

(3) 42号駆潜艇 (45.7.31 尾崎)

潜水艦と交戦し舵取機室、右部兵員室を破壊されて浸水した。船体後部 1.3m は屈曲変形し、自力航行は可能乍ら操舵不能となった。戦死 1、戦傷 6 名。

その他数隻があるが詳細は不明である。

第 3 章 潜水艦によるもの

1. 戦艦

(1) 大和 (43.12.25 トラツク北西 150')

1本命中、バルゲ外板に FR 151 ~ 173 間 25 x 5m の破損箇所を生じ、3番主砲上部火薬庫に浸水したが、依然航行を続行した。

(2) 武蔵 (44.3.29 パラオ北方)

鎗鎖庫に 1本命中、艇外板は水線下 1m より底部キールを残り長さ 12m、深さ 10m の破孔を生じ、下甲板は 1、2、3 兵員室、最下甲板は軽貨油庫、塗具庫、運用料倉庫、酒保倉庫、前部揚錨機室、防水区割 3 箇所、2号船艙甲板では防水区 8 箇所、軽貨油庫、2号塗具庫、運用料倉庫、前部注排水管制所、1号2号ビルゲポンプ室、2号3号機関科倉庫、鎗鎖庫、4号運用料倉庫、酒保倉庫、船艙甲板では前部 1 ~ 7 番釣台タンク、防水区割 6、注排水区割 2、2重底では防水区割 2、ビルゲタンク 1 に合計 2,630 T の浸水を引き、戦死 7 名があつたが、3週間で修理は完成した。

2. 航空母艦

(1) 大鷹 (42.9.28 トラツク南方)

FR 186 附近に被害、水線下に長さ約 10m の破口を生じ、揮発油タンクに浸水した。

(2) 飛鷹 (43.6.10 三宅島の 70°128')

2本の命中によりノ缶室外側は大破孔を生じ、室内及びノ号缶は大破。1. 2 缶室は浸水全没。1. 3. 5番重油タンク外側も大破孔を生じ大破し、2. 3 4号缶は爆風により屈曲した。

(3) 草鷲(43. 11. 5 豊后水道外)

ノ本の命中で外板は45m内方へ屈曲し、16x8mの大破孔を生じ、船飛出受は切断、軸は左に偏心し、艇材も切断、片舷航行操舵不能で出し得る速力はノ8Kセとなった。戦死4 戦傷16を出した。

(4) 雲鷹(44. 1. 19 プラム東南東)

舷45度方向よりノ番真水タンク右端附近へノ本、軽油タンクへ2本被雷、艇材は下端に於て切断屈曲し、船外板はFR193附近に大破と共に水線下2m以下は大破孔となり、上方はFR189附近が大破となった。オ5兵員室床以下は軽油タンクが全面に大破孔を生じ尚も航行を続けたが、激浪のためFR177より前方は脱落し、発着甲板の前部はノ5度屈曲した。

(5) 大鷹(43. 9. 24 大島南東)

舵取機室へノ本命中して同室を大破し、主機械の軸受は焼損して使用不能となった。舵は脱落し、後部軽油タンク及び軸室に浸水した。機械室の浸水は500トンに達した。

(6) 草鷲(44. 12. 9 女島東方)

船及び艇に2本命中、船艙長さ及び高さ各10mは大破亡失し、船機械室後部に長さ10m高さ17mの破孔を生じた。浸水量は合計5000トンに達した。

その他竜馬が被雷しているが、詳細は不明である。

3 重巡洋艦

(1) 那智(43. 9. 6 宮古南方)

2本命中したが、何れも不発で、FR190のバルゲに凹所を生じ、FR349から火薬庫が満水した。

(2) 青葉(44. 10. 23 14-ON 119-30E)

ノ本命中してバルゲ外板に大破孔を生じ、前機は全壊し、船前機、船中機、5. 6. 7号缶室に浸水。1. 2. 3. 4号缶室、船中機にも漏水、航行不能となり鬼怒が曳航してマニラに帰着した。

(3) 熊野(44. 11. 6 比島周辺)

2本命中し機械室に浸水、航行不能となったが遮防に成功し、船ノ1度の傾斜に止った。

(4) 妙高(44. 12. 13 サンジヤック附近)

舷右部に被雷しFR302以後は脱落、船飛出受を残り張出受と舵を亡失、オ5兵員室から後部は浸水艇トリム2mとなった。

艇は重油に引火して火災となり、消火はノ5日夜迄を要した。艇内軸のみ使用可能で6Kセでシンガポールへ帰った。

高雄も被雷したが詳細は不明である。

4 軽巡洋艦

(1) 那珂(42. 4. 1 ジマフ近海)

缶室に被雷、ノ2缶室及びオ5兵員室は浸水し船体は歪曲した。缶室内は大破し補機類は天井迄吹飛ばされ垂下していた。応急修理後舞鶴に帰航、修理はノ8年3月迄を要した。

(2) 由良(42. 10. 18 ソロモン)

ノ本命中したが、不発で2番清水タンク后方空所に80x150cmの凹所を生じたが、戦時航海に支障はなかった。

(3) 阿賀野(44. 12 トラック附近)

ノ本命中してオ4兵員室より後部は切断し、一時航行送受機共不能となった。

(4) 北上(44. 127 マラッカ海峡)

2本の命中によりFR55及び49を中心として両舷外板は各甲板共歪曲し、FR182~195ではビルゲキールよりキール間船に7x4mの破孔を生じ、右機では主補機共大破し、

主発令所及び艙室が浸水した。

(5) 五十鈴(44.1.19コレヒドール)

1本命中してFR 242より後部は切断し、舵及び舵取機は亡失し、後部30トンポンプ室、士官糧食庫、冷蔵庫に満水した。

5. 駆逐艦

(1) 不知火(42.6.27キスカ)

魚雷1本の命中により10m以上の破孔を生じ、キールが切断したが、重油や重量物を陸揚船体を補強し、内地へ帰投した。

(2) 腰(42.6.27キスカ)

魚雷1本命中し、1缶隔壁に5mの破孔を生じ、艙は30度垂下したが、鉄通杖の刃によつて辛うじて切断を免れた。

(3) 秋月(43.1.19ツラギ西270°)

1缶室の艦底で、爆発、別に不発1本を受け、1缶室及びFR 5~9の上甲板以下は漏水し、船外側には2.5呎の破孔より火薬庫に浸水した。笠、水雷笠、盤は故障した。3号缶と主機械には異状なく、後部操舵により20Kセの発揮が可能であつた。

(4) 春雨(43.1.24ウエフ南西11°)

1番砲塔船に魚雷1本が命中、同砲塔直前より切断し、一時航行不能となつたが、4Kセの最速航行により基地へ帰つた。

(5) 夕霧(43.5.16カビエン北西120°)

船前部冷却機室附近に命中し、FR 21より前方は切断した。

(6) 帆風(43.7.1セルベス北方)

船に1本命中撃沈した。

FR 32附近より前方は損傷し、FR 45~125は船体に500発の撃を喰ひ、4番砲身、探信儀、聴音器、揚錨機は一部破損した。

(7) 江風(43.7.12ソロモン)

艦至近で爆発し発電機/台が故障し、2, 3番砲関係兵器無線兵器を破損した。

艦FR 95~153の水線下1mで、竜骨線の外側迄外板が内方へ弯曲し、鉄が弛緩した。

(8) 天津風(44.1.17マニラ南々西)

魚雷により2缶室より前方は切断し、前部発射管は海中へ墜落した。3缶室は満水し、補機が破損傾斜は前約5度で、吃水は前部6.5m、後部3.5mとなり、戦死4、戦傷76を出した。

(9) 涼月(44.1.16沖ノ島西方)

2本の命中により前部火薬庫は誘爆飛散し、FR 60より前部は流失、FR 70より前部FR 168より後部は大破した。短艇は全部大破して使用不能となり、高射笠、前部砲塔、探信儀、聴音器、前部無線兵器は流失した。高射装置、2, 4, 5番機銃、投射器を大破、1缶室は満水し、前機は推進器、推進軸の外使用不能となった。准士官以上は3名を徐いて戦死し、下士官兵も185名の生存者中30名は負傷していた。

(10) 響(44.9.6琉球嶼灯台95°8')

前部士官室直下に被雷し、FR 40の艦底に至る5mの破孔を生じ、爆風は船機甲板を貫き、FR 34より前部は車下満水した。衝突により後部の外板は撓曲し、艦底に小亀裂を生じ、之がため予備糧食庫、爆雷庫、水雷火薬庫、オ2水雷科倉庫、オ4オ5運用科倉庫は満水し、1番砲塔、揚錨機及び同機は粉碎され、探信儀も破損した。

(11) 波風(44.9.8 47-27N, 148-20E)

3区より後部は切断し、FR 157以後の船体は脱落した。FR 145以後は浸水し、船体全般に歪み、2区も浸水、推進軸は弯曲して、摩滅が特に甚しくなつた。

冬月(44.10.12)

揚錨機より前方を切断されたが、14K七航行には支障はなかった。

(12) 京月(44.10.16 宮崎沖)

二本の命中により後部の旧損傷部に亀裂を生じ、船機は使用困難となった。

FR18より前方、揚錨機室、木工室は切断した。

1発は不発でFR42~43に55x50cmの破孔をつくつた。片舷航行で12K七を出すことが出来た。

(13) 春風(44.11.4ルソン海峡)

舷後部に被雷し、FR155より後部は切断し、航行不能となった。推進軸よりの浸水は毎時3トンに止まったが、FR145附近の甲板及び機銃台は上方にまくれ、推進軸受は破損脱落。推進軸は下方に約6m屈曲し戦死67戦傷18を出した。

その他京風、追風、満潮、横が被雷しているが詳細は不明である。

6. 敷設艦

(1) 津軽(43.8.5グリニチ島西50°)

一本の命中によりFRノ2前方水線下より甲板迄を破壊され、錨鎖庫前方の50トンポンプ室に浸水した。

(2) 若鷹(44.10.17バウエヤン島東方)

FR7附近の上甲板以下は切断し、FR11附近より約20度垂下し船機甲板も艦へ垂下した。

本艦は更に20.3.27にも被雷、FR28より前方を切断している。

7. 潜水母艦

迅鯨(44.9.19 那覇323°81')

被雷により船機、2.3缶室、発電機室に浸水、艦ノ3度に傾斜航行通信不能となったが、傾斜を復元し、残2缶で船機航行を試みた。戦死13名。

8. 海防艦

(1) 17号(44.7.18高雄附近)

オ2兵員室より前方が切断し、機機室前部隔壁より艦へ約1mの所に上甲板及び両舷外板に亘り挫屈、亀裂を生じ、戦死11名、重傷船長以下3名を出した。

(2) 132号(44.10.24沖ノ島南方40°)

1番砲の下に被雷、前部強火薬庫が誘爆、前艦橋附近より切断し艦橋は後部に創れ、火災のため艦橋より前方は使用に堪えず、戦死71、戦傷16を出した。

(3) 占守(44.11.25マニラ西方)

FR23より前方の船体を亡失し、FR26隔壁より前方の船体は著しく変形した。FR32の隔壁迄浸水し、FR42では甲板に小破が著り、FR62では甲板及び舷後部に達する迄外板に深さ最大30cmの破が発生した。錨、聴音装置12cm砲は亡失した。

(4) 蒼珠(45.1.31西貢附近)

FR4から前方は1番砲上に吹返され、同砲は使用不能となった。FR45、69附近は弯曲し、船機甲板のFR16~9は斜に欠損し、FR19迄外板は両舷共波状を呈し、舷に弯曲した。

(5) 102号(45.4.9 36-46N, 123-46E)

補助舵を切断亡失し、FR106より後部を大破切断した。推進器翼1枚は翼根が亀裂し、推進軸の中心が偏倚した。

(6) 生名(45.4.10 生月北端)

錨鎖庫附近に被雷、艦を大破し、両錨は使用不能となり、ジヤイロ、測深機も破損したが、軽傷1名を出したのみであった。

(7) 50号(45.5.1和歌山県沿岸)

後部に被雷、浸水沈下着底した。5.4.3区及び機機室に浸水し、FR101より後部は切断亡失し、舵推進器も喪失した。戦死2、戦傷7。

(8) 豆戸 (45.6.22 北海道)

FR 2より前方は切断し、1番砲と25号機銃2門、揚錨装置を失した外、ジャイロを毀損し、探信儀は浸水で使用不能となった。

以上の外延10隻が被雷しているが詳細不明。

9. その他の艦艇

1. 52号駆潜艇 (44.2.21 洲崎 325°4')

艇の外板に3x3.5mの破孔を生じ、機械室、士官室、予備室、オ3倉庫、オ2糧食庫、弾薬庫に満水した。

この外8隻あるが何れも詳細不明。

オ4章 機雷によるもの

1. 重巡洋艦

(1) 高雄 (43.7.31 シンガポール)

2. 軽巡洋艦

(1) 長良 (43.2.15 カビエン)

艦で爆発し、FR250の上甲板より船外板水線下2m迄に至及び船外方3mに約2m x 5cmの凹所を生じた。

(2) 五十鈴 (43.11.4)

触雷により、3番砲は旋回困難となり、艦底外板に若干の損傷があつた。

3. 駆逐艦

(1) 春風 (42.11.6 スラバヤ北水道)

触雷により火災を発生して艦橋の大部分を焼失し、1缶に少量の浸水を見た。

(2) 風雲 (43.4.3 ミヨートランド)

感応機雷に触雷し、1缶室は使用不能となり、艦底燃料タンクの接手が弛緩したが、自力航行は可能であつた。

(3) 磯風 (43.11.4 カビエン)

艦尾部に触雷し、FR110の后方外板は弯曲し、17.20.23番重油タンクは艦底に漏洩、オ3予備倉庫に少量の浸水を見、6.7.8区の甲板外板は屈曲送信機は破損し、飛糧可能速力は16K七となつた。

(4) 蓮 (44.9.3 上海附近)

両舷高低圧タービン前部脚及び艦底圧タービン後部脚が折損、艙減速車室に大亀裂を生じ、蒸気発電機台中央部も亀裂した上、同加減弁箱の付根が折損した。舵の人力操舵への切換部柱も折損、船体の一部に凹所を生じ、FR127~142間の艦底及び軸室より毎時15トンの漏水を生じた。負傷4名。

(5) 響 (45.3.29 延島灯台附近)

両舷巡航タービンの滑脚部に亀裂を生じ、重油噴燃ポンプ、重油タンク全発射管が破損した。

(6) 椿 (45.4.10 吳淞灯台 95°58')

後部弾庫、魚雷頭部庫、爆雷庫に満水、舵取機、後部主機、ディーゼル発電機、探信儀等が使用不能となつた。後部操舵と低速片舷航行で基地に帰つたが、戦傷20名を出した。

(7) 桜 (45.5.25 六連)

電動機支金が折損し、測深儀は故障、水雷科倉庫に少量の浸水があり、肋材が少し変形した。

(8) 椿 (45.5.28 小豆島)

爆雷装填台と投下軌道が毀損し、前機の高低タービン軸受が亀裂を生じた。

(9) 宵月 (45.6.5 延島北方)

後機の低圧タービン下部車室の後進オフ段落到巾ノ耗の亀裂を生じ、同滑脚室にも巾ノ2耗長さノ50耗の亀裂、造水装置附属ポンプ取付部に2ヶ所、同扇車風海水出口管周囲に巾ノ5耗の亀裂が生じ、28K七に於ける燃料費額は1割の増加を見た。

- (10) 推(45.6.5セウガイ嶺灯台附近)
補機台が亀裂し、揚錨機、射撃装置を破損、レーダー、探信儀にも被害があり、キングストンは用済不能となった。
- (11) 推(45.6.30関内西口)
艦は屈曲小破し、後部水雷科倉庫、舵取機室、酒保倉庫、右部弾薬庫、両舷軸室に漏水し、内火発電機、通信兵器、ジヤイロ、水測兵器、2番砲は使用不能となった。
7号兵員室のFR 1/5より船体は約5度の傾きで船尾部各室に浸水、排水困難となり、機軸缶は使用可能であったが、航行不能となった。

揚炎、夏月、損については詳細不明である。

4 海防艦

- (1) 屋代(44.7.14高雄附近)
磁気機雷により発電機室より前部外舷の鉄が弛み数ヶ所から浸水し、水測電測兵器、発電機及び受信機2台が破損、航行不能となった。重傷2、軽傷10。
- (2) 天草(44.12.21大島附近)
艦橋直下に触雷し、1番砲、ジヤイロ、無線兵器は使用不能となり、探鳥儀も故障した。
- (3) 61号(45.2.9サンジヤツク灯台 128°10')
機軸室に浸水し、主機械、発電機は全部使用不能となった。艀主機械台は全長に亘って亀裂し、架橋支柱にも殆ど亀裂が入った。発電機1台も台板に大亀裂を生じた。駆着3/1の曳航により香巻に到着した。
- (4) 稻木(45.3.31吉部崎灯台 132°88')
艀補機は損傷し、艀機が使用不能となり、鐵は弛緩し、外板は亀裂を生じて爆雷庫、測程儀室に若干の浸水を見、水測電測兵器は使用不能となった。
- (5) 124号(45.4.10蓋井島灯台 83°5200m)
缶室機軸室の艦底外板がフレーム間で最大20厘の凹所を生

- じ、機軸室に浸水し、タービンケース、ギヤケースは換装を要する程度に破損、2番中間軸受は折損し、タービン排気室は亀裂を生じた。
12号缶共炉内煉瓦は崩壊、1号発電機減速車室も破損、2号発電機は燃料ポンプを折損した。
- (6) 宇久(45.5.9)
主機械ピストン、冷却水ポンプ、艀各パイピング、発電機台が亀裂、艀中間軸受を破損し、探信兼測程儀室に浸水、レーダー被害を受けた。
- (7) 29号(20.5 神集島 260° 3km)
両舷主機械の架橋台板が亀裂し、2号発電機台板と共に換装を要する状態となった。ビルガポンプ取付脚も亀裂脱落し、空気圧縮ポンプの架構、舵取機のジヨネー油圧シリンダ及び電動機は亀裂、工作機軸も原型を止めず、向水も換装を要した。
- (8) 波太(45.6.6観音崎灯台 325° 1000m)
4式射撃装置、測巨儀、防護装置、探照灯、旋回装置、艀中間軸受覆を破損、その他小被害があつた。
- (9) 夕賀(45.6.25深川湾)
艀中部20m附近に触雷し、レーダー、水測兵器は使用不能となり、前部糧食庫に浸水、発電機は2台共蓋及び台が破裂、補機は全部破損した。防水作業は3昼夜に及び軽傷30を出した。
- (10) 75号(45.7.8横須賀港内)
2番砲後部より船体は上に弯曲し、軸室内の後部は浸水大で相当な被害があり、戦死7、戦傷20を出した。
- (11) 伊喜(45.8.1小口水道)
後部爆雷庫及び後部防水隔壁に浸水し、1号発電機及び舵取機は使用不能となり、艀機は使用可能であったが、艀体兵器に相当な損害を受けた。

(178)

(12) 63号(45.8.10 大口瀬戸)

機械室直下に触雷。機械室船軸室附近より毎時18トンの浸水を起し、海81の曳航で能登島に擱坐した。

その他海156、羽籠 海200、波太、崎戸 海67、海24、伊王が触雷しているが詳細不明である。

5. 掃海艇

(1) 28号(43.10.2カビエン)

艇30m附近で磁気地雷爆発。FR95より艇の水線下舷の外板は凹入漏水を生じ、缶の煉瓦は亀裂が発生した。

(2) 4号(44.5.19カウ湾)

機械室と3缶室は船外板の鉄が脱落。浸水を止め、2缶室測程儀室へも拡大し航行不能となった。主機の遊転は可能であったが、缶の煉瓦が崩壊し、12番砲首撃兵器は破損。燃料庫にも漏水が生じた。

(3) 21号(45.4.10揚子江)

オ3水雷科倉庫、オ3バラストタンクに漏水し、オ4水雷科倉庫、后部糧食庫よりオ1真水タンク、后部バラストタンクも浸水。オ5番重油タンクは漏洩し、クランク軸受台は破損し、機械は使用不能、舵取機も故障し、掃海用配電盤も破損した。軽傷2名。

(4) 17号(45.8.13)

ビーム支柱外板は歪曲し、重油タンクは漏洩し、3号タービン発電機及びディーゼル発電機機械台は破損し、両舷主機はタービン及び中間軸受脚部に亀裂を見た。

その他11号、12号が各1回、29号が2回触雷しているが、詳細不明である。

6. その他の艦艇

1. 魚巡

(1) 高雄(45.7.3ノニガポール)

イギリスの特殊着航艇2隻によって、艦底へ設置された地雷

(179)

が3番砲塔船艦艇で炸裂し、FR113~116船キール線に沿うて中7m、長さ3mの内方へのまくれを生じ、小銃及び12番高角砲、並びに3番砲塔火薬庫、主砲飛令所に浸水した。

(1) 舊橋(44.5.16ハルマヘラ島)

注油ポンプが全部故障し、主機、発電機は全部使用不能となり、探照灯、測巨儀、測深儀、ジマイロ、探信儀、3号送風機、3号重油噴燃ポンプが破損した。

(2) 初鶴(44.8.3フランク水道西口)

艦艇外板に長さ10m、深さ約150cmの凹所を生じ、鋼管材之本が挫屈した。

オ、オ、オ、6番バラストタンク、重油タンク、爆雷后、后部軍用科倉庫に浸水した。

100KWタービン発電機は使用不能となり、ディーゼル発電機は軸受が焼損した。

(3) 23号駆逐艇(45.3.22ミドルグラント 3/706)

舵取機室外数ヶ所に浸水し、空気圧縮ポンプは機械台が亀裂、1号発電機、舵取機、主送信機、レーダー、探信儀台等が使用不能となった。

(4) 19号輸送艦(45.4.9大黒神附近)

主機はタービン脚部が亀裂、缶は炉内煉瓦が亀裂崩壊し、タービン発電機、ディーゼル発電機共機械台が破損した。

(5) 鹿島(45.5.13小倉沖)

錨鎖庫に浸水、木工場に火災を生じたが向もなく鎮火し、艇艙より水線上の外板1枚が約20m后方へめくれ、小倉沖へ坐測した。

以上の外8隻の触雷が判明しているが、詳細は不明である。

第 4 編

連 合 国 艦 艇 損 傷

(沈没喪失以外)の状況

連合軍艦艇損傷（沈没喪失以外）延数一覧表

艦種	攻撃種別	航空攻撃 (射撃外)	射撃	水上戦闘	潜水艦 雷	機雷	原因不明	合計
B	B	7	17	4	1			29
C	V	10	19		2			31
C	V L	1	4					5
C	V E	3	17	6	1			27
C	A	6	10	10	1			27
C	L	9	9	11	1			30
D	D	27	87	35	1	8	7	165
D	M S	1	14					15
D	M		8					8
D	E	1	19	1			15	36
A	V	2	4					6
C	M		1					1
M	S		10					10
L	S T	1	8	4				13
L	S M		1	4				5
L	C T	1						1
L	C I	1	1	3				5
L	C S	2	2	1				5
合	計	72	231	79	6	8	22	419
艦種不明		49	22	9				80
<small>以上80隻中には原因不明の22隻を含む よって総合計は477隻である</small>								
不明を含む合計		121	253	88	6	8	22	477

連合艦隊損傷(沈没撃沈以外)表 - 航空攻撃(特攻以外)の部

艦種	年月日	地味又は海戦名	艦隊名	命中兵器	記事
BB	41.12.8	真珠湾	メリーランド	B ²⁵ ×1 B ²⁵ ×1	記
"	"	"	デネシー	B×2	"
"	"	"	ペンシルバニア	B×1	"
"	42.10.26	南太平洋	サウスダコタ	B ²⁵ ×1	"
"	44.6.19	マリアナ沖	"	B×1	"
"	"	"	アイオワ	B至近	"
"	"	"	アラバマ	B至近×2	"
CV	42.5.8	珊瑚海	ヨークタウン	B ²⁵ B至近×2	記
"	42.8.24	2次ソロモン	エンタープライズ	B×3	"
"	42.10.26	南太平洋	"	B×3	"
"	44.6.19	マリアナ沖	バンカーヒル	B至近×3以上	"
"	"	"	2代目ワスプ	B至近×2以上	"
"	45.3.18	九州南東	エンタープライズ	B(不発)×1	オ/エレベーター命中艦橋の高 速(速上)ピクニック散佈
"	"	"	2代目ヨークタウン	B ²⁵ ×1	"
"	45.3.19	"	フランクリン	B ²⁵ ×2	記
"	"	"	2代目ワスプ	B×1	"
"	45.4.7	"	ハンコック	B×1	"
CYL	45.1.21	台湾沖	ラングレー	B	
CVE	45.6.17	マリアナ周辺	ファンヨーベイ	B×1	
"	"	"	ガゼリアベイ	B至近	
"	"	"	コラルレー	"	
CA	42.2.1	タロア沖	チエスター	B ¹ ×1	主甲板貫通死8傷11
"	42.2.4	ジャワ沖	ヒューストン	B ¹ ×1	記
"	44.6	サイパン上陸戦	インディアナポリス	B至近	"
"	44.6.19	マリアナ沖	ウィチタ	B至近×2	"
"	"	"	ミネアポリス	B至近	"
"	44.10	レイテ上陸戦	オーガスタス	B及B至近	"

艦種	年月日	地味又は海戦名	艦隊名	命中兵器	記事
CL	41.12.8	真珠湾	ヘレナ	T(A)×1	記
"	"	"	ホノルル	B至近×1	"
"	42.2.4	ジャワ沖	マークルヘッド	B×6	"
"	42.10.26	南太平洋	サンジュアン	B×1 B至近×5	命中 艦橋被害 10分間 船故障
"	43.11.2	スーゲルビル沖	モンパリアー	B×2	カタパルト大破 場ノ
"	44.6.3	ビアク沖	ナリュウイール	B至近	"
"	44.6	サイパン上陸戦	バーミンガム	"	"
"	44.10.19	台湾東方	ヒューストン	T(A)×1	記
"	44.10.20	レイテ	ホノルル	T(A)×1	"
DD	41.12.8	真珠湾	レゾー	B×3	"
"	41.12.10	マニラ	ピアリー	B至近	小火災 数ヶ所に発生
"	42.2.4	ジャワ沖	ベーカー	"	大破
"	"	"	フルマー	"	"
"	43.1.30	レンネル島沖	ラヴマレット	T(A)×1	記
"	43.2.1	バベル島沖	ニコラス	B	"
"	43.6.30	レイテ上陸戦	フランホルト	T(A)×1	"
"	43.10.20	フィンバーゼン沖	パーキンス	B至近	小火災 傷者
"	43.11.25	スーゲルビル沖	コンファース	T(A)×1 不発	"
"	44.6.3	ビアク沖	レイド	B至近	記
"	44.6.12	"	カーフ	B×1	"
"	44.10	レイテ上陸戦	フレモント	B及B至近	"
"	"	"	トーマス	"	"
"	"	"	アリタスラ	"	"
"	44.11.1	比島周辺	アメン	B	落伍
"	"	"	キレン	"	"
"	"	"	フラクストン	"	"
"	44.12.1	オルモック	アレクサダー	"	火災 破口多数 傷14
"	"	"	モール	B.S陸S	" 死4 傷22

艦種	年月日	地実又は海戦名	艦名	命中兵器	記 事
DD	43.12.26	スーデンビル沖	レヨ一	B ²⁵ 命中	
"	"	"	マブフォード	B 命中	
"	"	"	ラムソン	"	
"	44.6.5	ビアフ沖	ハステン	B	
"	"	"	ラッセル	"	
"	44.9	ペリリュー	バイレイ	"	死9 傷16
"	45.3.27	沖繩沖	ミユレー	T(A)	大破 死1 傷4
"	44.4.1	"	英ウルスター	B ²⁵ 命中	
AV	44.12.8	真珠湾	カーチス	VX1 BX2	記
"	42.2.19	ポートダーウィン	フレストン	BX3 B ²⁵ 命中x1	
DMS	45.4.16	沖繩沖	ホブソン	B	
DE	44.10.28	ペリリュー	デムプレー	掃射	
LCT	44.6.3	ビアフ沖	248	B 命中	傷2
LST	44.6.17	マリアナ沖	84	B	火炎
LCI	45.4.16	沖繩沖	407	B	水線上4'の破孔
LCS	"	"	51	B	
"	"	"	116	B	

連合軍艦艇損傷(沈没喪失以外)表 --- 特攻機 の部

艦種	年月日	地実又は海戦名	艦名	命中機数	記 事
BB	44.6.19	マリアナ沖	インディアナ	/	
"	44.10	レイテ上陸戦	カリフォルニア	?	
"	44.11.27	比島沖	コロラド	/	
"	44.11.29	"	メリーランド	/	艦首部に命中
"	45.1.6	リンカーン	ニューメキシコ	/	記
"	"	"	カリフォルニア	/	"
"	45.1.9	"	ミシシッピ	/	"
"	45.3.27	沖繩沖	ネバダ	/	
"	45.4.7	"	メリーランド	/	
"	45.4.12	"	ニューメキシコ	/	
"	"	"	テネシー	/	
"	"	"	アイタホ	命中x1	
"	45.4.14	"	ニューヨーク	/	
"	45.4.16	"	ミズリー	命中x1	
"	45.4.29	"	ネバダ	/	中部に命中 機首右舷に破孔 復原
"	45.5.12	"	ニューメキシコ	?	
"	45.6.5	"	ミシシッピ	?	
CV	42.2.1	マニラ沖	エンタープライズ	/	
"	44.10.29	比島沖	イントレピッド	?	
"	44.10.30	"	フランクリン	?	
"	44.11.5	"	2代目 レキシントン	/	記
"	44.11.25	"	イントレピッド	2	"
"	"	"	ハンコック	/	
"	"	"	エセックス	/	
"	45.1.21	台湾南西	タイコンデロガ	2	記
"	45.2.21	硫黄島沖	サラトガ	5外にB ²⁵ x1	"
"	45.3.11	ウルシー	ランドルフ	/	"

艦種	年月日	地味又は海戦名	艦艇名	命中枚数	記事
C V	45.3.18	沖繩周辺	イントレピッド	至近xノ	機体の一部突入死!
"	45.4.1	"	英インディアナ	ノ	記
"	45.4.11	"	エンヌアリス	至近	
"	45.4.16	"	イントレピッド	?	
"	45.5.4	"	英イントミナル	ノ	記
"	"	"	英フォミナル	2	"
"	45.5.9	"	英グイリアス	ノ	
"	45.5.11	"	パンカーヒル	2	記
"	45.5.13	"	エンタープライズ	ノ	"
CVL	44.10.29	比島周辺	サンジャレント	ノ	
"	44.10.30	"	ペローウッド	?	
"	44.11.25	"	カボット	ノ	記
"	45.4.6	沖繩沖	サンジャレント	?	
CVE	44.10.25	比島沖	カリニンバイ	2	
"	"	"	キトクンバイ	?	
"	"	"	スフニー	ノ	記
"	"	"	サンテイ	ノ	
"	"	"	サンガモン	ノ	
"	"	"	ホワイトアイン	ノ	
"	"	レイテ湾	パトロフバイ	至近	小破
"	44.12.15	ミンドロ	マカスアイランド	?	
"	45.1.5	ミリガエン	ウヅアイランド	ノ	マストの高所に命中
"	"	"	マニラバイ	2	記
"	45.1.7	"	ガダレヤンバイ	ノ	"
"	45.1.8	"	キトクンバイ	ノ	落伍被曳航
"	45.1.13	"	サラモア	ノ	甲板に命中
"	45.2.27	硫黄島沖	ルンガポイント	?	
"	45.4.3	沖繩周辺	ウヅアイランド	?	

艦種	年月日	地味又は海戦名	艦艇名	命中枚数	記事
CVE	45.5.4	沖繩周辺	サンガモン	桜花ノ	
"	45.6.6	"	ナイマバイ	?	
CA	19.10.13	台湾東方	キヤンバラ	ノ	記
"	19.10.20	レイテ沖	豪ホストリヤ	ノ	上部構造物に命中小破
"	"	"	ルイスウヰル	?	
"	19.11.27	比島周辺	セントルイス	2	
"	20.1.5	リンガエン	豪ホストリヤ	5	記
"	"	"	ルイスウヰル	2	"
"	20.1.6	"	ホートランド	ノ	艦吹飛ぶ
"	"	"	ミネアポリス	?	
"	20.3.30	沖繩沖	インディアナ	?	
"	20.6.5	"	ルイスウヰル	?	
CL	19.10.28	レイテ湾	テンツァー	?	
"	19.11	比島周辺	レノ	ノ	艇に命中小破
"	19.11.27	"	モンパリアー	ノ他にB	
"	19.12.13	ミンドロ	ナユウヰル	ノ	記
"	"	"	ハラデン	?	
"	20.1.9	リンガエン	コロンビヤ	2他にB	記
"	20.3.27	沖繩沖	ビロキレー	至近	
"	20.5.3	"	バーレンカム	桜花ノ	3甲板貫通
"	"	"	ロウリー	?	
DD	17.10.26	南太平洋	スミス	ノ	記
"	19.10	レイテ上陸戦	ロバートホー	?	
"	19.11.1	比島周辺	アンタニソン	ノ	記
"	19.11.29	"	ソーフレ	ノ他にB並コ	"
"	"	"	オーリック	2	"
"	19.12.5	"	マフフォード	ノ	"
"	"	"	ドレイトン	?	

艦種	年月日	地対海戦名	艦名	命中枚数	記	事
DD	45.12.7	北葦原近	ラムソン	/	記	
"	45.12.10	"	ヒューズ	/	"	
"	45.12.10	"	カールD.スミス	/	"	
"	45.12.12	"	コールドウエル	/	"	
"	45.12.15	シンドロ	ポールハバトン	?		
"	"	"	ホフース	?		
"	45.12.30	"	ガンズグート	/	記	
"	"	"	フォリンス	/		
"	45.1.15	リンカエン	英アランタ	至近 /		
"	"	"	ヘルム	/	対空機銃灯塔中火収束	
"	45.1.6	"	ウォーキ	/	記	
"	"	"	ローリー	至近 /		
"	"	"	アルMサマー	/	記	
"	"	"	リチャードプリル	/	"	
"	"	"	オブライエン	?		
"	"	"	ニューコム	至近	死2 傷15	
"	45.1.9	"	ロイツ	"		
"	"	"	ダッセル	"		
"	45.1.21	台湾南端	マドックス	/	記	
"	45.3.20	沖縄沖	ハルセ-ホウエル	/	"	
"	45.3.25	"	キムバリー	/	"	
"	45.3.27	"	ドーセイ	/		
"	"	"	ポーターフィールド	?		
"	"	"	オブライエン	?		
"	"	"	カマハン	?		
"	45.4.3	"	フリケット	?	大破	
"	45.4.6	"	ハイマン	/	記	
"	"	"	ミユラー	/	"	

艦種	年月日	地対海戦名	艦名	命中枚数	記	事
DD	45.4.6	沖縄沖	ニューコム	3	記	
"	"	"	ロイツ	/	"	
"	45.4.6	"	モリス	/	"	
"	"	"	ホフース	/	"	
"	"	"	ハインズワース	/	"	
"	"	"	ハリソン	至近	小破	
"	"	"	ハンチンズ	?		
"	45.4.7	"	ベンネット	/	記	
"	"	"	ロングジョー	?		
"	45.4.8	"	グレゴリー	/	記	
"	45.4.11	"	キッド	/	"	
"	45.4.12	"	ジェファース	?		
"	"	"	ゼラース	?		
"	"	"	スタンレー	桜花x1	記	
"	"	"	カレンヤング	?		
"	"	"	パーティ	?		
"	"	"	ハリソン	?		
"	45.4.14	"	ゴッスビー	?	大破 死3 傷25	
"	"	"	ダレール	?		
"	"	"	ハント	?		
"	45.4.16	"	ラファイ	9	記	
"	"	"	フリアント	/	"	
"	"	"	ハーディング	/	"	
"	45.4.17	"	ベンナム	?		
"	45.4.21	"	アメン	至近	破孔 傷8	
"	45.4.22	"	ハドソン	至近		
"	"	"	フズワース	?		
"	45.4.27	"	ヒジャーウッド	/		破孔 死42 傷47 大破

艦種	年月日	地 域	艦 艇 名	命中 枚 数	記 事
DD	45.4.	沖 縄 沖	ポネフォルド	至近	
"	7	"	WC ウオン	"	
"	45.4.27	"	ラルマルボット	?	大破 死5 傷9.
"	45.4.	"	ウイルソン	/	艦に命中
"	45.4.28	"	ベニオン	?	
"	"	"	フズウース	?	
"	"	"	ダリ	?	死3 傷33 小破
"	"	"	トウイグス	?	
"	45.4.29	"	ハズルネボ	2	記
"	"	"	ハカード	?	死カ 傷40 大破
"	45.5.3	"	バツレユ	?	
"	45.5.4	"	イングラハム	/	艦艇に命中(甲板に破損) 降 14 乗下
"	"	"	ガウエル	?	
"	45.5.11	"	ハドレー	2 及 桜花	記
"	"	"	エヴァンス	4	"
"	45.5.13	"	バツレユ	?	大破 死41 傷32
"	45.5.17	"	ダグラスフォックス	?	" 9 35
"	45.5.20	"	サウナヤー	?	
"	45.5.24	"	カスト	?	
"	45.5.25	"	ストームス	?	大破 死21 傷16
"	45.5.27	"	アントニー	至近	小破
"	"	"	スレイン	2	大破 死50 傷78
"	45.5.29	"	レヤリック	/	落伍大破 死32 傷78
"	45.6.7	"	アントニー	?	
DMS	45.1.6	リンガエン	ロンク	/ 至近x2	記
"	"	"	ホフキンス	/	大破
"	"	"	サウガード	/	
"	45.3.27	沖 縄 沖	ドーレー	?	

艦種	年月日	地 域	艦 艇 名	命中 枚 数	記 事
DMS	45.3.28	沖 縄 沖	サウガード	?	
"	45.4.3	"	ハンズルトン	?	
"	45.4.6	"	ロドマン	/	
"	45.4.12	"	リントセイ	/	記
"	45.4.12	"	ゼラーズ	/	
"	45.4.28	"	バートラー	?	
"	45.5.3	"	マコム	?	
"	45.5.4	"	ホフキンス	?	
"	45.5.24	"	バトラー	?	
"	45.5.27	"	サウガード	?	
DM	45.3.25	"	ロートハスミス	?	
"	45.3.31	"	アダムス	/	
"	45.4.22	"	シエア	?	
"	45.5.3	"	"	?	
"	"	"	アロンウオード	6	
"	45.5.4	"	クワイン	?	
"	45.6.6	"	ハーフバウアー	?	
"	"	"	エネリアムデター	?	
DE	45.1.5	リンガエン	スタフォード	/	粉砕 死1 傷12 大破 死2 傷12
"	45.1.9	"	ホッレス	/	粉砕
"	45.1.10	"	リレトウエルソン	/	上部半壊 死6 傷7
"	45.1.12	"	ギリガン	/	上部半壊 命中対空砲撃に 記録 死12 傷13
"	"	"	リチャードソン	至近 /	
"	45.3.27	沖 縄 沖	フォアマン	?	小破 傷1.
"	45.4.6	"	マーバリン	/	記
"	45.4.7	"	ウエセン	?	大破 死8 傷25
"	45.4.12	"	ホワイトハースト	/ 及 B小	記
"	"	"	マンラウ	至近	

艦種	年月日	地 点	艦 名	命中被教	記 事
DE	45.4.12	沖繩沖	リントル	?	中破 死1 傷9
"	"	"	ロール	?	大破 死21 傷38
"	45.4.16	"	ボワーズ	?	
"	45.4.27	"	イングラント	?	
"	45.5.9	"	"	1	記
"	45.5.13	"	フライト	?	
"	45.5.20	"	ジョンバト	2	中破 傷3
"	45.5.24	"	エネイル	?	
"	"	"	カリアコエル	?	
"	45.6.21	"	ハローラン	?	
AV	45.1.5	リンガエン	オルカ	至近	
"	45.6.21	沖繩沖	カーナス	?	
"	"	"	ケネス	?	
"	"	"	ホフラインカ	?	
LST	44.11.5	比島周辺	66	1	
"	44.12.7	"	737	1及B	
"	45.1.7	リンガエン	912	1	
"	45.2.21	硫黄島	477	?	
"	"	"	809	?	
"	45.3.31	沖繩沖	884	1	
"	"	"	724	?	
"	45.4.12	"	599	?	
LSM	45.4.12	"	189	1及B	
LCI	45.1.5	リンガエン	(4) 70	1	
LCS	45.4.12	沖繩沖	57	3	破孔無数 自力でケラマへ
"	45.5.4	"	31	至近x3	
CM	45.3.27	"	スカミツヒ	?	
MS	45.1.5	リンガエン	スクリメーゴ	至近	

艦種	年月日	地 点	艦 名	命中被教	記 事
MS	45.4.6	沖繩沖	デウスター	?	
"	"	"	ファレタイ	?	
"	"	"	ランサム	?	
"	"	"	デフェンス	?	
"	45.4.12	"	グラディエター	至近	
"	45.4.22	"	ランサム	?	
"	"	"	グラディエター	?	
"	45.5.4	"	ダイエテイ	桜花x1	
"	45.5.24	〆〆	スペクタクル	?	

連合艦隊戦績表 (沈没被害以外) 表 ---- 水上戦闘の部

艦種	年月日	地帯又は海戦名	艦名	命中兵器	記 事
B B	42.11.14	ネオソロモン	サウス タコタ	S(14"8")x多	記
"	44.5.15	テニアン沖	テネシー	陸Sx1 高射	5"砲塔に命中 死8 傷26
"	"	"	カリフォルニア	陸Sx1	死1 傷2
"	44.5.24	"	コロラド	陸S	
C B	42.2.13	サマル沖	ファンヨーバイ	Sx多	
"	"	"	カリニバイ	Sx15	記
"	"	"	スワニー	S	
"	"	"	サンテイ	"	
"	"	"	ホワイトアイン	"	
"	"	"	キトクンバイ	"	
C A	42.8.8	ネオソロモン	レカゴ	S T x 2	記
"	42.10.11	サボ島沖	ソルトレークティ	S8"x3 S4"x数発	
"	"	"	サンフランスコ	S	
"	42.11.12	ネオソロモン	ポートランド	Tx1 S	記
"	42.11.13	"	サンフランスコ	S14"x15 Sx多	"
"	42.11.30	ルンカ沖	シエポリス	Tx2	"
"	"	"	ニューオルバンス	Tx1	"
"	"	"	ペンサコラ	Tx1	"
"	43.3.27	アッツ沖	ソルトレークティ	S	"
"	45.2.17	硫黄島	ペンサコラ	陸Sx6	"
C L	42.2.20	バリ島沖	和トロンフ	S6"8"x11	
"	"	"	和ジャワ	Sx1	艦命中小破
"	42.10.11	サボ島沖	ボイス	S8"x7	記
"	42.11.14	ネオソロモン	ハレナ	Tx1	
"	"	"	セントルイス	"	
"	43.7.12	コロバンガラ	"	Tx1	
"	"	"	ホノルル	Tx2	

艦種	年月日	地帯又は海戦名	艦名	命中兵器	記 事
C L	43.7.12	コロバンガラ	新リッター	Tx1	
"	43.11.2	スーゲビル沖	デングァー	S8"x3	
"	"	"	コロンビア	S8"x1	艦附近命中
"	45.2.25	硫黄島沖	バマデナ	S2"x13	傷12
D D	42.1.29	エンタウ沖	英オランダ	S	上部及艦橋命中浸水
"	42.2.20	バリ島沖	スチュアート	Sx2	"
"	42.8.8	ネオソロモン	ペタソン	S	小破
"	"	"	ラルフォルボット	S8"x数発	記
"	42.10.11	サボ島沖	フレンホルト	S6"x3	"
"	42.11.13	ネオソロモン	スタレット	S5"x16	"
"	"	"	アロンホード	S14"x3 S8"x2 S4"x5	"
"	"	"	オバンノン	?	機庫電カに被害
"	42.11.14	"	クウイン	?	
"	43.3.27	アッツ沖	バイレイ	S	記
"	"	"	コ克蘭	"	
"	43.6.30	レンドバ	クウイン	陸47x2高射	記
"	43.7.5	フラ島	シエバリヤ	陸S	沈没 死傷239
"	43.10.5	ベララバ島沖	セルフルッ	Tx2	記
"	43.11.2	スーゲビル沖	フート	Tx1	艦に命中 航行不能
"	"	"	スペインス	S	水線附近命中 艦中タンク 浸水 速力低下
"	"	"	コングアス	S	
"	44.3.4	アドミラルティ	ニエルソン	陸Sx1	2番砲塔用不能 死傷2
"	44.6.15	テニアン	フレイン	"	死3 傷15
"	44.6.18	サイパン	フェルアス	陸中陸Sx2	記
"	44.6.24	テニアン	ノーマンズボット	陸S6"x6	死艦長以下19 傷63
"	44.10.25	スリガオ海峡	AW グラント	Sx数発	記
"	"	サマル沖	ヒヤマン	S	艦に命中 艦中下砲塔破壊 死5 傷7
"	45.1.9	リンガエン	ロビンソン	T(B)	

艦種	年月日	対戦相手艦名	艦艇名	命中兵器	記 事
DD	45.1.5	硫黄島	ファンニング	陸5x1	
"	45.1.9	リンガエン	ブリッポ	T(B)	
"	45.2.16	コレドール	ホークウエル	陸5x4	煙突間に命中 中破 死7 傷8
"	"	"	フレッチャー	陸5	
"	45.2.25	硫黄島	ポーターフィールド	S	
"	45.3.1	"	コルホーン	陸5x1	記
"	"	"	テリ	"	"
"	45.4.9	沖繩沖	チャリスバタ	震洋	"
"	45.4.17	硫黄島沖	ロイツ	陸53x4x1	"
"	45.5.27	沖繩沖	ハッチンス	震洋	大破 自力でケラマへ
DE	44.10.25	サマール沖	デニス	S	大破 死6 傷19
LST	45.1.9	リンガエン	925	T(B)	大破
"	45.3.10	サンボアガ	626	陸5	
"	"	"	591	"	
"	45.4.12	沖繩沖	557	"	
LSM	45.2.19	硫黄島	74	"	
"	"	"	145	"	
"	"	"	211	"	
"	"	"	323	"	
LCS	45.2.15	コレドール	27	震洋	大破
LCI	45.2.16	"	R 338	陸53'x4	
"	45.3.10	サンボアガ	710	陸5	
"	"	"	779	"	

連合軍艦艇損傷(沈没喪失以外)表 -- 潜水艦雷撃の部

艦種	年月日	地 点	艦艇名	命中雷数	記 事
BB	42.9.15	ソロモン	ノースカライナ	/	沈
CV	42.1.12	ハワイ南西	サラトガ	/	"
"	42.9.31	ソロモン	"	/	"
CVE	44.10.25	レイテ沖	サンディ	/	"
CA	42.10	南太平洋	チエスター	?	"
CL	44.11.3	比島周辺	レ	/	沈
DD	45.2.21	スピック湾	レンジョー	/	"

連合艦隊艦艇損傷（沈没喪失以外）表 --- 被害の部

艦種	年月日	地 域	艦 艇 名	艦 艇 数	記 事
DD	42.5.18	キスカ港口	アフターリード	1	記
〃	44.2.15	コスノル水道	ワドレイ	1	〃
〃	44.10.19	レイテ湾	ロス	2	〃
〃	45.1.5	父 島	タウトW ライラー	1	前部区劃浸水 死5 サイパンまで帰国
〃	45.2.16	コレヒドール	ラウアレット	1	1本主大破浸水 船沈下 被支隊 死6 傷23
〃	〃	〃	ラトフォード	1	死3 傷4
〃	45.5.1	タラカン	ジェンキンス	1	記
〃	45.6.27	フルネー湾口	コールドウエル	1	船 推進器破壊

連合艦隊艦艇損傷（沈没喪失以外）表 --- 原因不明の部

艦種	年月日	地 域	艦 艇 名	記 事
DD	45.4.2	沖 繩 沖	フランス	大破 艦長負傷
〃	45.4.11	〃	ハンフ	小破 負傷2
〃	45.4.12	〃	ベニオン	〃 死1 傷6
〃	45.4.16	〃	マクダームフ	大破 死1 傷33
〃	45.5.4	〃	ハドソン	〃
〃	45.7.29	〃	ズリケット	小破 死2 傷1
DE	45.4.3	〃	フォアマン	大破

他に艦名不明のDDX/ DEX/4 が沖繩戦で損傷し、その他艦種も不明のもの58隻がある。その中には特務艦艇も含まれているが区分する資料が未だ見当らなかつた。

第 4 編 記 事

目 次

オ1章 航空攻重によるもの…………… 205頁

- 1. 戦艦. メリーランド、テネシー、ペンシルヴァニア、サウスダコタ、サウスダコタ
- 2. 航空母艦. ヨークタウン、エンタープライズ、エンタープライズ、2代目ワスプ、バンカーヒル、エンタープライズ、2代目ヨークタウン、フランクリン、2代目ワスプ、ハンエイク
- 3. 護衛空母. ファンシヨバイ
- 4. 重 巡. ヒューストン
- 5. 軽 巡. ヘレナ、ホルル、マールヘッド、ホルル、2代目ヒューストン
- 6. 駆 逐 艦. ショー、レイド、カーク、ラヴァレット

オ2章 特攻機によるもの…………… 211頁

- 1. 戦 艦. ニューメキシコ、カリフォルニア、ミシシッピ
- 2. 航空母艦. 2代目キントン、イントレピッド、タイコンデロガ、サラトガ、ランドルフ、バンカーヒル、エンタープライズ、愛イネアティカガレ、愛フォーミダブル
- 3. 小型空母. ガボット
- 4. 護衛空母. スロー、ガダシマンバ、マニラバ
- 5. 重 巡. マンベラ、豪ホストリア、ルイスウィル
- 6. 軽 巡. ナエウグレル、ゴロンビヤ
- 7. 駆 逐 艦. スミス、アンダーソン、オーリック、ソーラー、マクアード、ラムソン、ヒューズ、カール、Dバクスター、ガンスバート、エルドウェル、ウォーキアレン、M、サムナー、リチャード・P・リー、マドックス、ハルセーポウエル、キムベリー、ハイマン、シエラニー、ニエーコム、ロイツ、モリス、ホフス、ハインズ、ベンネット、スリゴリー、キッド、スタンレー、2代目ラファイリアント、ハーディング、ハズルウッド、ハドレー、エウランス
- 8. 護衛駆逐艦. フーバリンク、ホワイトハースト、インランド
- 9. 高速掃海艇. リントセイ
- 10. その他の艦艇

オ3章 水上戦によるもの 223頁

- 1. 戦艦. サウスダコタ
- 2. 護衛空母. カリニンベイ
- 3. 重巡. シカゴ, ポートランド, サンフランシスコ, ミネアポリス, ニューオーレカス, ペンサコーラ, ソートレクシティ, パンサゴラ
- 4. 軽巡. ボイス, ホルム
- 5. 駆逐艦. ラルフタルボット, フレンホルト, スタット, アロンワード, グラウイン, セルフラッヅ, バイルス, ゼルズス, A.W. グラント, ポーターフィールド, コルホーン, テイラー, チャールズJバトラー, ロイツ
- 6. その他の艦艇

オ4章 潜水艦によるもの 229頁

- 1. 戦艦. ノースカロライナ
- 2. 航空母艦. サラトガ, サラトガ
- 3. 護衛空母. サンティ
- 4. 軽巡. レノ
- 5. 駆逐艦. レンジャー

オ5章 機雷によるもの 231頁

- 1. 駆逐艦. アプサーリード, ワドレイ, ロス, シェンキンス
- 2. その他の艦艇

連合艦隊戦況(沈没喪失を除く)の状況

オ1章 航空攻撃によるもの(特攻を除く)

1. 戦艦

(1) メリーランド(41.12.8. 真珠湾)

前甲板上の天幕索上で爆弾が炸裂し、更に800kgの徹甲爆弾ノ発は前甲板を吃水線下迄貫徹して船体内で炸裂し、前部吃水を数呎増加せしめた。戦死4、戦傷ノ4を出したが、ノ2月20日迄に緊急修理を終り、ノ7年2月最初に戦列に復帰した。

(2) テネシー(41.12.8. 真珠湾)

爆弾ノ発が2番砲塔中部砲の上で暴発し、破片によってウエストマージニアの艦長は戦死した。

別のノ発は3番砲塔の5の装甲を貫徹したが、直ぐに燃焼爆発をじじ。

本艦の損害の大部分はアリメナの落下物と重油により引火した火災により、消火作業は9日夜迄続けられ、全員コーヒとサンドウィッチのみで頑張った。戦死5、戦傷2ノを出したのみで動力に被害はなく、重油運搬によってアリメナの燃てる重油を缶部へ排除し続けた。

ノ2月20日運航を開始し、ピエーゼットサウンドで根本的な修理と改装に従事した。

(3) ペンシルヴァニア(41.12.8. 真珠湾)

0906前部に爆弾が命中して短艇甲板を貫通し、5の砲塔で炸裂し、戦死ノ8、戦傷30を出した。

(4) サウスダコタ(42.10.26. 南太平洋海戦)

ノ230艦橋に急降下の爆弾ノ発が前部砲塔に命中炸裂し、2番砲塔の砲に若干の損害があり、艦長は重傷、20兆、40兆の機銃員が多数殺傷されじ。

(5) サウスダコタ(44.6.19. マリアナ沖)

ノ49爆弾ノ発の命中により戦死28 戦傷23を生じじ。

2. 航空母艦

(1) ヨークタウン(42. 5. 31 珊瑚海海戦)

ノノス4急降下による爆撃ノ発が艦橋前方ノ5'の発着甲板に命中、格納庫を炸裂し、66名の死傷を生じた。未だ半袖半ズボンを許して11に1め、大部分は火傷であつた。更に至近弾ノ発によつて漏水を生じ、艦内各機構は混乱した。

5月24日、真珠湾へ帰航。2昼夜の徹夜工事を行い、27日出発、30日ミッドウエーへ出直した。

(2) エンタープライズ(42. 8. 24 オスロンロモン海戦)

爆撃ノ発の命中により発着甲板は大破し、火災を生じ死者クハ傷者ヲノを記録した。火災はノ時間下火となり、ス4ノ尤で航行可能となつた。

(3) エンタープライズ(42. 10. 26 南太平洋海戦)

オノ発は発着甲板中央昇降機ノ前方に命中、大被害を与えると共に、火災が発生したが、直ちに下火となつた。

オス発は前部発着甲板に命中貫通し、水中で爆発した。

オノ発は舷側外板に裂目を生ぜしめた。更に至近弾により被害があつた。

(4) ス代目ワス石(44. 6. 19 マリアナ沖)

直直はなかつたが頭上で爆発した爆撃により戦死ノ、戦傷ノスを出し、発着甲板は壊れた。

(5) バンカーヒル(44. 6. 19 マリアナ沖)

至近弾により昇降機に破孔を生じ、格納庫内のガソリン系統も破壊されて、数ヶ所の火災が発生したが直ちに消火された。

オ4次攻撃でも至近弾により小被害があつた。

(6) エンタープライズ(45. 3. 18 九州南東)

不発爆撃ノ発がオノ昇降機に命中し、艦橋の高さ迄跳上り、ピクリン酸を散布した。

(7) ス代目ヨークタウン(45. 3. 18 九州南東)

アイランド艦橋にス50kg爆撃ノ発が命中し、格納庫甲板で

爆発し舷側を引ちれた。

(8) フランクリン(45. 3. 19 九州南東)

攻撃機着陸準備中の発着甲板后部にス50kg爆撃ノ発が命中し、同甲板下で炸裂、大黒煙を上げた。そこにはガソリン爆撃を満載した飛行機があつた。

更にノ発が中部格納庫に命中炸裂し、同庫燃料補給爆撃中の飛行機に引火した。

数秒中に大爆発が起り、周囲の艦艇の外板迄に大反響を与えた。次で発着甲板上の飛行機45機、66発の500ポンド爆撃、40発以上のス50ポンド爆撃、11,000ガロンのガソリン、格納庫内ノス機の飛行機、30,000ガロンのガソリン、多数のロケット弾が次々に誘爆、格納庫内はガソリン管を破壊されて大火災となり、艦は全く黒煙で覆はれ、暴風によつて人員や飛行機は吹飛ばされた。

機庫室では燃え尽きた炭坑の底で聞く地震のようであつたと云うが在室不能と成つて放棄され、全動力は停止し、僅かに残つたゲゼルポン石ノ台で放水が続けられた。間もなく固有赤十字員は益々火中に墜れたが、パイロットや機庫員、電信員、烹炊員達が連んでホースを握つた。チマン石レン屋が熱い爆撃や落ちる砲弾の投棄に参加し、益々増加する死者の中に奮闘した。

0930巡洋艦サンタフェが横付けし傷者を救ふ始めた。突然前部5'砲が火を引き、煙が上つて火薬庫燃焼の恐れを生じたので、サンタフェは急いで横付けを離れた。

しかし間もなく危険は去り再び横付けした外、駆逐艦ハント、マーシャル、ヒゴックス、ミラーが救助に集り、消火に協力すると共に、700名以上の傷者を収容した。駆逐艦中には高角砲に妨害をよつたものもあつた。

午白火災が下火となり、巡洋艦ピックバークが曳船を命ぜられたが、消火用水の滞留によつて船にノ5度傾斜をした。本艦は舵が取舵一杯で停止したため、当初曳航変更は3ノ尤に過ぎなかつた。

フにが、次で6ヶ月で復航された。

その日朝ノ離航行が可能となり、4ヶ月で航進を開始、1時間後には7ヶ月、1/100の速に舵故障を復旧しス幾運航が可能となったので、正午乗客は放られた。

以後自力でパナマ至前ニューヨーク迄の島の様な甲板を渡した艦艇は。戦死者は87名に達した。

(9) ス代目ワスル (45.3.19 九州南東)

爆撃ノ発が命中し、3甲板を貫通し爆発したが、30分以内に飛行作業は可能となった。

(10) ハンゴック (45.4.7 九州南東)

ノズノ5爆撃ノ発が発着甲板後部に命中し、大黒煙に覆われて大破し、後部の飛行機は暴風によつてトンボ返りを打つにが、16.30には着艦可能となった。

3. 護衛航空母艦

(1) ファンションベイ (サイパン上陸戦)

爆撃ノ発が後部昇降機を貫通し、格納庫で炸裂、火災を起して戦死ノノを出したが、直ちに Control され、エニワトクへ帰航した。

その他艦の詳細は不明である。

4. 重巡洋艦

(1) ヒューストン (42.2.4 ジマバ沖海戦)

午前大型爆撃ノ発が主甲板で炸裂し、3番砲塔を大破、砲片は砲塔を数百ヶ所で貫通し、装薬に引火、砲員、電動機室員、乗組員は2名を除き全部焼死、後部応急班員も2名を除き全滅した。

戦死者合計は50名であった。

その他5隻があるが詳細は不明である。

5. 軽重巡艦

(1) ハレナ (41.12.8 真珠湾)

船に魚雷が命中し、10,000トンの巨体もゴムマリの如く飛び上った。丁亥攻撃のオノ期で、未だ配置につきつゝあつた乗員

が通路に老死して居たので、甚大な被害となつた。

缶室ノ、機銃室ノに浸水し、主砲及び5砲の動力線は切断し、動力は停止したが、迅速に前部のディーゼル発電機を起動し、2分位全艦台に送電された。

前部ボイラ室の補助缶では後部の重油タンクが破壊され、缶室は暗室となった中で、当直員は苦しき濃煙重油が缶内に入れば恐しい火災に爆発が起ることを知つて居たので、爆発音、浸水、短絡による過熱器アラームのホーンが鳴り響く中に、直に消火処置を行い、彼等が退室した時は水は胸迄来ていた。

防水処置は迅速に行われたので沈没を免れ、応急修理后メーアアイランドで本修理を行い、瓜島戦にはオノ蒙に復帰した。戦死3ノ、戦傷70以上を出した。

(2) ホノルル (42.12.8 真珠湾)

250kg 至近弾の爆風で舷側に僅かな挫傷と破口を生じ多くの区劃に浸水し、電気装置を駄目にし砲台と指揮所間の電路も不通となった。

(3) マースルヘッド (42.2.24 ジマバ沖海戦)

0949空襲と共に4,000ガロン以上の航空揮発油を投棄、25ヶ月即時全カ30分間待機として残る6缶に点火した。

0959及び1019の空襲では命中弾はなかつた。1027通り爆撃6発が命中した。

オノ期は船内火艇を粉碎し、甲板を貫徹艦内で炸裂した。病室は吹飛ばし、士官室、将官公室は破壊され、甲板には至6の破孔が明き、火災が各処で発生した。

至近弾により船の外板が多数飛破浸水し、尚もなく船は沈下した。

オノ期は艦の肩形部に直角に命中し、主甲板を貫徹し舵取機室内で炸裂し主甲板の大部分を後部砲塔上に折重ねた。舵は取舵一杯で停止し、艦は艦に10度傾斜しつゝ旋回した。破損し且砲台から出るガスを舷外に放散し、人命救助が行われし。

后部居住区は全部大破大浸水を起すと共に、艦の後半部は火焔に包まれたが、消防主管が破裂し手押ポンプのみに頼って消火に努めた。戦死はノ5、戦傷はノ4で大部分は露出部の火傷であった。

米海軍は以て海上での半袖半ズボン禁止とした。被害は甚大で燃料切断の危険もあり、日本側では終戦迄重油と信じられていたが、ノ5連戦で他軸を時々動かして蛇行しつつ針路を修正し、チラチマツルに辿り着き、浮ドックで船だけ上げて破口に鉄板を当て、数日後潜水母艦オタスに護衛されセイロンへ向け出港、更に応急修理の后面航行、5月4日スルツグリン工廠へ到着した。

(4) ス代目ヒューストン(44.10.19 台湾東方)

船に空中魚雷が命中し、傾斜はノ6度となり主甲板は海水に洗われて、エスケープ用トランクから下部甲板へ海水が浸水し、キールも破壊され、一時遠征隊が命せられたが、ボストンの勇航により危地を脱した。

(5) ホノルル(44.10.20 レイテ)

艦中部へ航空魚雷が命中し、市ス5'高さスタの大破口を生じ傾斜ノ4度船は低下した。応急班が活躍し浸水局限に成功し、駆逐艦及び曳船2隻が横付して排水及び救急を援助した。

その他英5隻については特記事項はない。

6. 駆逐艦

(1) シヨー(44.12.8 真珠湾)

浮ドックに入庫中、3発の爆弾が命中、ノ5は艦橋を粉碎して士官食堂室で爆発し、2発は上部の敷甲板を貫通し蒸気所で爆発した。

以上の爆発により重油タンクが破裂し、艦の前部へ燃えた油を散散した。次で前部弾薬庫が誘発しノ5番煙突から前部は粉碎されて吹飛ば破孔からの油で曳航ノトヨモが火災を生じ大損害を生じた。

ノ7年2月本土西岸に回航し、ガ島作戦でオノ線に復帰した。

(2) ラヴァレット(43.1.20 レンネル島沖海戦)

前機へ航空魚雷ノ本が命中し、前部缶室と后部缶室へも浸水し応急班及びスノ名が死んだが、他の応急班員は浸水を避けてポンプを発動した。前部缶室の缶水係は蒸気の噴出で重傷を負いつつも重油の缶を閉鎖した。スノ分隊、后機を行進を遅したが、缶水がなくなり曳航された。

(3) レイド(44.6.10 ビアク沖)

至近弾を受けて上部構造物に破孔を生じ、レーダー2基がノ時使用不能となり、戦死ノ、戦傷6を出した。

(4) カーク(44.6.12 ビアク沖)

ノ1036急降下による爆弾ノ発射ノ番煙突右方の発射管の基礎に命中気圧が爆発し、煙突筒の構造物を吹飛ばし、前部ボイラ及び機軸室並びに上甲板は大破し火災が発生したが直に消火され、ホーランディアへ曳航された。

オ2章 持収機によるもの

ノ、戦艦

(1) ニューメキシコ(45.1.6 リンガエン)

羅針盤橋にノ機命中、附近を大破し、通信装置は全部破壊され将官級数名艦長以下ス6名が戦死、87名が重傷し戦列を離れた。

(2) カルフオルニヤ(45.1.6 リンガエン)

后部缶にノ機命中し半至ノ100以内の人員は殆ど死傷し、防空指揮所は全部がソリンの煙に包まれ、「打ち方止め」のスゲーが腐り続け、艦内を混乱させた。

(3) ミツシツピー(45.1.9 リンガエン)

短艇甲板の高角砲の筒にノ機命中し、火焔が上つたが直ちにコントロールされた。

戦死ス6、戦傷63

その他オバガス田、ウエストオアーツニア、カルフオルニヤ

ニユーメキシコ、テネシー、ミシシッピがノ国、ミズリー、アイダホが至近落下の被害を受けているが、特記事項はない。

ス、航空母艦

(1) ス代目レキシントン(44.11.5 比島沖)

艦橋部にノ機命中、目のくらむような閃光と黒煙炎が上がった。戦死4名、行方不明5、戦傷ノヲノを出した。

(2) イントレピッド(44.11.25 比島沖)

発着甲板中心線より左にノ機命中、搭載爆弾が炸裂して発着甲板を粉碎し、火災は格納庫から発着甲板に広がった。しかし応急班と石綿防火衣を着た防火隊員が消火にかゝった。次で又ノ機が艦に命中し、破片は全艦に散ばり、搭載爆弾が甲板下で炸裂して戦死6名を出した。

(3) タイコンソロホ(45.1.21 台湾南西)

ノ機が発着甲板前端に命中し、下部格納庫に大火災を生じた。次で更にノ機が上部着陸物に命中し、艦長副長は重傷を負い、電信機及びレーダーは粉碎され、発着甲板は使用不能となった。戦死ノ4名、戦傷ノ4名

(4) サラトガ(45.2.21 硫黄島沖)

最初のノ機は発着甲板の前部に命中し、次のノ機を翌同処に命中すると共に、爆弾ノ発も前部に命中したので、同艦前部は爆発し火焔に包まれた。

オノ機は舷側鋼板と隔壁ヲ破れ貫き、ホソリン管を破壊し、格納庫で爆発して、飛行機とかソリンに燃え引火し、搭載爆弾は水線下に穴を明けた。

オノ機は発着甲板に命中し、これ又ホソリンの飛沫を撒き散らした。

オノ機は至近水中に落ち、搭載の250kg爆弾の爆発で、船体に40呎の穴を生じた。

この時局を受けて応急班は火災のControlに成功したが、夕刻300kg爆弾ノ発が以前の爆発の直後に命中し、5甲板に直

つて至近の頃のギザギザの穴を明け、火災は又猛烈となった。

本艦は最も猛烈な特巧攻撃を受けた母艦であり戦死ノ10、戦傷ノ80を出した。

(5) ランドルフ(45.3.11 ウルシー)

夜間、既而艦員中、奇襲の特攻機ノ機が命中し、この時局火災が荒狂い、漸く応急班は消火に成功したが、戦死2名を生じ、工作艦で修理に3週間を要した。

(6) バンカーヒル(45.5.11 沖縄西)

ス機の命中により火災が燃え、ミッチャーの乗員ノ名を含め、4名が戦死し、264名が負傷し、ピューゼットサウンドへ帰航を余儀なくされた。

(7) エンタープライズ(45.5.11 沖縄西)

前部昇降機にノ機命中貫通し、ピット中で爆発し昇降機は数百呎吹上げられ、火災はピットから格納庫へ延焼したが、最も有効な防火処置により30分で鎮火した。

(8) 英インホイフアティカスル(45.4.1 沖縄西)

ア機が甲板にノ機命中、戦死ノ4、戦傷ノ6を生じ、少時局発着甲板は使用不能となった。

英空母は発着甲板が鋼板であつて、特巧機に容易に傷められた。

(9) 英、フォーミクスル(45.5.4 沖縄西)

ノ機の命中により艦力はノヲ大尤に落ち、次でノ機が発着甲板へ命中し、5名が戦死した。

その他、ク豊かな被害を受けたが特記事項はない。

3. 小型航空母艦

(1) ガボット(44.11.25 比島沖)

発着甲板、艦カタパルト前方にノ機が命中し、発着準備中の雷電機のスロペラをへし曲げた。

その他、サンシメント、ヘローウッドについては詳細不明である。

4. 護衛航空母艦

(1) スワニー (44.10.25 比島沖海戦)

0759特攻機が命中し、格納庫を爆発、大被害を生じた。大破孔のため一時宙を要して漸く戦列に復帰した。

(2) マニラベイ (45.1.5 リンガエン)

オノ機がアイランド艦橋基部に命中し、蒸気所甲板を貫通し電信室を炸裂し破片は格納庫に飛散して燃料負荷搭載済の飛行機に引火、怒ち火焔に包まれ戦死ノ5、負傷ノ5を生じた。

オノ機はノ5秒台甲板上を擦過して海中へ落ち、爆弾が爆発したが、小被害を生じたのみであつた。戦列復帰には24時間を要した。

(3) ガダシマンベイ (45.1.7 リンガエン)

ノ機が燃えつゝ命中して、煙と蒸煙が上り船が沈下し、着艦不能となり、復原力も危険となつた。カソリン系統も破壊された。

応急班は水鏡付近にノ5ノに亘る破口を堵塞し、カソリンポンプ室を空にすることに成功した。

其の他の母艦については詳細不明である。

5. 重巡洋艦

(1) キマツバラ (44.10.13 台湾東オ)

船にノ機が命中し、后部煙突附近より火焔の蹶が上り、砲員を焼死した。次で真面が爆発し西機載室及びスツの缶室に浸水が拡大し、全動力は停止、航行不能となつた。応急班は浸水附近の区劃に対し迅速に補修を行った。僚艦ウイタタに曳航され3ノモの速力で油の尾を引きつゝ、ノ300距離れたウルシーへ退避した。

(2) 豪オーストラリア (45.1.5~9 リンガエン)

5日、オノ機が中央煙突に命中し、戦死25、戦傷30を生じた。

6日、オノ機が命中し、死傷40名を生じた。

8日、更に2機が命中、

9日、オノ機が命中し、前部煙突は吹飛んだ。

(3) ルイスウイル (45.1.5~6 リンガエン)

5日、ノ機がス番煙塔に命中し、猛烈な爆発により乗組は全滅、戦死ノ、重傷艦長以下5ヲを出した。

6日、信号艦橋にノ機が命中し、発動機はノ番煙突へ飛込んだ煙塔爆発のノツは40発砲上で炸裂し、砲員は総員戦死した。他のノ塔はオーブンブリツダの高さで炸裂し、同所及び信号艦橋より火災が起り、全前橋は火焔に包まれた。火災は激次火薬庫へ迫り、応急班員は必死の活躍をしたが、艦の後半部は煙とペイントと肉の焼ける悪臭で一杯となり、砲員は呼吸困難となつて砲の操作は妨げられた。激次火は下火となり物凄い板片付が始つたが、負傷者ノ55名は病室に収容し切札が居住区に溢れ、艦は戦闘力を失つて安全水域へ退避した。

その他の英5隻の状況は不詳である。

6. 重巡洋艦

(1) ナシユウイル (44.12.13 ミンドロ)

艦橋直上部の構造物に特攻機ノ機が命中し、カソリンの火焔は怒ち艦の底を覆ひ、乗員の底ヲ55名が倒れ内ノ35名は戦死した。附近にあつた540発、ス0発の弾薬の誘爆が相次ぎ、レーダー 電信は全滅した。大被害にも拘らず応急班の活躍は目覚しく、ホースス0本を切るものは、前橋と同高差引いたので、火災は10分間で下火となり更に10分台には鎮火した。しかし艦橋の通信装置は全滅し、同乗のマリンも41名中28名が戦死ノ0名が重傷という大被害を受けた。

(2) エロンビヤ (45.1.6~9 リンガエン)

6日、特攻機がノ機、前部煙塔を突抜け、レーダー、電信のアンテナを切つて艦橋至近の水中へ落下した。

次で爆弾が命中し船は故障大災災となり、主及びオノ甲板に燃え続け、オノオム砲塔火薬庫には重油と海水が浸入逐伍し、死者ス0を生じた。

9日更に特攻機ノ機が命中、大火柱を上げた。

デンプアー、レノ、ピロキシー、パーミンカム、については詳細不明である。

ク、駆 逐 艦

(1) スミス (42.10.26 南太平洋海戦)

被弾した雷電機がス番砲の旨に命中し、艦橋甲板を粉砕し艦橋員は退避した。

恣意砲が現場に到着した時真雷が爆発大火災を生じたが、サウスウタ直後の Wake 中に積を突込んで消火に成功した。

(2) アンカーソン (44.11.1 比島沖)

ノ8ノス、内火艇にノ機が命中したが、内火艇が爆風を吸収し缶室に被害があつたのみである。続いて大火災となり真雷も投棄したが、自力航行で帰国した。

戦死ノ8、戦傷ノ1

(3) オーリック (44.11.29 比島沖)

ノ機がSCレーダーのアンテナを引掛けて艦橋スノマードに落ちてから、他のノ機がマスト船より艦橋風除けに衝突し、飛行機は主甲板上で、搭載爆弾は士官室を炸裂し、上部構造物に大破口を生じ、戦死3人、戦傷64を出した。

(4) ソープレー (44.11.29 比島沖)

ノ機が至近に落下した後、60秒を至て艦前部ポートタビットにノ機命中し、ノク59更に艦後部至近に爆弾2発が落下、船ウエハーホックに遺状の水が落下し、多数の兵員が負傷し、サンペト口港へ退避した。

(5) マクフォード (44.12.5 比島沖)

艦にノ機命中戦死ノ1戦傷(全部火傷)ノ6名を出し、大火災が起つたが30分後鎮火した。

(6) ラムソン (44.12.7 比島沖)

前部煙突にノ機命中し、大火災が上部構造物を覆ひ総員避難しようとしたが、救難タケの機助で消火に成功した。戦死2人、戦傷50。

(7) ヒューズ (44.12.10 比島沖)

艦中部にノ機命中、ホソリンと破片の両で大破し、戦死ノ8、戦傷ノ2を出し曳航された。トツブサイドの人員はヘルメット、ライフジャケット、長袖の被服を着けることを強調された。

(8) ガール、D、ハウマイスター (44.12.10 比島沖)

缶室に特攻機が命中、大火災と共に蒸気管が破裂した。缶水保のノ兵曹は前機に於て破裂したものと見て、給水弁と消防主管中開弁を止めようとした。しかし弁が破壊されて居るのを見て前部缶室へ入ろうとしたが既に機は燃えつゝあつた。それにもめめホソ人々に前部の機用科員に被害を報じ、缶室へ行くすべてのものを止めよと叫び、荷も缶室に引返し防火に従事しようとしたが、艦に敵の火を消すように制止され遂に倒れた。此の勇敢な行爲により、本艦は救われた。

(9) ゴールドウエル (44.12.12 比島沖)

ノ機が煙室へ命中、大火災が上部を包み、前部砲は作動不能となつたが、自動航行は可能であつた。戦死3人、戦傷36。

(10) ハンズワード (44.12.17 ミンドロ)

中央部に特攻ノ機が命中機庫室は大破し砲は殆ど破壊された。火災、爆発が相次ぎ艦は傾斜坐洲し放棄された。戦死ノ6、戦傷ノ5。

(11) ウォーキ (45.1.6 リンガエン)

艦橋にノ機命中し火煙は上部を包み、艦長以下ノ2名が戦死、35名が負傷した。

(12) アーレン、M、ガムナー (45.1.6 リンガエン)

缶室発射管へノ機命中し、航行不能となつた。同日多数の特攻被害中本艦が最大で、戦死ノ4、戦傷29を出した。

(13) リチマード、P、リーリー (45.1.6 リンガエン)

夜発特攻機が命中し、上部構造物は吹飛ばし、前部5砲を破壊された。

(14) マドックス (45.1.21 台湾南西)

主甲板にノ機命中大火災を生じたが直ちに Control され、戦死
ク、戦傷者を出した外大きな被害はなく、ウルシーへ帰着した。

(15) ハルセイポウエル (45.3.20 沖繩周辺)

ハンゴツクの船から給油機付を離そうとした時、特攻機の破片
と発動機が艦に命中し、舵取室を大破しケースルを切つたので操
舵の自由を失い、ハンゴツクの船に衝突船から艦へ切断した。

(16) キムベリー (45.3.25 沖繩周辺)

3.4番砲台にノ機命中し、5'x 2'内は使用不能となり、40耗
ノノクは飛散し乗員のノ8%は死傷して砲力は30%減少した。
レーダー及び砲戦指揮の予備品は破壊され、発煙器及び圧縮空気
系も損傷した。重油サービスタンク2個は破壊又は堵塞した。火
災は応急班の迅速な行動により5分で鎮火した。

査義員ノ名は戦死したか、予め救急訓練が徹底してつたため、
砲員、レーダーマン等により57名の負傷者は適切な処置をされ
た。

機刺長と甲板士官との間には華前連絡があり特攻機が現れたら
機刺室の通風を閉じること、又その耗機銃が鳴れば令なくして通
風を止めるようにした。よつて砲員は火傷を免れた。

艦は3日ウルシーへ帰った。

(17) ハイマン (45.4.6 沖繩周辺)

水雷砲台にノ機命中大火災となり、爆弾及び魚雷が誘爆し上赤
毒塗を大破した。特攻機の発動機は主甲板を貫通し、前機を破壊
したが、自力で慶良間泊地へ帰り、ノ4日サイパンへ向った。

(18) ミエラニー (45.4.6 沖繩周辺)

艦尾部艦橋へノ機命中、火災爆発が続いた。爆雷は示熱したが
全防火施設は破壊又は使用不能となつて注水出来ず、24分後よ
り爆雷の誘爆が相次ぎ、上部構造物は寸切れ破片は艦橋迄飛んだ。

次で内部爆発より艦内は火と化し、弾薬庫の隔壁が熱して爆発
の危険に晒されたので総員避難が令せられた。

機艦パーネイは損付してホースを渡し、サルベージクルーが

甲板下へ突死突入して消火に掛つた。

翌朝早く前赤前機に吉直員が下り、ノ、2号缶に突火し得るよ
うになり、75分後艦ノ垂運転、人カ操舵により辛うじて慶良間
泊地へ辿り着いた。

(19) ニューコム (45.4.6 沖繩周辺)

尾部煙突にノ機命中、缶は破裂して蒸気噴出、煙力は低下した。
ダ砲の機装置に火災を生じた。

次でオス機が魚雷調査場へ命中、以上ス機によつて西機滅皇及
び尾部缶はスクラツると化し、航行不能となり、尾部煙突、西
重等、40耗砲台及び弾薬庫は全壊した。

オノ機命中後ノノ分で又々オス機が尾部煙突に命中し、カソリ
ンと金魚の両を降らせ、艦全体が炉のように燃えた。

機艦ロイツが救済に到着したが、之をまた特攻機にやられ、次で
駆逐艦ビールが本機のホーズを渡し、30分以内にさしもの大火
災も漸く下火となつた。最後にはバケツリレーが試みられ、遂
に応急成功し、負傷者を救済し、慶良間泊地へ曳航された。

(20) ロイツ (45.4.6 沖繩周辺)

艦にノ機命中大爆発し、直ちに舵故障となり、艦は吹飛ばし、出
し得る速力は5ノオとなつた。水線附近に破孔を生じて海水が増
加し、上部重量物の投棄にも拘わらず、艦は水中に没つたので、
更に爆雷、魚雷、燃料を捨て、漸く30分後浮力を回復し、慶良
間泊地へ曳航された。

(21) モリス (45.4.6 沖繩周辺)

ノ、2番砲台にノ機命中して爆発し、艦は吹飛ばし大火災となり
全艦炉のようになったが、2時前余の応急班の活躍で消火に成功
し、修理も順調に進み、自力で慶良間泊地へ帰った。

(22) ホワース (45.4.6 沖繩周辺)

ノ機がスツの煙突間を通り、アンテナを切つて至近に落下した
後、別のノ機が舵を擦り、ライフラインを切つて水中へ飛込んだ。
最後にノ機が艦に命中して、艦橋はカメリンの火の雨となり操

(22)

艦のコントロールは失われた。

赤急班は直に消火に掛ると共に後部操舵となり、操艦は副指揮所より行われた。

(23) ハインズワース (45. 4. 6 沖縄周辺)

通信室へ燃えつゝあるノ機が命中し、上部構造物は火に包まれCICも大破、砲は多数破壊されたがノ分団火と斗つてこれをControlし、修理のため本国工廠へ向つた。

(24) ベンネット (45. 4. 7 沖縄周辺)

機銃室後側にノ機命中、大破口を生じて大破し、慶良間へ帰航された。

(25) クレゴリー (45. 4. 8 沖縄周辺)

ノ機の至近落下により舵艙に有蓋貨重籠もある大破孔を明けられ、前底、前機は引水浸水したが、赤急班が亀裂を塞ぎ、排水に努め、慶良間へ向つた。中部には大火災が起つた。

(26) キッド (45. 4. 11 沖縄周辺)

水線部に特攻機が命中し前底に飛び込み、火災浸水が起つた。艦長は負傷し、その他人員被害が大であつたにも拘らず、自力でサウスシーへ帰つた。

(27) スタンレー (45. 4. 12 沖縄周辺)

船艙に桜花が命中し、上部を一掃され、艦は吹飛ばされた。

(28) ラファイ (45. 4. 16 沖縄周辺)

本艦は最大の特攻被害を受けた艦である。当りそこねも合すると合計9機の攻撃に耐え抜いた艦として、戦史に名を飾つている。即ち1機は至近に落ち爆発し、その爆風で射撃用レーダーが使用不能となつたのを皮切りに、0845、1機が船艙に命中し、内火艇附近を廻つてスロ耗機銃に当り、ガソリンの筒を降らせ大火災が起つた。同時に艦数マードにノ機続いてノ機が至近に落下した。

次の命中機は後部3番砲に命中大破し、後部デッキハウスも大破、甲板はガソリンの火の海となつたので、艦長は減速を命じた。

程なく船クォーターにノ機と同じ砲塔にノ機が命中し、後部は爆撃を艦に浴し、水線下に弾片多数による破口を生じ、火は完全

(22)

に上部構造物をなめた。

以上の直ぐ世のノ機が又々急降下により爆撃を艦中室に命中させ、爆風によりスロ耗機銃は爆発して舵取機を破壊し、取舵一杯で艦は停止した。

赤急班が防火にかゝつてゐる間にも攻撃は止まらず、射重も続けられたが、更に2機が後部デッキハウスに命中、次で土官室にも爆撃が命中し、レーダーは破壊され使用不能、40mm砲台も全壊し、燃した程葉の投棄に乗員は心死の活躍をした。ノ太尉は卒先陣と浸水の舵取機室に入つて艦を操作しようとしたが、他の爆撃ノ機(不発)が命中して企図を放棄せざるを得なくなった。3番砲塔乗員は殆ど全員戦死を返す。赤急班も後部ハウスで殆ど全滅し、火災は燃えるが艦に任すより外手はなくなった。SCレーダーのアンテナ及び艦のマードとSGレーダー送受信は吹飛ばされ、戦闘機は落下した。

次で爆撃ノ機が船マードをかすめ取り燃えつゝある上部構造物を爆発し、更にノ機はスロ耗砲台を吹飛ばした。最後にノ機が艦に至近爆発したのを以てケタ分団の死斗は終つた。此の間凡ゆる幾箇のコンビネーションを試みられ、南へ脱出を圖つたが艦破壊のため不可能に終り、最後には砲も手動で発射したが、遂に生残り約100名の死傷者と共に慶良間へ帰航され、6日自力でサイパンへ向つた。

此の戦斗により凡ゆる形式の防火受具の必要が痛感された。

(29) スリアント (45. 4. 16 沖縄周辺)

艦にノ機が命中して通信室、レーダー、艦橋を粉砕され、殆どの土官が戦死し或は重傷を蒙つた。

隊司令のノ大佐は敢然乗員赤急班として防火に当り、舵取機室へ避難によつて操艦のコントロールを行い、海図は全焼し短艇羅針儀のみを頼り慶良間へ帰つた。

(30) ハーモインズ (45. 4. 16 沖縄周辺)

命中機により舷側にスロ吹の大火が明き、キールは曲り、5機

で慶良間へ辿り着いた。

(51) ハナルヴァット (45. 4. 29 沖縄周辺)

オノ機は4番砲を撃つて海中へ落下した行、オス機が後着弾突に当り、回転してノ番砲突に当って主甲板に落下、艦橋基部に墜んだ、爆弾が炸裂しホソリン火災は上部構造物を覆い、マストは倒れ、焼けた破片の雨下により前部砲は使用不能となった。艦長副長以下士官ノ名が戦死し、予備中尉の機長が指揮をとり消火懸命に努めた。最初発見されたが、機長の給電を得て真夜中に4番砲に炎火、翌朝自力航行可能となった。既に艦橋はなく上部構造物の残墟の中で乗艦、慶良間へ帰投した。

(52) ハドレー (45. 5. 11 沖縄周辺)

特攻機はノ機が艦、他のノ機はリギンに命中、投花爆弾も加わって大破孔を生じ、機銃室2、缶室ノに浸水傾斜した。弾薬も誘爆して甲板は破壊物が充満、足の踏み場もなく、黒煙火焔に包まれ乗員の恐れを生じた。サルベージクルー約50名の外退艦し、残者は防火防水に努め、負傷者の世の重傷物を投棄し傾斜を復元しようとした。結局沈没を免れ伊江島へ帰航された。

(53) エヴァンス (45. 5. 11 沖縄周辺)

オノ機が艦橋に命中破孔を生じ、オス機は水鏡下に命中、爆弾が乗員が後着弾入って爆発し、航行不能となった。

ズ分台オノ機が着弾所へ、次でオス機が艦側へ命中、搭載爆弾は主甲板を貫き、前部缶室に入って炸裂し、ズ缶共爆発、大シエックと共に艦は停止、灯火、動力、蒸気、消防主艦圧カ何れもなくなくなり、通信装置も破壊された。バケツリレーとハンホイペリーで奮闘し、伊江島へ帰航された。

以上の外、数十隻の特攻被害は詳細不明である。

8. 護衛駆逐艦

(1) フィーバリンク (45. 4. 6 沖縄周辺)

特攻機にレーダーアンテナをさらわれ、レーダー全部を破壊され、辛うじて逃れた。

(2) ホワイトハースト (45. 4. 11 沖縄周辺)

CICへ小型爆弾及び特攻機が命中し、艦橋全部が火に包まれCIC艦橋は総員戦死した。電

通信室、下部甲板、前部砲員も殆ど戦死又は重傷を負ったが、残る乗員は懸命に活躍し、艦は救われた。死37名、傷37名。

(3) ハ、インタランド (45. 5. 9 沖縄周辺)

蒸気台方にノ機命中爆弾が炸裂し、上部構造物は煙と火に包まれ、艦橋士官室、艦長室、CICは焼失した。スルベージュに懸命に消火に当たり、主甲板からホースで上部の人員の被服の焼けるのに放水した。

しかし奥の方に入った火災は夜半迄消えず慶良間へ帰航され、レイテに至るまで帰国したが、損傷が大なるため除籍された。

その他数隻に関しては詳細不明である。

9. 高速掃海艦

1. リンドセイ (45. 4. 12 沖縄周辺)

前部に命中した特攻機により、船は艦橋迄吹きまくられ、5'砲は艦橋窓ガラスに打穿った。士官室のリネンがリギンに引掛り、CPOの制服が後部煙突にぶら下るといふ奇態を演じた。

その他数隻については詳細不明である。

10. その他の艦艇

何れも詳細は不明である。

カヲ章 水上戦斗によるもの

1. 戦艦

サウスダクタ (42. 11. 14 オノ次ソロモン海戦)

0/00より集中射撃を受け、戦艦及び巡洋艦よりの命中弾が相次いだ。前橋部は大被害を受け、銃と通信装置を破壊され火災を生じ、0/45には乗員4へ5本が命中し大破した。3夜台は使用不能となり約40名が戦死したが装甲は4'スチールに耐え、

応急班も消火町塞に活躍したので、漸く危地を脱することが出来た。

2. 護衛航空母艦

カンニンベイ (44. 10. 25. 比島沖海戦)

0830迄に15発の命中弾を受けたが、何れも敵甲弾のたけ貫通して炸裂せず、被害は大きくはなかつた。

ファンシヨーベイも同義である。

3. 皇 空 母 艦

(1) シカゴ (42. 8. 9 オマハ沖海戦)

船前部に93奥雷が命中し数区劃に浸水し、機銃はスズメオを返し得る被害であったが、補給完成後も船体損傷に不安があり、ノズメオに落ちた。前橋基部も砲弾により被害を受けた。

(2) ポートランド (42. 11. 12. オマハ沖海戦)

93奥雷ノ本により大破口を生じ、推進器ノ側は歪曲し、舵故障のため翌朝迄旋回運動を続けた台艇区艦によりツラギへ曳航された。

(3) サンフランシスコ (42. 11. 13. オマハ沖海戦)

0100噴空襲により数ヶ所火災を生じ、右部上部構造物とZO耗3門を大破、戦死30を出したが、火災は直ちに消火された。

次で0156比敵より命中弾を受け、0200には同じく比敵の青射弾を受けて艦橋は粉碎し、アドミラルカラガンは戦死した。全部で主砲弾ノ5小口至多数を受け、スズメオ所の火災により事態は悪化した。

(4) ミネアポリス (42. 11. 30. ルンガ沖海戦)

スズメオ艇区艦の奥雷がノ番砲塔とオマハ室に命中し、航空機油庫にも入り、長い火焔が上部構造物をなめたが、水柱がその上に落ち大部分は消火した。しかし航海艦橋は水浸しとなり、カソリンの焔と煙は艦を覆った。

ノ番砲より前部は千切れて垂下り、海水はノズメオ室へ奔入し、左室員は戦死又は退避した。

ノノ青射した台全砲台への動力は止り、舵も故障して落伍し、後艦であつたのでホノルルへ指揮を護った。

(5) ニューオルレアズ (44. 11. 30. ルンガ沖海戦)

被雷により彈発油庫及び前部火薬庫が誘爆し、ス番砲より前部は吹破んだ。艦橋機銃室向の通信は杜絶し、舵も故障となり、スズメオでツラギへ辿り着いた。

(6) ペンサコラ (42. 11. 30. ルンガ沖海戦)

艇区艦に被雷し、重油タンクのため直ちに火災となったが、応急班は死傷しホースも引火した。

ノノ隻の傾斜をしたが反対舷へ重油を移動して修正し、重荷物投棄も行われた。舵は故障し遭難による後部操舵を行った。右舷へは竜のような水柱が落下した。

火災が下火となり鎮火するまでに4時間を要した。

(7) ソルトレークシティ (42. 3. 27. アッツ沖海戦)

砲戦開始30分前0910前後部に2発が命中した。ノは水浸下を貫通して軸室を爆発し、亀裂及び捲込みを生じ軸室より機銃室へ浸水した。

他のノ発は揚筒機附近に命中し艦に浸水を生じた。又右舷の爆風で舵故障となり後部操舵とされた。

ノノ58次の命中弾により船カタパルトは大破、飛行機が炎上し海中投棄され、戦死2、戦傷4を出した。

応急班は活躍したが機銃室は浸水と粘り油が主になり、主機銃の下に直つて尚も増大し艦へ4へ5°傾斜した頃遂に後部は停止した。

ノノ30排水は完了しノノ40から機銃科員は3機運転とすべく努めたが浸水は重油タンクに及んでノノ又ノノと主は消火し、ノノ55全く機銃は停止した。

機銃員は復旧に懸命となったが、遂にノノ00過ぎに除航を開始、危地を脱した。

(8) ペンサゴラ (45. 2. 17 硫黄島)

硫黄島砲台よりの命中弾によりCICを破壊され、予備指揮所と艦カタパルト上の飛行機に火災を生じ人員被害も大であった。

サボ島沖夜戦のソルトレークシテイ、サンフランシスコについては詳細は不明である。

4. 駆逐洋艦

(1) ボイス (42. 10. 11 サボ島沖夜戦)

8" 砲弾の命中により艦長室より大火災となった。前部砲塔に引続き、2.3弾を受け、射撃を中止して応急計画を立てた。

更に8"ノ発は水中弾となり水線下9'より火薬庫に至り甲板へ跳上りて爆発した。

別のノ発はノ番砲塔内の砲室で半ば表裏中の装薬を散乱させ、5.6人が逃げ出したがその内に爆発は火薬庫に入り前右方向に被害を拡大した。

次で艦はノ番砲塔に上り3番砲塔火薬庫にも入り、ノ番砲塔内の残存者は全員戦死した。

前部の大浸水にも拘らず、艦橋では6〜7呎沈下するまで気付かず、オ2甲板の応急班は衝撃、窒息、ガスにより多数戦死し、作業を中断させたが、0240迄に20ノ発砲撃可能となった。

戦死は107名に達した。

(2) ホノルル (43. 7. 12 コロンバンガラ)

艦橋に駆逐艦の魚雷が命中し、艦は4' 浮上った。更に艦に不発魚雷1本を受けたが、航行には支障はなかった。

その他9隻については特記すべきことはない。

3. 駆逐艦

(1) ラルフタルボット (42. 8. 8 オノ次ソロモン海戦)

最初ノ発がノ番砲塔に命中2名が戦死した。

続いて海田室に夕張の砲弾が命中し、砲の自動追毛装置を破壊した。

土倉室、発射管、右部5" 砲は粉碎され、動力は止まり、操舵

不能となり、20度の傾斜を生じた。

戦中は短時間であったので、終了後右部ボイラの左方を上げて火災を消火した。

戦死14、戦傷23。

(2) ファレンホルト (42. 10. 11 サボ島沖海戦)

缶室に6" 砲弾が命中し、ノ号缶の主蒸気管が漏洩した。2号缶の圧力を保持し、重油以外を交通し、一時航行不能であったが0240頃自力航行可能となった。オ3弾は艇水線部に命中したので、艦を船に傾斜させて浸水を防いだ。

(3) スタレット (42. 11. 13 オノ次ソロモン海戦)

0211. 5" 砲弾数発が艦橋に命中し、更にノ発の命中により予備弾薬が誘爆、砲は2門を残し使用不能となり、発射管中の魚雷も破壊され、前橋は吹飛ばし、舵も故障した。

(4) フロンウオード (42. 11. 13 オノ次ソロモン海戦)

0210頃から14". 8" の命中により機関室に浸水し航行不能となった。

別に小口至弾の命中により、笠、探照灯、レーダーアンテナ、レーダー室を破壊され、戦死15、戦傷57を出して落伍した。

(5) バイレイ (42. 6. 27 アッツ沖海戦)

1200頃オ1弾を受け、戦死5、戦傷4を出したが、貫通して爆発せず、その後の命中弾によりノ機関室は浸水し、船体は破孔を多数生じ、副長は重傷を負った。

(6) タウイン (42. 6. 30 レンドバ)

ムンタ砲台より4.5" 2発射が右部に命中し、右機は使用不能となり、戦死3、戦傷7を出した。

(7) セルフリッツ (43. 10. 5、ベララバラ島沖)

魚雷が両舷より接近命中し、艦は切断艦橋より前部は大破し、ノ機動力は停止した。応急班の活躍により缶室前部隔壁の補強に成功し、機関は低速航行が可能であった。

(8) フェルリス (44. 6. 18 サイパン)

0540 海岸砲台より中口至砲弾が副長室に命中し、続いて2番煙突附近へノ弾を受け、缶室を大破。戦死ノ戦傷ノクを出した。缶室は怒り蒸気と煙で充満したか、負傷したノ兵員が兎く蒸気消火の手荒を早した。尚も砲撃は継続したが、数分間圧力が下り航行を停止した。

(9) A. W. グランド (44. 10. 25 比島沖海戦)

両舷に命中弾を受け大破した。即ち0407オノ弾が右部の空火薬缶中で爆発したのを皮切りに、30秒後数発が中部に命中し前部煙突より蒸気を噴出した。

0408オノ 更に前部木製に命中弾があり、前部倉庫及び前部兵員室に浸水した。ノ道40発砲に命中したノ弾は倉庫を誘爆させ、火災を発生した。

引続き僅かノ分以内に前部煙突、舷内火銃、享炊所、食器消毒室、右部兵員室、前機に各ノ発が命中し、又舷内火銃を貫通したノ弾により、軍医長、電信員各名及び中部応急班員ノ殆ど全員は戦死を遂げた。全灯火、電話、レーダー、電信は一瞬にして止り、右部艦艇としたが固もなく航行不能となった。戦死は45名、重傷は50名に達し、艦艇=エーコムは軍医長を送り込ませ脱出した。

その中機長は蒸気充満の缶室に突進し、手探りでノ缶使用可能を発見し、航行可能とした。

战斗中右部応急班長は前機の安全弁が吹く音を聞き、弾雨を昇して上甲板から安全弁を閉じ、前缶前機左室のノ2名以上の生命を救った。

応急班はマットレス、テーブル等を用いて船体20の大破孔用塞に大量の活躍をした。

(10) ポーターフィールド (45. 2. 25 硫黄島)

監視艇より数発の命中弾があり、無線電話、レーダーを破壊され、戦死ノ4を出し、ウルシーへ帰った。

(11) エルホーン (45. 3. / 硫黄島)

2番煙突に陸上砲台の6" 砲弾が命中し、弾片は奥雷の気室を爆発させ、それによつて相当な被害とノ6名の負傷者を生じた。

(12) テリー (45. 3. / 硫黄島)

船の前機上に陸上砲台の6" 砲弾が命中して船機を破壊し、戦死ノ1、戦傷ノ9を出した。破孔のパッチは3日になつて漸く完成した。

(13) チャールズ、J、バトカー (45. 4. 9 沖縄沖)

襲撃の命中により大破、船体の歪み及び破壊により右部缶室より右機へ漏水し蒸気が噴出船機も使用不能で航行不能となった。5シーカー、ソナー、ジマイロは破壊された。右部のポンプは全部破壊せられ、残存の消防兼ビルダポンプの全力運転により浮力を保ちつゝ慶良間へ脱航された。

(14) ロイツ (45. 4. 17 硫黄島)

樺太山砲台の3.8" 砲弾がノ番煙突船に命中破孔を生じ、破片は艦橋に飛び、艦長は重傷を負った。前部40発表弾室に危険な火災を生じた。砲員がホースを引き弾薬室の扉を閉じて消火し熱い火薬缶を舷外に投棄した。ノ8日より戦艦=エーヨークと共にウルジーへ向った。

残るノ9隻については詳細不明である。

その他の艦艇

DE、LST、LSM、LCI、LCS等に各数隻あるが、何れも特記事項はない。

オム章 潜水艇によるもの

ノ、戦 艦

ノースカロライナ (42. 9. 15 ソロモン)

伊ノ5の奥雷が命中し艦に大穴が明き戦死5を出したか、尚25トンの砲弾が可能であつた。

2. 航空母艦

(1) サラドガ (42. 1. 12 ハワイ南西)

伊6の魚雷ノ本が命中し戦死6名を出し、機庫室ヲケ所に浸水したが自カで真珠湾に帰航し、応急修理后ルレマートンへ回航修理の上、8月ル島戦に参加した。

日本側では沈没と判定してゐる。

(2) サラトガ (42. 8. 31 ソロモン)

0746 伊26の魚雷が命中したが、船体の被害は大ではなく、缶室浸水電力は停止しフレッチャー大將及びノノ色が負傷したが、無事基地へ運送し得た。

3. 護航航空母艦

サンデイ (44. 10. 25 比島沖海戦)

特攻機ノ機が昇降機の前に命中爆発して数分后伊58の魚雷が命中したが、ノ時向后には早くも全運送可能となつた。

4. 駆巡洋艦

レノ (44. 11. 3 比島周辺)

2330 被雷、艦へ傾斜操艦不能となり、后部缶室、后部機庫室、兵員食堂の一部及び兵員室数ヶ所が浸水し始めた。

多くの短船により火災が発生した。
翌朝、艦は9° 沈下したが、必死の排水作業で傾斜7度に戻元その右舷水平に復し喜んで瞬間、急に右へ20度の傾斜となり、自航2隻の救援により、颯風に燃まされつムールシーへ運送した。

5. 駆逐艦

レンシヨ一 (45. 2. 21 スピック湾)

呂号又は特殊潜航艇の魚雷が中部に命中し、柄機及び缶室を大破、全動力は停止した。

魚雷、爆雷、上部の弾薬及び重量物の墜命の投棄により沈没を免れ、レイテへ曳航された。

オ5章 機雷によるもの

1. 駆逐艦

(1) アスナーリード (43. 5. 18 キスカ港口)

浮游機雷が艦で爆発し、艦が切断して断次沈み、断く沈没を免れた。后部に格納の化学FogのFS液(SO₂とクロルサルフォニツク酸、フォスゲンに類似)が溢れ、その臭気が充満し、后部の人員は呼吸困難となつた。僚艦に曳航され基地に歸つた。

戦死7ノ、戦傷34

(2) ワドレイ (44. 9. 15 エソル水道)

艦に魚雷し前機を大破、艦は破壊され動力は停止し、5度傾斜して曳航された。

戦死3、戦傷15

(3) ロス (44. 10. 19 レイテ湾)

0113オノ目の魚雷により、前缶及び機庫室が使用不能となり、数名が戦死した。

0115オ2回の魚雷により后機庫室サービスタンク、居住区糧食庫、木工場が浸水、ノ4度の傾斜を生じ、艦后部は水中に没り、多数の死傷者を出した。上部重量物を撤去し、放棄準備まで行つたが、その計画は取止め、曳航されて木モンホン島に到着し、応急処置の結果傾斜は5度に戻元し、艦を水面よりノマク上に出すことに成功した。

その時空襲を受け、至近弾ノ発により重傷2名と小破口数箇所を生じた。

2ノ日迄に5° 2桁、40耗、20耗の殆ど及び益、石ロツトは作動可能となつた。

27日迄の死者は23名に達した。

本艦は20年初頭、真珠湾へ曳航された。

(4) ジエンキンス (45. 5. 1 タラカン)

左前部に魚雷、電力を喪失し、マスタージャイロ、ソナー、ロタ、シガウシタ装置、SCレーダーが使用不能となつた。12時

(232)

固后ノOKヲ航行カ可能トナツタカ、戦列には復帰出来なかつた。

戦死ノ、重傷ノ名。

その他の4隻については詳細不明である。

ヌ、その他の艦艇。

特殊艦艇を除いては敵艦の記録は見当りない。

編さん記録

編さん者

才4期甲種特修科学生

3等海佐 松代格三

529

102



158-107

0-05
254
1

請求 番号	2-05-250 1	登録 番号	丙 4177
著者名	2等海佐 大迫吉二		
書名	戦史 艦内隊御参考書 大東亜戦争中の水上艦艇戦斗被害集計		
所属	帯出者氏名	貸出日	返却 予定日 返却日

丙 4177